

近中四農研年報
Ann. Rep. West. Reg.
Agric. Res. Cent.

近畿中国四国農業研究センター

年報

平成 23 年度

Annual Report of
Western Region Agricultural
Research Center

2011



NARO

農研機構

独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構

近畿中国四国農業研究センター

はじめに

(独) 農業・食品産業技術総合研究機構は平成 23 年度から新たな中期目標に基づく 5 カ年の第 3 期中期計画を開始した。第 2 期中期計画期間では、研究所長をトップとする研究チーム制をとり、試験研究を実施してきたが、成果の外部への説明責任をより明らかにするため、第 3 期中期計画期間では、農研機構に課せられた研究問題を大課題、中課題として整理して、14 の研究所間の連携を大幅に強化した課題設定とし、課題の解決に必要な研究職員と予算を配置するプロジェクト・プログラム型の研究推進を行うこととした。

このようなプロジェクト・プログラム型の研究を実施する研究所の組織体制として、近畿中国四国農業研究センター（以下、近農研）では 6 つの研究領域を設けた。さらにそれぞれの研究領域における研究推進、若手研究員の養成、施設・機械の管理、推進会議の対応、外部との窓口対応、勤務管理などを円滑に進めるため、研究領域の下に複数の研究グループを設けることとした。

第 3 期の中期目標期間中、近農研は、中小規模水田における輪作技術、飼料稲や牧草などを利用する牛肉生産技術、日光温室などの施設園芸技術、カンキツの高品質安定生産技術、環境負荷物質の動態モデルと環境負荷の評価法、土壌病虫害防除と耕種の防除による環境保全型野菜栽培技術の 6 つの中課題について戦略的に重点化して取り組むこととした。これらはいずれも近畿中国四国地域における農業問題として地域性の高い研究課題である。

そのほか、米粉など加工業務用の多収水稻品種や消化率の高い多収飼料稲品種の育成、高品質のパン用・めん用小麦品種の育成、用途別の高品質安定多収の大麦品種の育成、機械化栽培に適した豆腐用の大豆品種の育成、食品機能性成分の研究、水稻の高温障害など地球温暖化適応策、鳥獣害対策などの中課題も担当することとした。これらも農研機構ならではの最先端の専門性に富む研究課題である。

新たな中期目標に基づくこれらの第 3 期中期計画は、農研機構の職員に与えられた使命（ミッション）と言ってよい。このミッションに対してどのように達成するのか、取り組むのか展望、構想（ビジョン）であり、そしてミッションに取り組む姿勢として望まれるものが情熱（パッション）である。近農研では第 3 期中期計画期間中このミッション（M）、ビジョン（V）、パッション（P）を念頭において業務に取り組むこととした。

研究チーム制からプロジェクト・プログラム制に研究態勢が大きく変化し、年度当初は少なからぬ連絡や指示の不備が生じたが、1 年を無事経過することができた。また、多くの研究成果を公表することができた。本年報は平成 23 年度における研究成果をはじめ研究の諸活動をまとめたものである。業務の参考にしていただきたい。

平成 24 年 9 月

所長 長峰 司

近畿中国四国農業研究センター一年報

平成23年度

目 次

I	主な動向と経過	1
1.	近農研を巡る情勢	1
2.	運営に関する主な動向	2
3.	研究の成果の普及	3
II	研究の概要	5
III	研究の実施状況	7
IV	平成23年度 研究予算課題一覧	17
V	研究情報活動	31
1.	主な研究成果	31
2.	研究成果の発表	32
1)	著書	32
2)	原著論文	33
3)	学会発表等	40
4)	その他	50
3.	知的財産権	57
1)	産業財産権の登録および出願	57
2)	新品種の登録および出願	59
4.	広報活動	60
1)	記者発表	60
2)	近畿中国四国農業研究センター刊行物	60
3)	一般公開、イベント、講演会、シンポジウム等の開催	61
4)	技術相談および見学	62
5.	図書資料の収集・受入、サービス	63
VI	研究交流	64
1.	研究員等の受入・研修	64
1)	国際農林水産業研究センター（JIRCAS）研究員	64
2)	国際協力機構（JICA）研究員	64
3)	日本学術振興会（JSPS）研究員	64
4)	科学技術振興機構（JST）研究員	64
5)	その他の制度等による海外研究員の受入	64
6)	流動研究員	64
7)	依頼研究員	64
8)	技術講習生	64
9)	国内留学	65
10)	連携大学院	65
2.	研究員の派遣	65
1)	流動研究員	65
2)	国内留学	65
3)	海外派遣・出張	65
3.	技術協力・指導	66
1)	連携大学院への派遣	66
2)	他機関主催研修会等への講師派遣	66
3)	当センター主催の技術指導	70
4)	依頼分析、試験および同定	70
4.	共同研究	70
5.	協定研究	71
6.	開放型研究施設（オープンラボ）の利用状況	71
VII	組織・人事・会計	72
1.	組 織	72

2. 人 事	73
1) 現在員数	73
2) 農研機構特別研究員	73
3) 委員等の就任状況	73
4) 叙勲	74
5) 受賞	74
6) 学位授与	75
3. 会 計	75
1) 決 算	75
2) 固定資産	76
VIII 主な会議等	77
1. 近畿中国四国農業試験研究推進会議	77
2. 近畿中国四国地域問題別研究会	77
3. 地域研究・普及連絡会議	77
4. 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業推進会議等	78
5. 地域総合研究評価会議・現地推進検討会	78
6. その他会議	79
IX 所在地	80

I 主な動向と経過

1. 近農研を巡る情勢

平成23年度は、(独)農業・食品産業技術総合研究機構(以下、農研機構)の第3期中期計画の初年度にあたる。近畿中国四国農業研究センターは、第3期における新たな研究体制のもと、近畿中国四国地域の特徴である、中山間地および傾斜地域における農業の様々な課題の解決と地域の活性化を目指し、研究・技術開発に取り組んだ。

1) 第3期中期目標期間における組織体制と運営

ア 組織体制

農研機構の第3期中期目標期間における研究推進については、第2期で進めてきた問題解決型の研究推進をさらに発展させ、農研機構横断的なプロジェクト型の研究推進を図り、社会のニーズに確実に応えるとともに、従来以上に内部統制のとれる研究システムを構築することとした。

このため、農研機構として実施すべき研究課題を大課題・中課題として整理し、大課題毎に大課題推進責任者(プロジェクトディレクター)を、中課題毎に中課題推進責任者(プロジェクトリーダー)を配置するとともに、必要に応じて中課題推進副責任者(サブリーダー)を配置し、中課題推進責任者を補佐させることとした。

大課題・中課題の推進は、大課題推進責任者・中課題推進責任者が責任を持って推進する一方、研究所では、中長期的な観点からの研究者の人材育成および人的な管理を中心に、研究成果の社会還元、研究環境の整備、研究資産の管理等の業務を行うこととし、これらの研究所の業務を効率的に遂行するため、研究所に研究領域を置くこととした。

近畿中国四国農業研究センターに配置された研究職員は、16の大課題、29の中課題を担当することとなり、6名の中課題推進責任者および7名の中課題推進副責任者が配置された。

また、営農・環境研究領域および水田作研究領域の2つの研究領域を近畿中国四国農業研究センター本所(福山)に、作物機能開発研究領域および傾斜地園芸研究領域の2つの研究領域を四国研究センターに、環境保全型野菜研究領域を綾部研究拠点に、畜産草地・鳥獣害研究領域を大田研究拠点にそれぞれ設置した。

さらに、近畿中国四国農業研究センター独自の内部組織として、研究領域による研究推進および組織運営を補完し、研究職員の資質向上、研究分野における材料および技術の継承、施設や機械等の管理を適切に行うことを目的として、各研究領域内に研究グループを設置することとし、以下の19研究グループを設置した。なお、各グループ員の中からグループリーダーを所長が選任した。

○営農・環境研究領域

- ・農業経営研究グループ
- ・機械作業・情報研究グループ
- ・農地・水環境研究グループ

○水田作研究領域

- ・水稻育種研究グループ
- ・小麦育種研究グループ
- ・栽培管理研究グループ
- ・輪作体系研究グループ
- ・病虫害研究グループ

○作物機能開発研究領域

- ・大麦育種研究グループ
- ・大豆育種研究グループ
- ・食品機能性研究グループ

○傾斜地園芸研究領域

- ・カンキツ生産研究グループ
- ・傾斜地野菜生産研究グループ
- ・園芸経営研究グループ

I 主な動向と経過

○環境保全型野菜研究領域

- ・生産基盤研究グループ
- ・野菜生産研究グループ

○畜産草地・鳥獣害研究領域

- ・黒毛和種放牧飼料研究グループ
- ・鳥獣害対策研究グループ

また、所の産学官連携、広報活動を円滑に実施するため、産学官連携支援室を設置した。産学官連携支援室長は研究調整役をあて、室員として本所および四国研究センターに所属する研究職員7名を配置した。

イ 予算

第3期においては、運営費交付金による研究資金を効率的・効果的に活用することにより中期計画の着実な推進を図るため、研究資金の配分は大課題研究費を中期計画の大課題ごとに配分する方式に改められた。大課題ごとに配分された研究費は、当該大課題を構成する中課題を担当する研究職員の所属する研究所に配分され、研究所長は、この配分された大課題研究費から共通経費を徴収し、光熱水料、機械施設の維持管理費等の他、研究所長の裁量で所研究活動強化費の財源として使用することとなった。

また、産学官連携、現地技術実証、広報・普及、行政との連携等を通じて、研究成果の社会還元を一層促進するとともに、新たな研究ニーズを踏まえた先行的・試行的研究を実施し、人材育成、外部資金の獲得促進に資するため、研究活動強化費が設けられた。

平成23年度の近畿中国四国農業研究センターの運営費交付金の研究予算は、大課題研究費175百万円、研究活動強化費74百万円であった。

2) 近畿中国四国農業研究センターの研究の推進方向

第3期においては、近畿中国四国農業研究センターは、上記組織体制のもと、近畿中国四国地域の特徴である都市近接性中山間地および傾斜地域におけるさまざまな農業の課題の解決と地域の活性化を目指して、M（ミッション：使命）、V（ビジョン：展望）、P（パッション：情熱）をもって、下記の6つの課題を中心に戦略的に重点化して研究・技術開発に取り組むこととした。

- 中小規模水田における輪作技術の開発
- 飼料用稲や放牧などを利用する牛肉生産技術の開発
- 日光温室などの施設園芸技術の開発
- カンキツの高品質安定生産技術の開発
- 環境負荷物質の動態モデルと環境負荷の評価手法の開発
- 土壌病害虫防除と耕種的防除による環境保全型野菜栽培技術の開発

2. 運営に関する主な動向

1) 近畿中国四国農業試験研究推進会議

平成23年度近畿中国四国農業試験研究推進会議本会議は、平成24年2月20日に福山市生涯学習プラザで開催した。

まず、各推進部会長等から、平成24年1月～2月に開催した各推進部会および平成23年8月に開催した評価企画会議について、地域重要研究問題の措置方向等の議事概要の報告を行った。

続いて、重要検討課題として、「地域農業の活性化を目指した試験研究の方向性および担い手への技術支援方策」について検討を行った。まず、重要検討課題の原案を提出した中国四国農政局から提案の背景にある管内農業情勢等について説明があり、近畿農政局から関連した政府の動きの紹介があった。次に、府県、農政局および近農研のそれぞれにおける現在の取組と今後の方針について、資料をもとに、外部との連携・協力・役割分担の取組や、オリジナル品種育成や独自の普及方策等他にない取組に焦点を当てて質疑応答を行い、さらに、農研機構および近農研への要望についての回答、重要検討課題のとりまとめについての議論を行った。

最後に、長峰所長から、本日の議論を通じ地域農業活性化のための試験研究と普及における地域内連携の重要性が確認され、その際の考慮すべき重要な要件が抽出されたとの総評を行った。

I 主な動向と経過

2) サポーターズ会議

第2期においては、研究の基本的な方向、推進方策および業務運営全般に関し、広く外部有識者の意見を聞き、研究の効果的推進と業務運営の改善に資するため、毎年度、近畿中国四国農業研究センター運営委員会を開催していたが、第3期においては、研究の基本的な推進方策については農研機構横断的な研究課題が設定されており、機構内の各研究所には、得られた研究成果の広報と普及活動の一層の強化が求められることとなった。このため、第3期においては、従来の運営委員会に代わるものとして、研究成果の広報、普及促進および定着に資するため、農業関係者、行政・普及関係者、試験研究機関関係者、民間企業関係者、消費者、報道関係者および学識経験者の中から所長が委嘱する委員および所議構成員で構成する「近畿中国四国農業研究センターサポーターズ会議」を開催することとした。

平成23年度のサポーターズ会議は、平成23年12月14日に、近畿中国四国農業研究センターにおいて開催し、レタス新品種「SAKS3（ウインターパワー）」、ヤーコン新品種「アンデスの乙女」、大豆新品種「はつさやか・あきまる」および「放牧仕上げ熟ビーフ」についてそれぞれ担当研究員から研究成果の紹介を行った。また、上記以外の研究成果についても各担当研究領域長から紹介を行った。

その後、研究成果の普及・実用化方策について意見交換を行い、最後に、委員から、企業や大学、地方行政や現場との一層の連携の推進、技術の広報・普及を進めるための実態に即した新たな仕組み作り、技術の出口までを念頭にいた情報発信等に取り組むべき等の講評が行われた。

3 研究成果の普及

1) 連携普及計画

農研機構の第3期における産学官連携、広報、普及活動については、これらを一体的に推進し実施する体制を整備するとともに、実用化に向けた産学官連携研究、成果の活用による事業化・普及のためのマッチング活動、国民との双方向コミュニケーション確保の取組、多様な手法を用いた研究成果の効果的広報等について、計画を策定して重点的に取り組むこととされ、各研究所等において連携・普及計画を毎年度作成し、これらの取組を推進し実施する体制を着実に整備することとなった。

近畿中国四国農業研究センターの平成23年度の連携・普及計画では、所として重点的に取り組む事項として、大豆「四国1号（はつさやか）」と「四国3号（あきまる）」、高糖分飼料イネ「たちすずか」および「放牧仕上げの熟ビーフ」の普及を掲げるとともに、①実用化を目的とした共同研究、②現地実証試験、③マッチング、④ニーズ把握、⑤現場活動、⑥国民理解促進のための情報発信の6項目についての取組事項を記載した。

2) 地域マッチングフォーラム

ア 近畿地域マッチングフォーラム

平成23年11月15日に、奈良県奈良市の奈良県文化会館を会場として、「果実、野菜および穀物に含まれる健康維持機能成分とその利用」と題して開催し、研究機関41名、企業その他33名など、全体で102名の参加があった。

本フォーラムでは、江崎グリコ株式会社健康科学研究所からの機能性食品の研究開発事例についての基調講演に続き、近畿中国四国農業研究センターから穀物由来の機能性成分と製品開発について、果樹研究所からカンキツに含まれる機能性成分と生活習慣病予防について、奈良県農業総合センターおよび株式会社パンドラファームから伝統野菜「大和マナ」の機能性評価と産地化に向けた商品開発について講演を行った。

続いて、マッチングセッションとしてポスター発表（発表数15枚）を行い、その後のクロージングセッションでは、作物に含まれる機能性成分、機能性成分の効果、栽培方法による機能性成分への影響、効果の表示についての質疑のほか、研究開発の端緒や研究過程で得られる知見の取扱いに関しても意見交換を行った。最後に、今後の機能性研究が作物生産や商品の製造・販売と連携して取り組まれる必要性が確認された。

イ 中国四国地域マッチングフォーラム

平成23年9月21日に、山口県山口市のニューメディアプラザ山口を会場として、「水田輪作を支える大豆、麦類新品種と地下水水位制御システム ～田んぼを変えて地域を元気に！～」と題して開催し、行政機関49名、研究機関43名、生産者団体・個人35名など、全体で142名の参加があった。

本フォーラムでは、近畿中国四国農業研究センターから豆腐加工および味噌加工に適した大豆新品種について、お

I 主な動向と経過

よび加工適性に優れた小麦と健康機能性に優れた画期的な裸麦新品種についての2題、リヨーコクシヨウジ株式会社から中国四国地域における国産大豆の流通と今後の展開について、山口県から山口県における地下水位制御システムの導入効果と普及について、島根県から安来市能義第二地区の二年三作栽培体系における地下水位制御システム導入事例とその効果について講演を行った。

その後、ポスター発表（32枚）と地下水位制御システムについての技術相談、パネルディスカッションを行った。

また、翌日は、中国四国豆類生産振興・需要拡大推進委員会と連携し、山口県農林総合技術センター試験圃場および山口市内の農事組合法人圃場で大豆生産等現地検討会を行った。

3) 農研機構シンポジウム

平成23年8月24日に、香川県高松市のかがわ国際会議場で、「高品質カンキツの生産と流通に貢献する技術革新と産地における展開方向」をテーマとして開催し、農研機構外からの参加者135名を含め、全体で206名の参加があった。

本シンポジウムでは、日本園芸農業協同組合連合会からカンキツ産業の産地の現状と今後の高品質カンキツ生産に必要な栽培普及技術について、近畿中国四国農業研究センターからウンシュウミカンの高収益型生産を実現する省力点滴かん水技術、および高品質カンキツ生産で産地展開を支援するための研究推進方向についての2題、香川県農業試験場からカンキツの収穫・販売時期を調節する低コストハウスと貯蔵施設の改善と利用について、和歌山県果樹試験場から光センサー選果機の高度化利用について、農林水産省生産局からカンキツ産業の競争力強化のための方策について講演を行い、続いてパネルディスカッションを行った。また、講演に先立ち、1時間半のポスターセッションを行った。

II 組織の概要

1. 企画管理部

企画管理部は、近畿中国四国農業研究センターの実施する試験研究の総合的な企画・調整・評価、研究予算の配分、庶務、会計、情報システムの管理等、研究活動を支える企画管理業務を担当する。また、試験研究推進会議の開催、共同研究の推進、オープンラボの利用促進等を通じた他研究機関や行政部局等との連携・交流、研究成果の普及・広報など、研究センターの総合窓口としての役割を担う。

2. 営農・環境研究領域【福山】

営農・環境研究領域では、管内に多い中山間地域の地域農業振興方策の解明、管内に広く存在する中小規模水田を対象とした省力作業技術の開発と体系化および生産効率化のための情報利用技術の開発、瀬戸内海沿岸地域における環境負荷評価手法の開発を行う。

○地域農業活性化の核となる農産物直売所の活動を起点として、地元農産物の販売や消費者との交流によって地域農業を6次産業化し、小規模農家も利益を確保できるビジネスモデルを提案する。

○中小規模水田作の生産コスト低減に向け、麦・大豆の簡易耕による省力安定栽培技術、牧場調製型の飼料用稲収穫・調製システム、携帯情報端末を用いた情報記録システム等を開発する。

○琵琶湖や瀬戸内海等の閉鎖的水系が多いことから、農業由来の環境負荷を軽減する技術の改良と技術導入時の環境影響評価手法の開発、水質予測モデルの汎用化等を行う。

3. 水田作研究領域【福山】

水田作研究領域では、多様性に富む近畿中国四国地域の気候的・土地的条件に適合し、かつその条件を最大限活用する水田作物の生産技術の開発を行う。

○新品種開発については、良食味の主食用品種や多収で飼料栄養価に優れた飼料用品種、米粉パン用品種など多様なニーズに応えることのできる水稻品種育成に取り組むとともに、自給率向上に資する国産小麦の増産を目指し、パン用の小麦品種や日本めん用の小麦品種の育成に取り組む。

○近年進行しつつある地球温暖化の中においても、高温条件を克服し逆に利用しうるような作物・野菜の低コスト安定多収生産技術の開発に取り組む。

○地下水水位制御システム等新技術の活用方法を明らかにしつつ、水稻、麦類、大豆など水田作物の合理的輪作体系開発に取り組む。

○消費者・生産者の双方に受け入れられる環境負荷が少ない生産技術として、天敵生物の改良・育成などこれまでにない新たな生物利用等による環境保全型生産技術の開発に取り組む。

4. 作物機能開発研究領域【仙遊】

作物機能開発研究領域では、近畿中国四国地域における水田輪作システムを確立し、農産物の需要拡大とブランド化を支援するため、裸麦や大豆品種の育成、農作物の健康機能性の解明と有効利用技術の開発を行う。

○大麦（特に裸麦）は増産を強く要望されているため、生産拡大・安定供給につながる収益性が高い品種を育成する必要があります。味噌や麦ご飯用に適し、多収で硝子率・欠損粒率が低い品種を育成する。また、食物繊維（β-グルカン）含有量が多く、付加価値が高い新規用途向けの品種を育成する。

○自給率向上や安心・安全な国産大豆の安定供給のため、新品種の育成が重要です。DNA マーカーなどを利用して重要病虫害抵抗性、難裂莢性などを基幹品種へ導入し、温暖地に適した安定多収・良品質大豆品種を育成する。

○筋肉・肝臓における脂質代謝機能を強化する機能性成分や大麦に含まれる消化管機能を調節する機能性成分を明らかにする。また、免疫調節作用・アンチエイジング効果を持つ農作物成分、小麦ふすま由来血圧降下ペプチドの商品化を目指し、その肝機能改善効果を明らかにする。

II 組織の概要

5. 傾斜地園芸研究領域【生野】

傾斜地園芸研究領域では、管内に多い傾斜地の特性を活かした、新たな施設園芸生産技術やカンキツブランド化支援のための栽培技術の開発を行う。

○傾斜地における野菜生産では、日本型日光温室等の活用による高収益・安定生産施設園芸技術の開発に重点的に取り組むとともに、分子生物学的手法による新形質花きの開発に取り組む。

○カンキツ生産では、省力的に早期成園化を図り、正品果率を向上させて高収益型カンキツ生産体系の確立を図るための技術システムの開発に取り組むとともに、「団地型マルドリ方式」を提案し、普及に取り組みます。

○施設園芸・カンキツ経営における多角化ビジネスモデルを提案する。

6. 環境保全型野菜研究領域【綾部】

環境保全型野菜研究領域では、化学農薬の使用量を減らして持続的・安定的な環境保全的野菜生産を行うために必要な、土壌病害虫の診断技術の開発や、病虫害抑制および生長制御に有効な耕種的技術の開発を行う。

○線虫や糸状菌等による野菜の被害について、メタゲノムを用いた高感度定量法の開発や、要防除水準の作成を行い、これらに基づいた病虫害リスクの予測・診断技術を開発する。

○これまで廃棄されていた抗菌物質が含まれる地域未利用資源を活用し、より低コストで効果的な環境保全型の土壌還元消毒技術を開発する。

○ホウレンソウやイチゴにおいて収量や品質の向上、病虫害防除を可能とする、新規の光質選択性被覆資材や照明技術、遮光栽培法を含めた実用的な光環境制御技術を開発する。

7. 畜産草地・鳥獣害研究領域【大田】

畜産草地・鳥獣害研究領域では、中山間地が多い近畿中国四国地域において、地域の飼料資源を活用した黒毛和種の生産技術および近年深刻な鳥獣害への対策の研究を行う。

○輸入飼料依存を脱却し、自給飼料基盤を充実させた畜産を展開するためには、水田、野草地そして増加著しい耕作放棄地などを活用する必要がある。そこで、近年、開発が進む新品種飼料稲や野草地放牧などの地域の自給飼料資源を活用した黒毛和種の繁殖から肥育までの新生産技術を開発に取り組む。

○全国的に鳥獣害被害は深刻さを増していますが、従来の駆除や防護柵では防止効果は小さく、イノシシ、ハクビシン、サルなど野生動物の行動解析を推し進め、より省力的で効果の高い侵入防止技術の開発に取り組む。また、これらの成果をもとに地域の住民が主体的に取り組める鳥獣害被害対策プログラムを提案する。

8. 研究支援センター

研究支援センターは試験研究活動の円滑な進行を支えるため、試験圃場・施設の管理、作物・動物の栽培と飼育に取り組んでいる。多様な近畿中国四国地域の立地条件を反映し、試験圃場は平坦な水田や畑地だけでなく地域特有の傾斜地圃場（畑地・樹園地・草地・放牧地）、ビニールハウスなど様々な種類におよぶ。扱う作物も水稻や大豆・麦類等の普通作物、牧草・飼料作物、野菜など園芸作物、かんきつ等果樹類まで多様です。動物に関しては家畜である肉用牛のほか、近年は獣害を引き起こすイノシシ等野生動物についても飼育している。これら管理・栽培・飼育業務全般について、福山・綾部（業務1科）、善通寺（業務2科）、大田（業務3科）の4研究拠点を3つの科で担当している。また現地実証試験など場外での試験活動にも対応するとともに、新技術のいち早い会得と実地展開を通じて、開発技術の農家へのすみやかな技術移転の一翼を担う。

Ⅲ 研究の実施状況

- ・領域名：営農・環境研究領域
- ・研究グループ名：農業経営研究グループ
- ・研究担当者：室岡順一、坂本英美、尾島一史、渡部博明、吉田晋一
- ・研究活動の概要

本年度は、①農産物直売所を核とした地域農業多角化ビジネスモデルの策定、②経営部門別新技術および技術体系の経営的評価と普及手法の提示、③農業経営および地域農業の動向解析にもとづく技術開発方向の提示、④高付加価値商品のための農産物購買・消費行動分析システム等の開発に取り組んだ。

①農産物の直売では、垂直的多角化（生産から加工や流通への展開）と水平的多角化（商品の多様化など）が同時に進展するので、農業者は多角化に伴って複数の活動や商品から複数の利益を得る必要があることを明らかにした。また、有機農業など環境調和型農業を地域的に振興し、直売所を含む多様なチャンネルで販売することにより小規模生産者の所得確保を図るモデルのプロトタイプを策定した。

②中山間地域の集落営農法人が、1年1作体系から、大麦・大豆の不耕起栽培を利用した「水稻・大麦・大豆」2年3作体系へ移行した場合の経済的効果を試算した。費用面の効果としては建物・農機具費の負担割合軽減や労働費の削減が期待できるが、大麦は「畑作物の所得補償交付金」（単収増や品質向上の努力が反映される「数量払」が基本）の対象作物であるため、収入面で効果を得るには、大麦の収量水準確保が特に重要であることを明らかにした。

③農林業センサデータなどの統計解析によって、近畿中国四国地域における農業構造の変化と各経営タイプの特徴を把握し、構造変化の動きは低調であることを明らかにした。

- ・主な研究成果

直売所では切り花販売が好調であるが、需要が休日へ集中する一方、切り花の生育・収穫を休日に集中させることが困難なため、残品や欠品の問題が発生している。そこで、この問題の改善方策として期待されている簡易な開花室を利用した開花調節技術について、その導入条件と改善効果を試算した。残品や欠品の問題を改善するには、3日以内の範囲で開花の促進と遅延を可能とする技術が必要であること、直売所の担当者が需給状況を出荷者に伝達する仕組みを整えば、出荷者・直売所・来店者の三者それぞれにメリットが期待できること等を明らかにした。

- ・研究グループとしての広報活動

「農業・農村の6次産業化による地域農業の振興」を統一テーマとする営農推進部会問題別研究会で、「研究活動の概要」の①についての研究成果を発表した。営農推進部会の重点検討事項「地域農業における担い手の実態と課題の検討」で、同じく③についての研究成果を発表した。

- ・領域名：営農・環境研究領域
- ・研究グループ名：機械作業・情報研究グループ
- ・研究担当者：奥野林太郎、高橋英博、窪田潤、高橋仁康、寺元郁博
- ・研究活動の概要

本研究グループでは、本年度、①中小規模水田輪作体系の確立、②牧場調製型収穫システムの開発、③通信・制御インターフェースの標準化技術の開発、④携帯情報端末によるセンサ情報収集、⑤農業生産活動の地域環境への影響の可視化に取り組んだ。①では、大麦・大豆不耕起栽培を世羅町田打、黒淵で実施し、大麦は春先の低温、早い入梅のため適期収穫できず低収であったが、大豆は約300kg/10aを達成した。広島県西部指導所からの要請で、東広島市河内町小田において、大豆の雑草抑制や適期播種を目的とした小麦跡大豆不耕起狭畦栽培等の展示圃を設置した。部分耕播種機にGPS、センサを設置し、繰出軸の回転、播種機の高さ等が位置情報と共に記録できるシステムを作成した。また、作業機メーカー9社へのアンケートにより作業機の電子制御装置の入出力制御情報の要件を調査し、作業機ECU、共通リモートコントローラの要件を定めた。これは作業状態の計測を可能とし、機械の調整・設定の簡易化に役立つ。②では、試作した収穫機3号機を利用して2現地1haにおいて牧場調製型収穫システムを試験した。運搬まで含めた能率は11.7 a/h、最大乾物処理量は1.96 DM・kg/sであった。また、開発したロールベール重量記録・印刷システムは、計測記録の簡易化と飼料のトレーサビリティに貢献する。③では中央農研で開発した制御用16bitマイコンボードを対象に計測、制御のサンプルプログラムを作成、さらに北農研開発CAN通信ライブラリを用い速度連動制御プログラムを試作した。④では、センサ情報取得デバイスの試作を行い、Android端末で動作するBluetoothを介したデバイス情報収集機能の作成とクラウド上のストレージサービス利用機能を作成した。⑤では、農業生産活動の地域環境への影響の可視化として、農地への窒素およびリン酸の投入量・収支を評価した。

- ・主な研究成果

牧場調製型収穫システムは収穫物を牧場や飼料基地へ運搬して調製する効率的なシステムであり、開発した長稈品

Ⅲ 研究の実施状況

種に対応できる飼料用稲収穫機や、ロールベール重量記録・印刷システムを用いて現地試験を行った。

・研究グループとしての広報活動

平成 23 年 10 月に鳥取県で開催された高糖分飼料イネ「たちすずか」普及連絡会・国産飼料プロ（1 系、2 系）合同現地検討会で実演を行い、生産者や普及関係者等 132 人に牧場調製型収穫システムの紹介を行った。

・領域名：営農・環境研究領域

・研究グループ名：農地・水環境研究グループ

・研究担当者：松森堅治、石岡巖、志村もと子、望月秀俊、渡邊修一

・活動の概要

本年度は、①農地からの環境負荷物質を低減する技術の開発、②負荷低減対策技術の導入効果の予測が可能な環境負荷物質動態モデルの構築、③水系における環境負荷リスクの評価、④地下水水位制御システム圃場における土壌中の水分・養分の動態解明、に取り組んだ。①では、農業系排水の pH を酸性に調整することで機能性竹炭の硝酸態窒素吸着能を顕著に改善できること、アンモニア態窒素の割合が高い流域では脱窒による浄化効率が低いこと、リン酸集積土壌におけるトマトの養液土耕栽培ではリン酸無施肥でも収量の低下なしに十分生育すること、牛ふん堆肥中のカリウムを 10 倍量の水を用いて 60%程度低減可能であること等を明らかにした。これらは農地から流域への排出負荷量を低減する技術として活用が期待される。②では、草地飼料作、水稻作、野菜作が中心の地域を対象にモデルの改良に必要な土地利用分類区分等に関する課題を抽出するとともに、モデルによる評価結果を視覚化するための JavaScript プログラムを開発した。③では、農地ブロックにおいて窒素排出負荷量の推定に必要な圃場等の 3 次元 GIS データを作成し、転換畑圃場の暗渠排水で硝酸態窒素濃度の上昇を確認した。また、Excel を用いた簡易版 LCA において飼料作に関するインベントリ項目の抽出を行った。④では、地下水水位制御システム圃場においてプロファイル水分計を用いてダイズ栽培期間の土壌水分量の 3 次元分布を把握するとともに、圃場表層土の水分特性曲線（ $pF=0 \sim 2.3$ ）を明らかにした。

・主な研究成果

竹炭の表面に鉄イオンを付加した機能性竹炭の硝酸態窒素吸着能は、溶質濃度が高く、溶液 pH が低いほど増大すること、養液栽培施設の廃液（硝酸態窒素濃度 187mgN/L）では pH を酸性にすると、機能炭 1g あたりの吸着量を pH 無調整時の 0.1mg から 2.5mg に増加させることを明らかにした。

・研究グループとしての広報活動

平成 23 年 12 月に仙台市で開催された東北農業研究センターシンポジウム「津波被害農地の塩害対策技術」で話題提供を行い、畑地の塩類の動態メカニズムについて紹介した。また、グリーンレポート No.510（全農、平成 23 年 12 月）にソーラーポンプを利用した日射制御型拍動かん水装置の開発について紹介した。

・領域名：水田作研究領域

・研究グループ名：水稻育種研究グループ

・研究担当者：石井卓朗、飯田修一、出田収、松下景

・研究活動の概要

本研究グループでは、本年度、①低コスト栽培に適した主食用水稻品種の育成、②加工向け多収水稻品種育成、③米粉利用などに適した穀粒成分特性の解明、④飼料用水稻品種の育成に取り組んだ。①では、日本陸稲由来の縞葉枯病抵抗性遺伝子（*Stv-a, Stv-b*）およびもち病圃場抵抗性遺伝子（*Pi34*）を導入したコシヒカリ同質遺伝子系統「中国 IL3 号」を育成した。本品種はコシヒカリ生産の低コスト化に貢献するものであり、「コシヒカリ」の無農薬・減農薬栽培に取り組む地域での活用が期待される。②では、低アミロース性の巨大胚水稻品種「中国胚 202 号」を育成した。本品種は従来の巨大胚品種「はいいぶき」よりも食味、苗立性に優れており、さらに米粉パンとしての利用も可能であることから、巨大胚品種の一層の生産振興と加工利用が期待される。③では、「コシヒカリ」由来の乳白変異系統 6 系統について、乳白変異は劣性の単一遺伝子に支配され、原因遺伝子は第 5 染色体上に座乗することを明らかにした。このことは乳白変異を利用した米粉パン等加工用水稻品種を育成する上で重要な知見となる。④では、中生熟期の極短穂品種「中国飼 205 号」を育成した。本品種は同じ極短穂で晩生品種の「たちすずか」と併用して栽培することにより作期分散を図ることができ、飼料稲生産の拡大に貢献することが期待される。

・主な研究成果

茎葉が多収で飼料価値が高い稲発酵粗飼料用品種「たちすずか」を農林認定品種として申請した。「たちすずか」は、従来型の飼料稲品種（「クサノホシ」等）と比較し穂が短いため、牛体内で消化されにくい粉が少なく、消化されやすい茎葉が多収である。また、「たちすずか」の発酵粗飼料（サイレージ）を給与した乳牛は「クサノホシ」を給与

Ⅲ 研究の実施状況

した乳牛よりも乳量が多く、泌乳前期の体重減少が抑えられる。種子の供給体制も確立され、2012年度は広島県等で200ha、将来的には関西以西で700haの普及が見込まれる。

・研究グループとしての広報活動

平成23年10月に鳥取県で開催された国産飼料プロ現地検討会や広島、岡山県を中心とした飼料稲生産組合の会議等で生産者や実需者、普及関係者に極短穂品種「たちすずか」の紹介を行った。また、当センターに見学を訪れる生産者や普及関係者に低アミロース米品種「姫ごのみ」や「中国201号」等の有望品種・系統の紹介を行った。

・領域名：水田作研究領域

・研究グループ名：小麦育種研究グループ

・研究担当者：高田兼則、安井健、矢野博、池田達哉、谷中美貴子、藤田由美子

・研究活動の概要

本研究グループでは、本年度、①小麦品種系統の開発、②DNAマーカーの開発、③品質向上技術の開発に取り組んだ。①では、パン用の「中国158号、中国160号、中国161号」が奨励品種決定基本調査で有望との評価を得た。また、超強力小麦の「中国162号」を新たに配付系統とした。これらは良質な小麦の生産拡大への貢献が期待される。②では、小麦近縁野生種の染色体を識別するためのSSRマーカー25組を選抜した。また、普通系小麦ではデュラムコムギの低カドミウム遺伝子*Cdu1*の連鎖マーカーによる分類型マーカーと子実Cd濃度の関連は弱いことを明らかにした。これらは、新規の形質を導入した小麦品種の開発への活用が期待される。③では、小麦のグルテンタンパク質の組成のなかでグリアジン(*Gli-D1*)を欠失した小麦粉は生地が強くパン容積も高くなる効果が確認された。また、加工適性が優れる輸入銘柄について、品質関連の遺伝子型構成割合を解析した結果、それらに銘柄特異的な傾向があることを明らかにした。これらは、国産小麦の品質を向上させ輸入小麦並の品質をもつ小麦の開発への貢献が期待される。さらに、モチ性穀粒では遊離脂質が増加するが、モチ性/ウルチ性穀粒間には、遊離脂質中における3種類の脂質クラスの割合に違いは認められないことを明らかにしたほか、低分子量グルテニン欠失と小麦アレルギーとの関係について外部機関と協力して解析を行い、新規の小麦品種の開発に寄与する新たな知見を得ることができた。

・主な研究成果

温暖地西部向けに新たなパン用小麦品種の普及を図るため、中国160号と中国161号を開発した。中国161号は山口県で有望視され、中国160号と中国161号は佐賀県で極有望の評価を得ている。これらは現在栽培されているパン用小麦品種のニシノカオリやミナミノカオリよりも早生・多収など栽培特性に優れるうえに、製パン性も高い系統である。

・研究グループとしての広報活動

平成23年9月21日に山口市で開催された中国四国地域マッチングフォーラムで話題提供を行い、生産者、実需者、普及関係者等に最近の小麦および大麦の品種紹介を行った。12月14～15日に筑後市で開催された第3回グルテン研究会で話題提供を行い、製粉、製パン等実需者や研究者等を対象に小麦品質の新しい知見について発表を行った。

・領域名：水田作研究領域

・研究グループ名：栽培管理研究グループ

・研究担当者：長田健二、黒瀬義孝、佐藤恵一、下田星児、小林英和

・研究活動の概要

本研究グループでは、本年度、①水稲収量・品質の変動要因の生理・遺伝学的解明と安定多収素材の開発、②栽培・生体情報に基づいた高品質カンキツ生産技術の開発、③かび毒産生病害からの食品安全性確保技術の開発、④農耕地土壌の温室効果ガス排出削減・吸収機能を向上する栽培技術の開発、⑤気候変動下における水稲の高温障害対策技術の開発、に取り組んだ。①では、穎果内アブシジン酸濃度が高温登熟耐性の品種間差に密接に関連することを明らかにした。②では、畑作用に開発した簡易土壌水分計を利用して、カンキツが受けている水ストレスを把握出来る可能性を示した。③では、小麦赤かび病の防除適期(開花期)を予測・公開するシステムを構築した。④では、耕作放棄後の土壌炭素動態の推移に植生の根量に関係することを明らかにした。⑤では、農地ごとの気象情報を効率的に得るためのデータ処理手法の開発を進めるとともに、高温により生じやすい胴割れ米発生の品種間差に籾・玄米の吸水速度が関係することを明らかにした。

・主な研究成果

小麦赤かび病を適期に防除するための開花期予測システムを開発した成果を取りまとめ、普及主要成果とした。本成果はかび毒汚染低減のため、小麦赤かび病の防除適期である開花期を3日程度の誤差で予測する発育予測モデルを開発したもので、リアルタイムのアメダスデータを使って予測した結果をWeb上に公開するシステムを構築し、運

Ⅲ 研究の実施状況

用を開始している。本システムの利用により、西日本の小麦主要6品種について簡単な操作で開花期の予測日を知ることができることから、生産現場での集団防除の日程調整や適期防除への有効利用が今後期待される。

・研究グループとしての広報活動

得られた新知見は原著論文、学会発表で公表を行った。特に、耕作放棄地の土壌炭素変動量の評価に関する知見については数多くの学会発表を行い、成果を積極的にアピールした。また、水稲栽培に関する技術相談や高温障害対策に関する依頼講演等を通じて、生産者や普及関係者にこれまでに得られた研究成果を紹介した。

・領域名：水田作研究領域

・研究グループ名：輪作体系研究グループ

・研究担当者：岡部昭典、石川直幸、伏見昭秀、竹田博之、藤本寛、森伸介

・活動の概要

本グループでは、中小規模水田に対応した生産性向上のための輪作システムを確立するため、本年度は、①地下水位制御システムを利用した安定多収栽培技術の開発、および②水稲、麦類、大豆の省力・低コスト栽培の栽培管理技術の開発を中心に研究を実施した。①では、水稲乾田直播および大豆栽培において目標収量を達成した他、大豆播種時の干ばつによる出芽障害に対して高水位処理が出芽促進に有効であること、ならびに小麦の湿害発生地下水位条件等を明らかにした。これらは地下水位制御システムを導入した現地での活用が期待される。また、②では現地を中心に試験を実施して、播種ロールによる水稲の少量播種乾田直播栽培で慣行並みの収量を確保できること、大豆の省力栽培である狭畦無中耕無培土栽培では倒伏が収量制限要因になっていることを解明した。この他に、畦畔法面の効果的なシバ植栽法、および苗立ち率向上のための鉄コーティング種子の作成条件等を明らかにした。これらは今後の省力・低コスト化並びに生産性向上のための技術として活用されることが期待される。

・主な研究成果

水稲の省力・低コスト栽培技術を開発するため、乾田直播栽培における少量播種技術の開発を行った。水稲を少量播種するための播種ロールを試作して現地試験を行った結果、播種量は慣行より著しく少ないにもかかわらず、分けつが発達して穂も大きくなったことから慣行とほぼ同程度の収量が得られることを実証した。

・研究グループとしての広報活動

平成23年9月に山口市で開催された中国四国地域マッチングフォーラムで話題提供を行い、生産者や実需者、普及関係者等に大豆新品種および地下水位制御システムの紹介を行った。平成23年10月に近畿中国四国農業研究センター（福山）で開催された一般公開の公開講座で話題提供を行い、一般参観者に大豆の生育、生産および研究の現状について、また、平成23年4月に東広島市豊栄町で開催された「2011 乃美シバザクラ祭り」で一般参加者に農村の畦畔管理について解説した。この他に、平成23年8月に山口市で開催された日本作物学会第232回講演会プレシンポジウムにおいて飼料イネ・飼料用米生産について、また、平成23年10月および平成24年2月に岡山県瀬戸内市で開催された中国四国土を考える会で水稲の1粒点播について、生産者および普及関係者等を対象に話題提供した。

・領域名：水田作研究領域

・研究グループ名：病虫害研究グループ

・研究担当者：竹原利明、宮川久義、菊地淳志、三浦一芸、大崎秀樹、関口博之、世古智一、

安部順一朗、野見山孝司

・研究活動の概要

本研究グループでは、本年度、主として、①中小規模水田に対応した生産性向上のための輪作システムの確立、②土着天敵等を利用した難防除害虫の安定制御技術の構築、③土壌病虫害診断と耕種的防除技術開発による野菜の環境保全型生産システムの構築に取り組んだ。①では、大量製造された水稲鉄コーティング種子の病害抑制効果や、ダイズの青立ちに及ぼすカメムシ類の影響を明らかにし、また、ダイズの病虫害診断に役立つホームページを作成した。②では、アブラムシの天敵として利用価値の高い飛ばないナミテントウの系統維持のため、従来よりも労力のかからない品質管理法を開発した。③では、景観植物スカエボラが天敵の温存や害虫の抑制に及ぼす影響を調べる圃場試験を行った。これらは、生産現場での病虫害抑制に直結する成果であり、今後の活用が期待される。

・主な研究成果

植物ウイルスの診断を迅速に、容易にできるようにするため、Multi-RIPA法（多重迅速免疫ろ紙検定法）を改良した。これにより、キュウリで発生する主要ウイルス3種である、キュウリモザイクウイルス（CMV）、ズッキーニイエローモザイクウイルス（ZYMV）、メロンイエロースポットウイルス（MYSV）を容易に検出・識別できた。また、景観植

Ⅲ 研究の実施状況

物スカエボラの天敵温存効果を調査し、作物と混植することで天敵が定着しやすくなる可能性を示した。

・研究グループとしての広報活動

平成 23 年 10 月に京都で開催された農研機構セミナー「野菜の土壌病害虫防除における環境保全的対策研究の最前線」（生産基盤研究グループ、野菜生産研究グループと共催）において、当グループの研究内容を紹介した。

- ・領域名：作物機能開発研究領域
- ・研究グループ名：大麦育種研究グループ
- ・研究担当者：吉岡藤治、高橋飛鳥
- ・研究活動の概要

本研究グループでは、本年度、①栽培地域の気候生態に対応した多収で加工適性に優れた大麦品種の育成、②胚乳成分等を改変し、付加価値のある新規特性をもつ大麦品種の育成、③耐病性や出穂安定化の形質を付与した大麦多収系統の開発に取り組んだ。①では、奨励品種決定調査に供試していた地方番号系統のうち、「四国裸 115 号」「四国裸 122 号」「四国裸 123 号」を試験終了とし、並性で大粒・多収の「四国裸 126 号」、*amol* 遺伝子とアミロースフリーのもち性遺伝子を合わせ持ち高 β -グルカン含量の「四国裸糯 127 号」、*ant28* 遺伝子を持ち炊飯後の褐変が極めて少なく耐穂発芽性を有する「四国裸 128 号」を新たに配付した。②では、農水省委託プロジェクト「水田底力プロ」の課題において、 β -グルカン高含量化に関与する *amol* 遺伝子を育種の初期段階で選抜するために、1H 染色体短腕に位置する EST マーカー「AR0001」を開発した。③では、農水省「実用技術開発事業」の課題において中山間地向け品種を選定するために、農業特性の異なる 31 品種・系統を広島県神石高原町の標高 430m および標高 230m の圃場で栽培し、凍霜害や黒節病耐性などの品種生育特性を調査し、「四国裸 124 号」など秋播性早生系統は、冬期の幼穂長や春先の稈の伸長パターンがコムギで知られている「凍霜害回避型早生」に類似しており、有効であることを示した。

・主な研究成果

硝子率が低く精麦品質が優れる早生・多収の「四国裸 110 号」が、今治市で約 70ha 作付けされている味噌用品種「ヒノデハダカ」の代替として有望であり、愛媛県で奨励品種に採用される見込みであることから、限定普及品種として品種登録出願した。

・研究グループとしての広報活動

「キラリモチ」や「ビューファイバー」による大麦粉の普及活動として、健康博覧会、フードテック、中国四国地域マッチングフォーラム、四国食品健康フォーラム、食のブランドニッポン、近畿地域マッチングフォーラム、産学官連携・普及実用化フォーラム、中四国地域アグリビジネス創出フェア、九州農研アグリネットフォーラム、J A 国産農畜産物商談会などで展示や試食を行った。また、大麦の消費拡大・生産拡大に繋がるプラットフォームとして、生産者・加工業者・製造業者・販売業者・消費者・行政・研究機関などが参画し、相互の情報交換や情報発信、および双方のマッチングを支援する「高 β -グルカン大麦利用連絡会」を立ち上げた。

- ・領域名：作物機能開発研究領域
- ・研究グループ名：大豆育種研究グループ
- ・研究担当者：(大豆) 高田吉丈、猿田正恭、(レタス) 石川浩一
- ・研究活動の概要

本研究グループでは、本年度、①基幹品種のピンポイント改変等による優良品種の育成、②草型や栽培特性の改変による省力超多収品種・系統の開発、③大豆の需要拡大を可能とする新規用途品種・素材の開発（以上、大豆）、④年末年始どりを対象としたレタスビッグベイン病抵抗性レタスの育成（レタス）に取り組んだ。①では、大豆新品種「はつさやか」および「あきまる」の品種登録出願を行い、速やかな普及を図るため、現地試験栽培における技術指導、豆腐加工適性試験および味噌醸造実機試験を行った。「はつさやか」の利用許諾が 1 件あり、「あきまる」は広島県において奨励品種採用が検討されている。また、管内地域向けの新系統として「四国 14～18 号」の 5 系統を新たに育成した。②では、遺伝的背景を拡大し多収品種育成を目指すため、日本品種と米国品種の交配を開始した。③では、大豆奨励品種決定調査においてリポキシゲナーゼ欠失の「四国 10 号」が兵庫県で成績良好で、醤油醸造適性試験を実施する予定である。「四国 10 号」は山口県でも成績良好であった。④では、第 2 期中期計画で育成したレタスビッグベイン病抵抗性系統「レタス SAKS3」を品種登録出願し、品種登録出願公表（品種名「ウインターパワー」）に至った。また、徳島県阿波市、香川県観音寺市のレタス栽培地域で「ウインターパワー」の抵抗性評価、品質評価の実証試験を両県との協定研究で実施し、強度抵抗性であることの確認、高品質化に向けての栽培法改善を行った。今後、レタスビッグベイン病発生地での普及が期待できる。

Ⅲ 研究の実施状況

・主な研究成果

大豆新品種「はつさやか」および「あきまる」が品種登録出願公表された。

レタス新品種「ウインターパワー」が品種登録出願公表された。

・研究グループとしての広報活動

「はつさやか」および「あきまる」の品種登録出願公表後、記者発表を行い、新聞4社に記事が掲載された。一般公開（福山、四国）およびサポーターズ会議で「はつさやか」豆腐試食および「あきまる」味噌試食を実施し、新品種をPRした。農研機構主催「食のブランド・ニッポン2011」の食材に「はつさやか」が採用され、創作料理「香港式八角風味煮添え」として提供された。

・領域名：作物機能開発研究領域

・研究グループ名：食品機能性研究グループ

・研究担当者：川瀬眞市朗、齋藤武、阿部大吾、野方洋一

・研究活動の概要

本年度は、農作物に含まれる生理機能性成分の研究に関して、①肝臓や筋肉等における脂質代謝促進効果をもつ機能性成分の評価系の構築と検索、②加齢に伴う生体防御の低下を改善する機能性成分の検索、③血圧が高めの方に適する食品の開発等に取り組んだ。また、米糠成分の有効活用に関して、④米糠から酸性糖を抽出、精製する手法の開発に取り組んだ。①では、筋肉におけるエネルギー代謝調節機能をもつ成分のスクリーニング法を確立した。本手法は新規であり、基礎的な研究の展開が期待される。また、肝臓における脂質代謝に関与する核内受容体PPAR α を活性化させる数種のフラボノイド（ヘスペレチン、イソサクラネチン）を見出した。本成果を基にして、これらの脂質酸分解（ β 酸化）効果を検証する。②では、カンキツ類に特有のポリメトキシフラボンがナチュラルキラー（NK）細胞を強く活性化することを見出した（中課題を代表する成果）。今後は、実験動物を用いてポリメトキシフラボンの免疫増強効果を検証する。③では、小麦ふすまの自己消化反応を利用した血圧降下ペプチドの製造法のモデルを開発し、試験製造の段階に達した。本技術を活用して、製品化に向けた検討を進める。また、④では米糠にシアル酸の存在を示唆する実験データを得た。

・主な研究成果

カンキツ類に含まれるポリメトキシフラボンがナチュラルキラー細胞を活性化することを見出した。カンキツ類は果皮の外側にポリメトキシフラボン類（ノビレチン、タンゲレチン、シネンセチン）を豊富に含んでおり、これらがナチュラルキラー（NK）細胞を強く活性化した。また、ポリメトキシフラボンは、NK細胞による標的細胞（がん細胞やウイルス感染細胞）の細胞傷害性（細胞死）に関与するパーフォリンやFasリガンド等の因子の発現を誘導することを確認した。

・研究グループとしての広報活動

平成23年11月に奈良市で開催された近畿地域マッチングフォーラム「果実、野菜および穀物に含まれる健康機能性成分とその利用」で話題提供およびポスター発表を行い、生産者や実需者、普及関係者等に麦類およびカンキツ類に含まれる健康機能性成分の紹介を行った。平成23年12月に小豆島で作物生産部会食品流通問題別研究会を開催し、カンキツ類に含まれる機能性成分の検索と商品化に関する取り組み事例を討論した。

・領域名：傾斜地園芸研究領域

・研究グループ名：カンキツ生産研究グループ

・研究担当者：根角博久、井上久義、細川雅敏、黒瀬義孝、島崎昌彦、中元陽一、國賀武、星典宏、田中宏明、植山秀紀、向井章恵

・研究活動の概要

本研究グループでは、ブランド化支援により、高収益型のカンキツ生産体系の確立を目指して、①園地整備技術の開発、②栽培情報の高度利用生産技術の開発について研究を推進している。本年度は、①としてデジタルオルソ画像に描画されている等高線を活用し、樹園地の現況地形データを生成する機能を作成した。また、小規模急勾配の水路においてU字溝とスリット板による簡易な底部取水方式による取水施設を考案し設計法を明らかにすることで、安全な取水による雨水再利用を可能とした。さらに、モノレールの高機能化に関連して「単軌条運搬機の停止位置自動制御装置」の試作を行うとともに運搬路整備用の小型管理機の改良を行った。②として、点滴かん水による土壌水分の変動は、HYDRUS 2を用いたシミュレーションで予測できる可能性を示した。また、生体情報に基づくかん水手法として、降雨が無い条件下で葉の最大水ポテンシャル（ Ψ_{max} ）の経日変化を直線近似し、極少量のかん水を行いつつ Ψ_{max} の負の勾配を維持することでその急激な変化を抑制する手法を考案した。さらに、低水分領域における

Ⅲ 研究の実施状況

土壌水分測定方法（特許第 4840803 号）を用いて傾斜地カンキツ園において土壌水分状態の場所による違いを把握できることを示すとともに、新規素材のマルチシート 8 種類を新たに試作した。

・主な研究成果

開発を進めている作業道設計支援システムに関し、等高線の描画されたオルソ画像において、等高線をトレースすることにより数 ha 規模の樹園地の現況地形データ（x、y、z）の生成を行える機能を作成した。当該機能は、今後作成する路線設計機能（道路幅、道路高さ等に関し任意に設定可能）の基礎的役割を果たすものである。

・研究グループとしての広報活動

香川国際会議場で生産者、普及関係者、研究者が集う、農研機構シンポジウム「高品質カンキツの生産と流通に貢献する革新技術と産地における展開方向」（平成 23 年 8 月 24 日）を開催した。また、愛媛県松山市において現地実証等合同現地検討会（カンキツ生産技術）・公開成果報告会（10 月 28 日）を開催し、「マルドリ方式」を応用した技術や省力化のための園内作業道整備技術の開発について講演を行うとともに、実証現地における説明や園内作業道整備の実演を行った。また、『「マルドリ方式」普及連絡会』を立ち上げ、ホームページ（<http://marudori.ac.affrc.go.jp/>）を開設した。

・領域名：傾斜地園芸研究領域

・研究グループ名：傾斜地野菜生産研究グループ

・研究担当者：長崎裕司、川嶋浩樹、畔柳武司、柴田昇平、笠原賢明、松田周、杉浦誠、木下貴文、添野和雄

・研究活動の概要

本研究グループでは、本年度、中課題「温暖地施設園芸」関係では、①パイプハウスのダブルアーチ化等による低コスト構造強化施工技術の開発、②蓄熱・断熱構造を組み込んだ日本型日光温室の基本構造の提案、③夏秋トマトについて現地実証を通して低段密植による安定増収栽培技術の確立に取り組んだ。①では、既存骨材を流用したダブルアーチ補強とスパイラル杭による浮き上がり防止措置を提案した。また、当該グループが現地実証試験を実施している愛媛県久万高原町直瀬、香川県三豊市詫間に強風観測サイトを設けた。②では、採用した布団状の高断熱資材が国内で使用されている園芸用保温資材に比べ熱貫流率が 1/2 以下と断熱性が高いことを明らかにし、香川県農試内に設置した日本型日光温室において暖房燃料使用量の 40%削減を実証するとともに、水蓄熱併用による 70%水準削減の可能性も見いだした。③では、中山間地向け施設園芸技術として、細霧ノズル付循環扇を利用した低コスト細霧冷房技術を開発した。また、夏秋トマト低段密植 2 作採りの現地実証で 15t/10a 水準の収量が得られることを明らかにするとともに、渓流水を利用した根域冷却育苗による 2 作目の高温期定植の活着・生育促進効果を現地実証で確認した。その他イチゴ関係について、収穫ロボットに対応した吊り下げ式可動ベッド開発に取り組み、慣行の 1.5 倍以上の密植を可能としながら資機材コスト 400 万円/10a 水準に抑えた低コストシステムの実証を行った。さらに、中課題「新形質花き創出」では、遺伝子組換えによる花色・香気・花形等重要形質の改変技術の開発に取り組み、高温下におけるキンギョソウの花弁成長抑制にオーキシンが関与している可能性が示唆されるなどの新たな知見を得た。

・主な研究成果

国内で使用されている従来の保温用資材と比較して、断熱性が極めて大きい布団状の高断熱資材を見出し、実用規模のミニトマト栽培日本型日光温室に適用して暖房燃料使用量を 40%以上削減できることを実証した。

・研究グループとしての広報活動

平成 23 年 11 月に幕張メッセで開催されたアグロ・イノベーション 2011 に、実用技術開発事業課題「高保温性能で暖房燃料使用量を大幅に削減する次世代型パイプハウスの開発」での共同研究機関と連携し日本省エネ温室研究会として日本型日光温室模型やパネル展示を行い、生産者を中心に研究成果を紹介した。平成 23 年 12 月の農研機構 10 周年シンポジウムで日射量対応型灌水施肥装置のパネル展示および説明を行った。

・領域名：傾斜地園芸研究領域

・研究グループ名：園芸経営研究グループ

・研究担当者：棚田光雄、齋藤仁藏、堀江達哉

・研究活動の概要

本研究グループでは、本年度、①中晩生カンキツ作における「マルドリ方式」の経営的評価、②カンキツ産地におけるブランド化推進方策の解明、③施設園芸作ビジネスモデルのプロトタイプ作成に取り組んだ。①では、「マルドリ方式」の導入条件として、追加費用がカバーできる追加粗収益を得るために必要な高品質果実の出荷割合や価格を明らかにした。②では、ブランド化に向けて「マルドリ方式」の技術習得を促す産地レベルにおける仕組みの必要性を指摘し、そのモデルを先進事例に基づいて示した。③では、中山間地の施設園芸経営において、地域内の新たな

Ⅲ 研究の実施状況

需要やニッチ需要を開拓するような販売・加工戦略をもつビジネスモデルが有効であることを確認した。

・主な研究成果

カンキツ生産における「団地型マルドリ方式」を提案した。この方式は、複数の農家が水源や液肥混入機などの設備を共同利用することによって、「マルドリ方式」に取り組めるようにする仕組みである。個別の設置に比べて経費を削減でき、また、最適な点滴かん水施肥を統一的に行うことで、参加する農家全体の果実品質が高まる。このため、産地で導入すれば「マルドリ方式」を面的に普及させ、果実のブランド化に活用できる。

・研究グループとしての広報活動

成果マニュアルとして、『団地型マルドリ方式』導入の手引き（Web版）を公表した。

・領域名：環境保全型野菜研究領域

・研究グループ名：生産基盤研究グループ

・研究担当者：村上弘治、伊藤陽子、須賀有子、福永亜矢子、佐藤恵利華

・研究活動の概要

本研究グループでは、本年度、①連作に関わる土壌生物相の特性評価、②土壌病虫害被害の予測・診断技術の開発、③病虫害低減技術の開発に取り組んだ。①では、ハウレンソウ連作土壌において、肥料成分の過剰蓄積やその偏りなどの土壌化学性ととともに、フザリウム菌数や糸状菌相等の土壌微生物性の特徴を調査した。これらは、萎凋病の発病に影響を及ぼしうる要因であり、発病要因の解明に資するものである。②では、Nested PCRを組み合わせたリアルタイムPCRにより、土壌中に低密度（0～5頭/土壌20g）で存在するサツマイモネコブセンチュウの定量が可能となった。また、秋冬ダイコン栽培におけるキタネグサレセンチュウ被害に対して、土壌締固め法およびリアルタイムPCRによる定量に基づいて信頼度の高い要防除水準を設定できた。アブラナ科野菜根こぶ病では5種類の土壌におけるDRCデータの収集、ならびに、現地生産圃場における土壌管理法と根こぶ病発病状況や生産性との関連を解析した。さらに、ハウレンソウ萎凋病の発病に対する温度環境について検討し、夜温の影響等を明らかにした。これらは、発病要因の解明、土壌診断技術の開発、土壌病虫害被害の予測と防除対策立案などに資することが期待される。③では、根こぶ病汚染土壌に対する太陽熱および還元消毒の効果およびカラシナ鋤き込みによる土壌還元消毒の夏作ハウレンソウにおける萎凋病防除効果の持続性等を評価した。これらは、耕種的防除技術の開発につながることを期待される。

・主な研究成果

「黒ボク土壌秋冬ダイコン栽培におけるキタネグサレセンチュウ被害の要防除水準」

秋冬ダイコン栽培前土壌において、従来法ではキタネグサレセンチュウが検出されなくても被害がみられた地点が認められたが、土壌締固め法を介したリアルタイムPCRによる定量検出ではそのような地点は確認されなかった。これにより、生食用ダイコンの出荷基準である病斑数10未満を基準としたキタネグサレセンチュウ被害の要防除水準として被害発生確率5%以下の高精度な水準を設定できた。

・研究グループとしての広報活動

平成23年10月に京都市で第2回根こぶ病研究会を開催し、これまでの成果や今後の研究推進方向について話題提供を行い、研究者や普及関係者、実需者と意見交換を行った。その他、学術論文や学会発表、依頼講演、広報誌・商業誌への依頼原稿を通して、土壌病虫害や土壌生物性に関する研究成果を公表した。

・領域名：環境保全型野菜研究領域

・研究グループ名：野菜栽培研究グループ

・研究担当者：生駒泰基、村上健二、山崎敬亮、吉田祐子

・研究活動の概要

本研究グループでは、本年度、①野菜の生育促進、高品質化に有効な光質制御資材の開発や遮光技術の開発、②小型ハウスに適用できる簡易設置型パッドアンドファン（PF）冷房技術の開発に取り組んだ。①では、葉菜類の生育促進に有効な光のR・G・B（赤色・緑色・青色）比を明らかにし、資材開発を行った（「主な研究成果」参照）。また、遮光処理がハウレンソウに及ぼす影響については、草丈の伸長促進に有効となる積算日射量の境界値は16.8MJ/m²/dayであることを明らかにした。また、収穫2日前の積算日射量はハウレンソウの硝酸含量と負の相関関係（ $r=-0.542\sim-0.749$ ）にあり、硝酸含量に強く影響していると推察された。以上のことはハウレンソウなどの高品質・安定栽培技術の開発に貢献するものであり、夏作ハウレンソウ産地での活用が期待できる。③では水耕栽培したトマト、コマツナを対象に、PF冷房が水分ストレスによる光合成速度・気孔コンダクタンスの低下を緩和させることを明らかにした。以上のことは、小型ハウスで夏場冷房の低コスト化が期待できることを示した。

Ⅲ 研究の実施状況

・主な研究成果

人工光下でホウレンソウや葉ネギの生育を促進する好適 RGB 比は、およそ R:G:B = 55:30:15% であることを明らかにした。また、屋外日射の RGB 比は太陽高度 20° 以上で安定し、その時の RGB 比は、全天候を勘案すると R:G:B = 35:35:30% 程度であることを明らかにした。これらを基に、開発する光質制御被覆資材の各色光の透過率は、R が紫外線を変換する蛍光資材などを用いて 110%、G と B はそれぞれ 60% と 35% 程度に制御すべきとの結果を得て、共同研究機関において光質選択性被覆資材が試作された。

・研究グループとしての広報活動

平成 23 年 6 月 1 日にプレスリリース「高設栽培イチゴの収穫中休み軽減技術」を行い、日本農業新聞、中国新聞、山陽新聞に記事が掲載された。平成 23 年 10 月に農研機構セミナー「野菜の土壌病虫害防除における環境保全的対策研究の最前線」(京都市)(生産基盤研究グループ、水田作研究グループとの共催)を開催した。平成 23 年 11 月 17 日にイチゴ現地セミナー(神戸市 兵庫県農業改良普及センター)を開催し、研究者や普及指導員に、イチゴの収穫中休み軽減技術に関する研究を紹介した。平成 23 年 11 月 30 日～12 月 2 日にアグリビジネス創出フェア(千葉市)に「イチゴ高設栽培における低コスト培地昇温抑制技術」について出展した。平成 23 年 12 月 14 日第 4 回産学官連携交流セミナー(東京都)において「イチゴ高設栽培における低コスト培地昇温抑制技術」について講演を行った。

・領域名：畜産草地・鳥獣害研究領域

・研究グループ名：黒毛和種放牧飼料研究グループ

・研究担当者：山本直幸、高橋佳孝、大谷一郎、大島一修、柴田昌宏、松本和典、小島孝敏、堤 道生

・研究活動の概要

本研究グループでは、本年度、①牧草等の自給飼料の特性に基づく草地管理技術の開発、②肉用繁殖牛の栄養動態・繁殖性に基づく飼養管理技術の開発、③自給飼料資源を活用した牛肉の評価・生産技術の開発、④牛の発情微弱化要因の解明に基づく発情発現明瞭化方策の開発、⑤妊娠維持機構の解明に基づく妊娠モニタリング指標の策定に取り組んだ。①では、ライフサイクルアセスメント(LCA)により、肉用種繁殖牛の放牧は舎飼いと比べ環境への影響が小さいこと、代謝プロファイルテスト(MPT)と牛体評価をもとに、晩秋期以降の多様な随伴種が混在するスキ優占草地で一定期間は補助飼料なしで黒毛和種繁殖牛の飼養が可能であることを明らかにした。これは、中国地域において、晩秋期以降の放牧期間延長の可能性を示すものであり、放牧の環境に対する影響調査の結果とあわせて、繁殖雌牛の放牧飼養の拡大に貢献することが期待される。また、秋期の緑葉期間が長い暖地型シバ草種の放牧での利用性を明らかにするために、生育性、耐寒性の調査を開始した。②では、黒毛和種の妊娠後期からの栄養状態が繁殖性に及ぼす影響を明らかにするため、妊娠状況、分娩後の繁殖性について調査を進めるとともに、受精、受胎の状況と主要抗酸化酵素遺伝子との関連性を明らかにするため、遺伝子発現検出系を構築して解析を行っている。また、黒毛和種仔牛の発育性向上を図るために、母牛の仔育て能力への関与が推定される泌乳ホルモン制御遺伝子を解析し、変異を同定している。③では、耕作放棄地の野草で生産した黒毛和種経産牛肉「放牧仕上げ熟ビーフ」の不飽和脂肪酸 n-6/n-3 比は 4 前後と適性値であること、黒毛和種去勢牛を粗飼料多給の舎飼い後にイタリアンライグラス草地での放牧(3ヶ月)と野草地での放牧(5ヶ月)を行い、28ヶ月齢でと畜した肉は、濃厚飼料多給の舎飼いとの比較で増体が遅延したが、粗タンパク質含量に変化はなく、n-3系脂肪酸の割合は増加することを明らかにした。④では、効率的な発情誘起技術の開発について、⑤では、妊娠モニタリングの指標となる遺伝子の探索を進めている。

・主な研究成果

LCAによる放牧を導入した肉用牛の繁殖経営システムにおける環境影響評価について、農家への聞き取り調査から、放牧を導入している農家は標準的な舎飼い経営の農家との比較で、粗飼料自給率の高さを反映して温室効果ガス排出量が 17～21%、エネルギー消費量が 17～37% 低く算出されるが、冬期の輸入粗飼料利用や放牧地への施肥は環境への影響が大きくなることを明らかにした。

・研究グループとしての広報活動

「放牧仕上げ熟ビーフ(商標登録出願中)」について、平成 23 年 9 月に開催されたフードテック 2011- 国際食品産業展 2011 大阪 - ではプレゼンテーションと展示を、また、平成 23 年 11 月開催の食のブランド・ニッポン 2011 および中国四国地域アグリビジネス創出フェアでは展示を行い、いずれも試食提供とあわせて消費者・実需者等へ生産背景、肉質の機能性成分における特徴を紹介した。

・領域名：畜産草地・鳥獣害研究領域

・研究グループ名：鳥獣害対策研究グループ

Ⅲ 研究の実施状況

- ・研究担当者：江口祐輔・上田弘則・山田彩
- ・研究活動の概要

本研究グループでは、本年度、①イノシシ被害を抑制する草地管理技術の確立②イノシシにおける電気刺激を用いた被害対策技術の開発、③ニホンザルにおける忌避物質の効果検証④ニホンザル加害群を集落へ誘引する要因の解明⑤野生動物の被害を抑制する竹林管理技術の確立⑥野生動物の登り行動および登坂能力の解明⑦中型動物用の電気柵の開発（試験地：埼玉県）に取り組んだ。①では、中国地域の推奨品種である5種の牧草のうち、ライ麦がイノシシの被害に遭いにくいことを明らかにした。②では、被害作物に直接通電させることで野生獣に嫌悪刺激を与えられることを明らかにした。③では、現場で使用されている忌避物質の情報を収集した。④では、対象地域における加害群の数を明らかにした。⑤では、竹林内部でも陽があたる竹のない場所では野生動物の出没が少ないことを明らかにした。⑥では、ニホンザルが登りにくい支柱の条件、および登坂できる傾斜角度を明らかにした。⑦では、中型野生動物全般に効果があり、かつ、農業者の作業の妨げにならない柵の開発に成功した。

- ・主な研究成果

「寒地型牧草種間のイノシシによる採食被害度の違い」

イノシシ被害を抑制する草地管理技術を開発するために、牧草種間のイノシシによる採食被害の違いを明らかにした。5種類の寒地型牧草を播種し、イノシシが牧草を食べられない小型柵を設置して、柵内外の牧草の現存量を調査した。その結果、ライムギの被害が最も少なかった。

- ・研究グループとしての広報活動

研究グループとして、年間60回を超える受託による被害対策研修を行い、近畿中国四国管内を始め、全国で研修普及活動を行った。研修内容はイノシシ、シカ、サル、ハクビシンアライグマ、アナグマ、タヌキ、モグラ、カラスの対策、獣害に強い畑作りや環境管理、被害を軽減させる正しい捕獲方法など、多岐にわたった。また、近中四農研の主催で鳥獣被害対策技術指導研修会を開催し、各地域において自立できる指導者の養成を行った。本年度は鳥取県と愛媛県において年間各4回研修を行った。また、大学、高校、小学校において特別講義や出前授業を行い、次世代の育成にも力を入れた。研究グループの成果を交えた被害対策について年間を通して農業雑誌、農業新聞、畜産雑誌、農業共済誌に連載、掲載された。学術論文はハクビシンの研究3編、イノシシの研究1編、サルの研究1編が掲載された。

IV 平成 23 年度研究予算課題一覧

I 食料安定供給のための研究開発

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
1 地域の条件・資源を活かした高生産性水田・畑輪作システムの確立		
(1) 新世代水田輪作の基盤技術と低コスト生産システムの構築		
ア 地域の条件に対応した低コスト・高生産性水田輪作システムの確立と実証		
(ア) 中小規模水田に対応した生産性向上のための輪作システムの確立		
a 地下水制御システムを利用した安定多収栽培技術の開発		
(a) 地下水制御システムを利用した安定多収栽培技術の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 地下水制御システム圃場における土壌中の水分・養分の動態解明	農地・水環境研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) ダイズの雑草・土壌病害抑制のための地下水制御方法の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 地下水制御システムを利用した水稲の節水型直播栽培技術の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(e) 大豆の不耕起密条無中耕無培土栽培技術の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(f) 小麦と裸麦の安定多収高品質栽培技術の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(g) 瀬戸内地域における地下水制御システムを利用した安定多収水田輪作体系の確立	機械作業・情報研究グループ 農地・水環境研究グループ 輪作体系研究グループ 病虫害研究グループ	水田底力
b 水稲直播・麦・大豆の省力・低コスト栽培管理技術の開発		
(a) 水稲直播・麦・大豆の省力・低コスト栽培管理技術の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 食用稲・新規需要米の乾田直播栽培の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 水稲直播き栽培における省力・低コスト病害防除技術の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 大豆の狭畦無中耕無培土栽培技術の開発および現地実証	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(e) 大豆病虫害の総合的防除による青立ち等被害の防止技術の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(f) 簡易耕による麦類・大豆栽培技術の開発	機械作業・情報研究グループ	運営費交付金(一般)
(g) 播種作業における播種機調整の半自動化	機械作業・情報研究グループ	運営費交付金(一般)
(h) 低草高型草種による畦畔法面の省力的管理技術の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(i) 大豆育成系統「四国3号」の省力・低コスト栽培現地実証試験	輪作体系研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
(j) 遺伝子組換え Bt ダイズの生物多様性影響評価手法の開発	病虫害研究グループ	新農業展開
(k) 農業機械におけるシンプル化と情報化・高度化を両立する通信制御共通化技術の開発(共通リモートコントローラ接続式作業機 ECU 及び共通リモートコントローラの開発)	機械作業・情報研究グループ	実用技術
(l) 小型除草ロボット利用技術の開発(植生転換技術の開発)	輪作体系研究グループ	アシスト
c 中小規模水田における高生産性輪作体系の現地実証と経済性評価		
(a) 中小規模水田における高生産性輪作体系の現地実証と経済性評価	農業経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 鉄コーティング種子を活用した代かき・無代かき直播技術の確立	水田作研究領域	運営費交付金(一般)

IV 平成 23 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
(c) 異なる条件で浸種・乾燥させた水稻種子の発芽・出芽特性の解明	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 鉄コーティング種子を用いたイネ湛水直播栽培と不耕起播種機を用いた麦・大豆栽培による低コスト水田輪作システムの構築	農業経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(e) モリブデン添加が鉄コーティング水稻湛水直播栽培の出芽・苗立ちに及ぼす影響解明および土壌-植物間における添加モリブデンの動態に関する研究	輪作体系研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
(f) 鉄コーティング種子を用いたイネ湛水直播栽培とトリプルカット播種機を用いたムギ・ダイズ栽培による低コスト水田輪作システムの構築と実証	農業経営研究グループ 機械作業・情報研究グループ 輪作体系研究グループ 水田作研究領域	水田底力
(g) 鉄コーティング種子を活用した無代かき直播技術の確立	水田策研究領域 病虫害研究グループ (独)北海道立総合研究機構 島根県 広島県 岡山県 県立広島大学	実用技術
(2) 土地利用型耕種農業を支える先導的品種育成と基盤的技術の開発		
ア 米粉等加工用・業務用水稻品種の育成及び米の未利用成分利用技術の開発		
a 気象変動に対応し、低コスト栽培に適した業務用向け主食用水稻品種の育成		
(a) 温暖地西部向き水稻品種の育成	水稻育種研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) ゲノム情報を利用したイネ高温耐性品種の育成(2) 温暖地西部向き優良品種	水稻育種研究グループ	気候変動
(c) いもち病抵抗性と陸稲由来縞葉枯病抵抗性の同質遺伝子系統の開発	水稻育種研究グループ	気候変動
(d) ジーンバンク事業	水稻育種研究グループ	ジーンバンク
b 低コスト生産を可能とする米粉パン、米粉麺等加工向け多収水稻品種の育成		
(a) 温暖地西部向き加工用多収水稻品種の育成	水稻育種研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 低アミロース巨大胚米「中国胚 202 号」の普及可能性を検証するための岡山県瀬戸内市および津山市での現地実証試験	水稻育種研究グループ	運営費交付金 (特別強化費)
c 米粉利用などに適した穀粒成分特性の解明と利用技術の開発		
(a) 製粉特性の優れる系統の簡易選抜法の開発および品質特性の解明	水稻育種研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 酒米の酒造適性に及ぼす高温障害を抑制する最適作期決定システムと水管理技術の開発	水稻育種研究グループ	実用技術
d 需要拡大のための米の未利用成分新規素材の特性解明と利用技術の開発		
(a) 需要拡大のための米の未利用成分新規素材の特性解明と利用技術の開発	食品機能性研究グループ	運営費交付金(一般)
イ 水稻収量・品質の変動要因の生理・遺伝学的解明と安定多収素材の開発		
a 収量性 QTL の収量向上効果の検証と多収水稻の理想型モデルの確立		
(a) 収量ポテンシャル向上に適した穂のシンク構造の評価	栽培管理研究グループ	運営費交付金(一般)

IV 平成 23 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
(b) 水稲における穂のシンク構造評価の遺伝解析に用いるマーカーの探索	栽培管理研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
b 気象変動に対する生育・品質・収量等の安定化に関与する遺伝要因と生理生態機構の解明		
(a) 登熟期の高温が水稲胚乳組織の発達・老化に及ぼす影響の解明	栽培管理研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 水稲胚乳組織における細胞死進行過程の蛍光イメージングによる検出	栽培管理研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
ウ 気候区分に対応した用途別高品質・安定多収小麦品種の育成		
a 栽培地域の気象生態に対応した高品質な用途別小麦品種の育成		
(a) 栽培地域の気象生態に対応した高品質な用途別小麦品種の育成	小麦育種研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 異種ゲノム染色体転座小麦系統の窒素吸収量の分析と育種素材の開発	小麦育種研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
(c) 山口県におけるパン用有望系統の選定と製パン性の評価	小麦育種研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
(d) 製パン性に優れる温暖地西部向け早熟小麦品種の育成	小麦育種研究グループ	水田底力
(e) 西日本向けコムギのカドミウム低吸収品種の開発	小麦育種研究グループ	リスク低減
(f) 栽培法・資材施用法がコムギの品質に及ぼす影響を考慮したコムギのカドミウム吸収抑制技術の開発	小麦育種研究グループ	リスク低減
(g) ジーンバンク事業	小麦育種研究グループ	ジーンバンク
b 小麦の品質向上技術の開発		
(a) 加工適性に優れるグルテンタンパク質組成の解明と DNA マーカーの開発	小麦育種研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) モチ性を含む低アミロース性パンコムギの脂質組成の解明	小麦育種研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 大麦の貯蔵タンパク質の「グルテン化(重合体形成)」のための仮説実証研究	小麦育種研究グループ	運営費交付金 (特別強化費)
(d) パン・中華めんの加工適性に優れるグルテンタンパク質組成の解明と DNA マーカーの開発	小麦育種研究グループ	水田底力
(e) 食料自給率と高品質安定生産を実現する小麦・大麦品種の開発と普及促進	小麦育種研究グループ	実用技術
(f) オオムギ染色体導入コムギのプロテオーム解析と材料調製	小麦育種研究グループ	イノベーション創出
c DNA マーカー等の開発・利用による抵抗性遺伝子の集積と複合障害抵抗性素材の開発		
(a) コムギ近縁野生種由来の染色体を識別する DNA マーカーの開発、マーカー等を活用したカドミウム低蓄積性系統の開発	小麦育種研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 普通系コムギにおけるコムギ野生種の染色体添加系統および転座系統を用いた AFLP 解析	小麦育種研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
エ 需要拡大に向けた用途別高品質・安定多収大麦品種の育成		
a 栽培地域の気候生態に対応した多収で加工適性に優れた大麦品種の育成		
(a) 栽培地域の気候生態に対応した多収で加工適性に優れた大麦品種の育成	大麦育種研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) ジーンバンク事業費	大麦育種研究グループ	ジーンバンク
b 胚乳成分等を改変し、付加価値のある新規特性をもつ大麦品種の育成		
(a) 病害抵抗性や精麦品質に関する遺伝子マーカーの開発と多収・高品質なはだか麦品種の育成	大麦育種研究グループ	運営費交付金(一般) 水田底力

IV 平成 23 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
(b) “もち麦のγ-アミノ酪酸 (GABA) の高生産技術” の有効性の検証	大麦育種研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
(c) 大麦新品種「キラリモチ」の粉利用と生産拡大に向けた普及活動	大麦育種研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
c 耐病性や出穂安定化の形質を付与した大麦多収系統の開発		
(a) 不良環境適応性の高いはだか麦系統の選定	大麦育種研究グループ	運営費交付金 (一般)
(b) 多角的アプローチによる加工需要にマッチするはだか麦栽培体系の開発	大麦育種研究グループ	実用技術
d 精麦品質等に優れた大麦系統開発のための選抜・加工利用技術の開発		
(a) 大麦黄色原因成分の解明と色相を改善する育種素材の評価	食品機能性研究グループ	運営費交付金 (一般) 水田底力
オ 気候区分に対応した安定多収・良品質大豆品種の育成と品質制御技術の開発		
a 基幹品種のピンポイント改変等による優良品種の育成		
(a) 基幹品種のピンポイント改変等による優良品種の育成	大豆育種研究グループ	運営費交付金 (一般)
(b) 大豆新品種の普及対策:「四国1号」の現地栽培技術支援および「四国3号」の味噌加工実機試験	大豆育種研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
(c) 大豆新品種候補「四国3号」の味噌加工実機試験	大豆育種研究グループ	運営費交付金 (特別強化費)
(d) 高温・干ばつ耐性の導入とマーカーの開発	大豆育種研究グループ	気候変動
(e) ラッカセイわい化ウイルス抵抗性に関する DNA マーカーの開発	大豆育種研究グループ	気候変動
(f) 食料自給率向上を目指した豆類優良品種の育成	大豆育種研究グループ	実用技術
(g) 遺伝子組換え Bt ダイズの生物多様性影響評価手法の開発	大豆育種研究グループ	新農業展開
(h) ジーンバンク事業	大豆育種研究グループ	ジーンバンク
b 草型や栽培特性の改変による省力超多収品種・系統の開発		
(a) 草型や栽培特性の改変による省力超多収品種・系統の開発	大豆育種研究グループ	運営費交付金 (一般)
c 大豆の需要拡大を可能とする新規用途品種・素材の開発		
(a) 大豆の需要拡大を可能とする新規用途品種・素材の開発	大豆育種研究グループ	運営費交付金 (一般)
(3) 農業技術の経営的評価と経営管理システムの確立		
ア 新技術の経営的評価と技術開発の方向及び課題の提示		
a 農業経営及び地域農業の動向解析に基づく技術開発方向の提示		
(a) 近畿中国四国における農業経営及び地域農業の動向解析に基づく技術開発方向の提示	農業経営研究グループ	運営費交付金 (一般)
b 経営部門別新技術及び技術体系の経営的評価と普及手法の提示		
(a) 経営部門別新技術及び技術体系の経営的評価と普及手法の提示 (中山間地域における水田輪作体系の導入定着条件の解明)	農業経営研究グループ	運営費交付金 (一般)
イ 地域農業を革新する6次産業化ビジネスモデルの構築		
a 多角化型園芸作ビジネスモデルの策定		
(a) 中山間地のトマト作等施設園芸経営における多角化ビジネスモデルの策定	園芸経営研究グループ	運営費交付金 (一般)
b 直売所を核とした地域農業多角化ビジネスモデルの策定		
(a) 中山間地域における直売所活動の多角化ビジネスモデルの構築	農業経営研究グループ	運営費交付金 (一般)

IV 平成 23 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
(b) 環境調和型農業振興による地域農業多角化ビジネスモデルの構築	農業経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 都市近郊直売所における切り花の需給調整型ビジネスモデルの策定	農業経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 耕種農家を主体とした地域資源活用による堆肥づくりシステムの形成方策と運営方法	農業経営研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
(e) 都市域直売切り花の需要に対応する特定日開花・常温品質保持技術の開発	農業経営研究グループ	実用技術
(f) 自然共生型農業への転換・移行に関する研究―「成熟期有機農業」を素材として	農業経営研究グループ	科研費
2 自給飼料基盤の拡大・強化による飼料生産性向上と効率的利用技術の開発		
ア 低コスト栽培向きの飼料用米品種及び稲発酵粗飼料用品種の育成		
a 低コスト生産に適し食用品種との識別性を有する多収飼料用米品種の育成		
(a) 温暖地西部向き多収飼料用米品種の育成	水稻育種研究グループ	運営費交付金(一般)
b 高い消化性を持ち地域の環境条件に対応した稲発酵粗飼料用品種の育成		
(a) 温暖地西部向き稲発酵粗飼料用品種の育成	水稻育種研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 飼料用イネ有望系統「中国飼 205 号」の普及可能性を検証するための複数地域での現地実証試験	水稻育種研究グループ	運営費交付金 (特別強化費)
(c) 多収で消化性に優れた稲発酵粗飼料用品種等の育成	水稻育種研究グループ	国産飼料
イ 地域条件を活かした多様な自給飼料多給型家畜生産及び高付加価値畜産物生産技術の開発		
(ア) 飼料用稲や牧草等の多様な自給飼料資源を活用した高品質牛肉生産技術の開発		
a 高糖分飼料用稲等の生産・調製支援システムの開発		
(a) 高糖分飼料用稲の生育特性の解明および乾田直播等による低コスト・多収生産技術の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 牧場調製型収穫システムの開発	機械作業・情報研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 携帯情報端末を用いた作業計画・管理支援システムの開発	機械作業・情報研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 広域コントラクターによる飼料イネ低コスト生産体系の現地実証と経済性評価	機械作業・情報研究グループ	運営費交付金(一般)
(e) 高糖分飼料イネ「たちすずか」の普及・定着のための現地研究会開催	黒毛和種・放牧飼料研究グループ	運営費交付金 (特別強化費)
b 牧草等の自給飼料の特性に基づく草地管理技術の開発		
(a) 野草冬期放牧地の植生動態と牧養力・放牧適性の解明	黒毛和種・放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) L C A を用いた肉用種繁殖牛の放牧新技術に関する環境影響評価	黒毛和種・放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 放牧地用の暖地型シバ草種の生育特性の解明	黒毛和種・放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 複合型生物資源モニタリングを活用した広域連携周年放牧技術の開発と実証	黒毛和種・放牧飼料研究グループ 岡山県 広島県 山口県 (社)広島県畜産協会	実用技術
(e) L C A を用いた肉用種繁殖牛の放牧新技術に関する環境影響評価	黒毛和種・放牧飼料研究グループ	科研費

IV 平成 23 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
c 肉用繁殖牛の栄養動態・繁殖性に基づく飼養管理技術の開発		
(a) 妊娠後期からの栄養状態等が分娩後の繁殖性に及ぼす影響の解明	黒毛和種・放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 末梢血白血球の遺伝子発現動態と繁殖性との関連性解析	黒毛和種・放牧飼料研究グループ	運営費交付金(特別強化費)
(c) 過剰排卵処置に対する卵巣の反応性の安定化に向けた卵胞波制御技術の開発	黒毛和種・放牧飼料研究グループ	運営費交付金(所内支援制度)
(d) 黒毛和種繁殖雌牛の子育て能力と CD38 遺伝子変異との関連性解析	黒毛和種・放牧飼料研究グループ	運営費交付金(所内支援制度)
d 自給飼料資源を活用した牛肉の評価・生産技術の開発		
(a) 耕作放棄地を活用した黒毛和種経産牛の「放牧仕上げ熟ビーフ」の開発	黒毛和種・放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 自給粗飼料を活用した黒毛和種去勢牛の肥育技術の開発	黒毛和種・放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 粗飼料多給肥育における骨格筋形成関連因子の発現解析	黒毛和種・放牧飼料研究グループ	運営費交付金(所内支援制度)
(d) 放牧仕上げ「熟ビーフ」の生産・流通・消費に関する現地実証試験	黒毛和種・放牧飼料研究グループ	運営費交付金(特別強化費)
(e) ストレス関連指標による放牧肥育過程の健全性評価	黒毛和種・放牧飼料研究グループ	国産飼料
(f) ストレス関連指標による放牧肥育過程の健全性評価	黒毛和種・放牧飼料研究グループ	国産飼料
(g) 注射だけで簡便に LH 分泌を活発にする持続型キスベプチン剤の開発と臨床応用	黒毛和種・放牧飼料研究グループ	科研費
3 家畜の代謝特性に基づく飼養管理及び家畜の安定供給のための育種・繁殖技術の開発		
ア 受精・妊娠機構の解明と調節による雌牛の繁殖性向上技術の開発		
a 牛の発情微弱化要因の解明に基づく発情発現明瞭化方策の開発		
(a) 効率的な発情誘起技術および非侵襲性発情発見装置の開発	黒毛和種・放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般)
b 妊娠維持機構の解明に基づく妊娠モニタリング指標の策定		
(a) 妊娠モニタリング指標の策定	黒毛和種・放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般)
4 園芸作物の高収益安定生産システムの開発		
(1) 日本型の高収益施設園芸生産システムの構築		
ア 日光温室等の活用による温暖地における高収益・安定生産施設園芸技術の開発		
a 日本型日光温室およびパイプハウスリノベーション技術の開発		
(a) 日本型日光温室の半閉鎖環境における CO2 環境の解析	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) パイプハウス耐風対策のための強風域推定手法の開発	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 高保温性能で暖房燃料使用量を大幅に削減する次世代型パイプハウスの開発	傾斜地野菜生産研究グループ 農業工学研究所 香川県 東海大学 高知大学 佐藤産業(株) (株)G T スパイラル	実用技術

IV 平成 23 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
(d) 既存の自然換気型温室に利用可能な簡易設置型パッドアンドファン冷房の開発	傾斜地野菜生産研究グループ	実用技術
(e) 小型除草ロボット利用技術の開発 (試作・改良・実用機の開発と結合試験 (b))	傾斜地野菜生産研究グループ	アシスト
(f) 省エネルギー高生産を目指したバラ株元加温技術の開発	傾斜地野菜生産研究グループ	実用技術
b 中山間地域資源を活用した環境負荷低減制御技術の開発		
(a) 低コスト細霧冷房システムの実用化	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金 (一般)
(b) 日光温室の導入検討に活用できる支援システムの開発	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金 (一般)
(c) 温室内の多湿・結露を軽減する環境制御法の提示	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金 (一般)
(d) 施設園芸における暑熱対策実用化検討および連絡会議の実施	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金 (特別強化費)
(e) 日本型日光温室における室温推定モデル開発のための熱収支動態解明	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
(f) 露地野菜における土壌蓄積リン利用技術の開発と減肥の実証	傾斜地野菜生産研究グループ	気候変動
(g) マイクロ水車発電システム・地中熱交換の利用 (地中熱交換局所環境制御等)	傾斜地野菜生産研究グループ	気候変動
c 日本型日光温室等による夏秋トマト生産を核にした高収益・周年安定生産技術体系の構築		
(a) 吸水不織布を用いた気化冷却による苗の活着改善技術の開発	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金 (一般)
(b) トマト低段密植栽培における肥効調節型肥料を利用した簡易肥培管理技術の開発	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金 (一般)
(c) 中山間地の冷水資源を活用した夏季高温期の育苗期における根域冷却技術の開発	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金 (一般)
(d) 日本型日光温室等による夏秋トマト生産を核にした高収益・周年安定生産技術体系の経済的評価	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金 (一般)
(e) トマト防根給水ひも栽培における肥効調節型肥料の給水タンク内施与による簡易・低コスト肥培管理法の開発	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
(f) 建設足場資材利用園芸ハウスの施工技術並びに日射量対応型極微量灌水施肥装置についての技術指導	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
(g) 周年型高密度イチゴの超省力 10 t 採り生産システムの現地実証	傾斜地野菜生産研究グループ	アシスト
(h) 密度は高く、収穫は長く一中空構造栽培槽で実現する「勝てる」イチゴ	傾斜地野菜生産研究グループ	実用技術
(i) ジーンバンク事業費 (シンビジウム特性調査)	傾斜地野菜生産研究グループ	ジーンバンク
(j) ジーンバンク事業費 (シンビジウム栄養体保存)	傾斜地野菜生産研究グループ	ジーンバンク
(k) ジーンバンク事業費 (資源作物遺伝資源の特性評価及び育種素材化)	傾斜地野菜生産研究グループ	ジーンバンク
イ 生育開花機構の解明によるキク等の主要花きの効率的計画生産技術の開発		
a キク等の花成反応の分子機構の解明と高精度開花調節技術の開発		
(a) キク等の花成反応の分子機構の解明と高精度開花調節技術の開発	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金 (一般)
(b) 間欠冷蔵処理がイチゴと花き種苗の花成反応に及ぼす影響	傾斜地野菜生産研究グループ	科研費
ウ 分子生物学的手法による新形質花きの創出		

IV 平成23年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
a 遺伝子組換えによる花色・香気・花形等重要形質の改変技術の開発		
(a) オーキシン生合成経路と阻害剤作用の解析	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) フェニアラニアンモリアーゼ 特異的阻害剤の作用解析と花色・香気制御への応用	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(所内支援制度)
(c) オーキシン生合成経路と阻害剤作用の解析	傾斜地野菜生産研究グループ	イノベーション創出
(2) 果樹・茶の持続的高品質安定生産技術の開発		
ア カンキツのブランド化支援のための栽培情報の高度利用生産技術と園地整備技術の開発		
a 軽労化と高品質果実生産を可能とする園地整備技術と運搬作業体系の開発		
(a) 作業道整備のための設計支援システムの開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) モノレールの高機能化技術の開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 傾斜地カンキツ園の作業道整備技術の開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) カンキツ園のかん水のための効率的な水源確保技術の開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(e) 園地整備が土砂動態に及ぼす影響の予測手法の確立	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(f) 小ギク収穫機の実用化と普及を促進する広域連携試験	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(特別強化費)
(g) 周年型高密度植イチゴの超省力10t採り生産システムの現地実証	カンキツ生産研究グループ	アシスト
(h) クリ新品種「ぼろたん」の産地拡大の阻害要因である凍害発生の抑制技術の開発	カンキツ生産研究グループ	実用技術
(i) 小型除草ロボット要素技術の開発(草刈部の開発)	カンキツ生産研究グループ	アシスト
b 栽培・生体情報に基づいた高品質カンキツ生産技術の開発		
(a) マルチシート・点滴かん水使用時の土壌水分動態の解明	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 自動点滴かん水施肥による苗木の生育促進のための適正かん水量の解明	栽培管理研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 樹の水分状態に基づいたかん水管理技術の開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 傾斜地カンキツ園の精密栽培情報評価システムの開発とその新品種導入への利用技術の開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(e) 放射冷却強度指数による地上気象値(気温・湿度)推定技術の確立	カンキツ生産研究グループ	知財促進ハイウェイ(JST)
c ブランド化支援のための技術の実証と体系化		
(a) 自動点滴かん水施肥技術を用いたカンキツの高品質果実安定生産技術の体系化	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 栽培環境を制御するマルチ資材の活用指針の策定	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 中晩生カンキツ生産における新技術導入の経営的評価	園芸経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 高品質果実生産とブランド化を推進するためのカンキツ産地モデルの策定	園芸経営研究グループ	運営費交付金(一般)
5 地域特性に応じた環境保全型農業生産システムの確立		
(1) 土壌生産力の総合的管理による持続的生産技術の開発		
ア 環境負荷物質の広域動態モデル策定と生産技術の環境負荷評価法の開発		
a 土地利用に基づく河川水質予測モデルの広域・汎用化		
(a) 土地利用に基づく河川水質予測モデルの広域・汎用化	農地・水環境研究グループ	運営費交付金(一般)

IV 平成 23 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
(b) 地球温暖化の抑制と水質保全に資する地域資源活用型農地管理技術の実証と導入促進 (地理情報等の活用による水系への負荷量推定法の改良)	農地・水環境研究グループ	実用技術
b 水質浄化・環境負荷低減技術の開発と実証		
(a) 水質浄化・環境負荷低減技術の開発と実証	農地・水環境研究グループ	運営費交付金 (一般)
(b) 堆肥洗浄による低カリウム堆肥製造の可能性の検討	農地・水環境研究グループ	運営費交付金 (一般)
(c) 露地野菜における土壌蓄積リン利用技術の開発と減肥の実証	農地・水環境研究グループ	気候変動
(d) 地球温暖化の抑制と水質保全に資する地域資源活用型農地管理技術の実証と導入促進	農地・水環境研究グループ (独) 北海道立総合研究機構	実用技術
(e) 低コスト養液土耕装置を利用した露地野菜における土壌蓄積リン利用技術の開発と減肥の実証	農地・水環境研究グループ 北海道 秋田県 愛知県 岡山大学	実用技術
(f) 低コスト養液土耕装置を利用した露地野菜における土壌蓄積リン利用技術の開発と減肥の実証	農地・水環境研究グループ	気候変動
c 水質浄化・環境負荷低減技術の環境影響評価		
(a) 農地排水の水質負荷影響に対するリスク管理技術の開発	農地・水環境研究グループ	運営費交付金 (一般)
(b) 地球温暖化の抑制と水質保全に資する地域資源活用型農地管理技術の実証と導入促進 (既存情報を用いた化学肥料と地域資源活用の LCA)	農地・水環境研究グループ	実用技術
イ 土壌生物機能を核とした土壌生産力評価法の開発		
a 連作等に関わる土壌生物相の特性評価		
(a) ホウレンソウ連作土壌の微生物相の特性評価	生産基盤研究グループ	運営費交付金 (一般)
(2) 生物機能等の農業代替技術を組み込んだ環境保全型病害虫・雑草防除技術の開発と体系化		
ア 生物機能等を活用した病害防除技術の開発とその体系化		
a ナス科野菜の青枯病等土壌病害の発生を抑制する合理的な栽培体系の確立と実証		
(a) 抵抗性誘導物質及び資材のナス科野菜の青枯病等に対する防除効果の検討	病害虫研究グループ	運営費交付金 (一般)
イ 土着天敵等を利用した難防除虫害の安定制御技術の構築		
a 優良天敵の効率的選出法と天敵増強法の開発		
(a) 飛ばないナミテントウの野外集団との交雑による大量増殖に適した系統への改良	病害虫研究グループ	運営費交付金 (一般)
(b) 有用天敵の薬剤抵抗性検討選抜技術の開発	病害虫研究グループ	運営費交付金 (一般)
(c) フェロモントラップや色彩粘着板を利用した調査法の検討 (2)	病害虫研究グループ	発生予察
(d) 四国 4 県連携による I Y S V の緊急防除対策技術の開発	病害虫研究グループ	実用技術
(3) 環境保全型農業及び有機農業の生産システムの確立		
ア 地域条件に対応した環境保全型生産システムの確立		
(ア) 土壌病害虫診断と耕種的防除技術開発による野菜の環境保全型生産システムの構築		
a メタゲノム解析等を用いた土壌病害虫被害の予測・診断技術の開発		
(a) メタゲノム線虫診断の導入による殺線虫剤使用量の 30%削減	生産基盤研究グループ	運営費交付金 (一般)

IV 平成 23 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
(b) アブラナ科野菜根こぶ病に関する土壌診断技術の開発	生産基盤研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) ホウレンソウ萎凋病等、土壌伝染性病害の発病要因の解明	生産基盤研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 土壌の生物性、理化学性に基づく土壌病害発生リスクの予測・診断技術の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(e) レタスビッグベイン病の土壌診断技術の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(f) RIPA 法による植物ウイルス病診断の利用拡大	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(g) 施設野菜における病害抑制に関わる微生物群集の制御技術に関する研究	病虫害研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
(h) アブラナ科野菜根こぶ病の総合的管理技術の開発	生産基盤研究グループ	気候変動
(i) メタゲノム線虫診断の導入による殺線虫剤使用量の30%削減	生産基盤研究グループ	実用技術
(j) ジャガイモ・テンサイ等の畑作物の共生微生物の群集構造解析	病虫害研究グループ	気候変動
(k) 土壌微生物の均等度評価手法の開発	病虫害研究グループ	科研費
(l) (2) 営農活動による炭素貯留調査	生産基盤研究グループ	環境保全型農業生産 対策事業費
b 生育制御と病虫害防除に有効な光質環境の解明と照明技術の開発		
(a) 光質制御被覆材を用いた光のRGB比制御による葉菜類の生育促進	野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 野菜・花きの生産安定技術の開発(遮光制御を用いた温暖化によるホウレンソウの収量・品質低下抑制技術の開発)	野菜生産研究グループ	気候変動
(c) 野菜・花きの生産安定技術の開発(イチゴ促成栽培における気化潜熱利用局所冷却法による長期安定生産技術の開発と産地実証)	野菜生産研究グループ	気候変動
(d) 密度は高く、収穫は長く一中空構造栽培槽で実現する「勝てる」イチゴ	野菜生産研究グループ	実用技術
(e) 光質制御被覆材を用いた光のRGB比制御による葉菜類の生育促進	野菜生産研究グループ	光応答
(f) 既存の自然換気型温室に利用可能な簡易設置型パッドアンドファン冷房の開発	野菜生産研究グループ	実用技術
(g) 間欠冷蔵処理によるイチゴ花芽分化促進技術の確立	野菜生産研究グループ	実用技術
c 露地や非閉鎖環境の施設での野菜栽培に活用できる土着天敵利用技術の開発		
(a) 景観植物「スカエボラ」を用いた植生管理技術の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) DNAによる捕食歴解析からの捕食性土着天敵の評価	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 露地果菜類における飛ばないナミテントウ利用法の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 天敵涵養植物「スカエボラ」を利用した土着天敵、市販天敵の複合利用による促成栽培ナスの虫害防除体系の確立	病虫害研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
(e) "土着"天敵とは何か? 遺伝子交流からのアプローチ	病虫害研究グループ	科研費
d 耕種的手法を中心とした病害虫低減・高品位生産技術の開発		
(a) 生物的土壌消毒と持続的土壌管理による土壌病害防除技術の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) カラシナ、エンバク等の効果的鋤き込み方法の検討と夏作ホウレンソウにおける防除効果の検証	生産基盤研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 弱毒ウイルスの利用を基幹とした難防除ウイルス技術の開発	大豆育種研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) トマト黄化葉巻病の生物資材等利用による防除	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(e) アブラナ科野菜根こぶ病の制御技術の開発	生産基盤研究グループ	運営費交付金(一般)
(f) 消毒実施後の肥培管理に基づく微生物群集の制御による病害低減技術の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(g) レタスビッグベイン病の被害低減効果の検証	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)

IV 平成 23 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
(h) 弱毒ウイルス利用によるキュウリ黄化えそ病防除の 現地実証試験	大豆育種研究グループ	運営費交付金 (特別強化費)
(i) 媒介菌をターゲットとしてレタスビッグベイン病の発 病程度を迅速に判別・予測できる遺伝子診断法の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金 (所内支援制度)
(j) カラシナ、エンバク等の効果的鋤き込み方法の検討と 夏作ホウレンソウにおける防除効果の検証	生産基盤研究グループ	気候変動
(k) 四国 4 県連携による I Y S V の緊急防除対策技術の開 発	大豆育種研究グループ	実用技術
e 地域重要野菜を対象とした技術体系の構築と現地実証		
(a) ホウレンソウの環境保全的高品質・安定生産体系の構 築	野菜生産研究グループ	運営費交付金 (一般)
(b) 既存の自然換気型温室に利用可能な簡易設置型パッ ドアンドファン冷房の開発	野菜生産研究グループ	運営費交付金 (一般)
(c) カシカメムシ類を有効活用する植生管理技術を用い たコナジラミ類防除技術の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金 (一般)
(d) 抵抗性レタス品種導入を基幹としたレタスビッグベ イン病防除技術体系の構築	大豆育種研究グループ	運営費交付金 (一般)
(e) レタスビッグベイン病抵抗性育成系統「レタス SAKS3」の普及に向けての現地実証試験	大豆育種研究グループ	運営費交付金 (特別強化費)
イ 有機農業の成立条件の科学的解明と栽培技術の体系化		
a 有機畑圃場等における病虫害発生抑制および物質循環 機構の解明と輪作モデル体系の構築		
(a) カラシナ、エンバク等の効果的鋤き込み方法の検討と 夏作ホウレンソウにおける防除効果の検証	病虫害研究グループ	運営費交付金 (一般) 気候変動
6 ITやロボット技術等の革新的技術の導入による高度生産・ 流通管理システムの開発		
ア 土地利用型大規模経営に向けた農作業ロボット体系の開 発		
a 通信制御の共通化技術の開発		
(a) 作業機用 ECU の開発	機械作業・情報研究グルー プ	運営費交付金 (一般) アシスト
イ 多様な農業情報の効率的収集技術及び統合利用技術の開 発		
a 生産現場における簡易データ収集・統合管理システム の開発		
(a) 生産現場における簡易データ収集・統合管理システム の開発	機械作業・情報研究グルー プ	運営費交付金 (一般)
(b) 地球温暖化の抑制と水質保全に資する地域資源活用 型農地管理技術の実証と導入促進	機械作業・情報研究グルー プ	実用技術
(c) 土地利用型農業における作業・環境・生体情報の統合 化・可視化技術の研究開発 (作業計画管理ソフトの統 合 DB 仕様対応と改良)	機械作業・情報研究グルー プ	アシスト
7 食品の安全性向上及び消費者の信頼確保のための技術の開 発		
ア かび毒産生病害からの食品安全性確保技術の開発		
a 栽培体系のリスク評価、追加防除時期の解明等の生産 工程管理技術の強化・拡充		
(a) 開花期・蒴殻抽出期予測モデルの開発と検証	栽培管理研究グループ	運営費交付金 (一般)
(b) 暖地・温暖地における麦類の開花期予測と追加防除要 否判定技術の開発	栽培管理研究グループ	生産工程

II 地球規模の課題に対応した研究開発

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
1 地球温暖化に対応した農業技術の開発		
ア 土地利用型作物の気候変動対策技術と栽培管理支援システムの開発		
(ア) 気候変動下における水稲の高温障害対策技術の開発		
a 作物モデルに連動する群落微気象評価手法の開発		
(a) 中山間・傾斜地域における3次メッシュ利用のための補正用データベースの構築	栽培管理研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 酒米の酒造適性に及ぼす高温障害を抑制する最適作期決定システムと水管理技術の開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 多品種で利用可能な群落光合成モデルの作成と収量評価	栽培管理研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 酒米の酒造適性に及ぼす高温障害を抑制する最適作期決定システムと水管理技術の開発	カンキツ生産研究グループ	実用技術
b 高温登熟障害の対策技術の開発		
(a) 高温登熟条件下での胴割れ米発生に関与する生理生態要因の解明と耐性発現における品種間差の評価	栽培管理研究グループ	運営費交付金(一般)
c 気候変動下における地域気象特性を考慮した安定多収栽培技術の開発		
(a) 水稲多収栽培における籾数決定要因の解明	栽培管理研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) インド型多収品種の登熟特性に関する温度反応性の評価	栽培管理研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 温暖化環境における水稲生産ポテンシャル向上のための形質の特定	栽培管理研究グループ	気候変動
(イ) 気象災害リスク低減に向けた栽培管理支援システムの構築		
a 農耕地土壌の温室効果ガス排出削減・吸収機能を向上する栽培技術の開発		
(a) 耕作放棄地の土壌炭素変動量の広域評価	栽培管理研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 畑地における温室効果ガス排出削減・吸収機能向上技術の開発(耕作放棄地)	栽培管理研究グループ	気候変動

III 新需要創出のための研究開発

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
1 農産物・食品の機能性解明及び機能性に関する信頼性の高い情報の整備・活用のための研究開発		
ア 健康機能性に関する成分分析法及び評価法の開発と標準化		
a 農産物・食品の機能性成分分析法の開発・標準化と機能性評価法の開発		
(a) アントシアニン等機能性成分の標準分析法の確立	食品機能性研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 高性能抽出・検出機器を活用した新規機能性成分スクリーニング手法の構築	食品機能性研究グループ	運営費交付金(所内支援制度)
b 農産物・食品の機能性成分含量および機能性・安全性評価データベースの開発		
(a) 麦類に関する抗酸化能の評価	食品機能性研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 栽培条件による小麦製粉特性変動の発生要因の解明	食品機能性研究グループ	水田底力

IV 平成 23 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
イ 代謝調節作用に関する健康機能性解明と有効利用技術の開発		
a 高機能性農産物の特性解明と評価・利用技術の開発		
(a) 農作物成分による脂質代謝の促進作用の解明と利用技術の開発	食品機能性研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 小麦ふすま由来血圧降下ペプチドの商品化および新機能に関する共同研究	食品機能性研究グループ	運営費交付金(特別強化費)
b かんきつ・りんご等果実の有効性解明と評価技術の開発		
(a) かんきつ成分による脂質代謝の促進作用の解明と利用技術の開発	食品機能性研究グループ	運営費交付金(一般)
ウ 生体防御作用に関する健康機能性解明と有効利用技術の開発		
a 生体防御に関わる健康機能性評価技術の開発と農産物における特性解明		
(a) 加齢に伴う生体防御機能の低下を抑止する農作物成分の作用の解明と利用技術の開発	食品機能性研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) β -グルカン等大麦含有成分の摂取による炎症関連疾患の予防機能の解明	食品機能性研究グループ	運営費交付金(所内支援制度)
(c) 脂肪酸燃焼を促進しメタボリック症候群を予防するミツバチ産品に関する研究	食品機能性研究グループ	山田養蜂場 みつばち研究基金
2 農産物・食品の高度な加工・流通プロセスの開発		
ア 消費者ニーズの高度分析手法及び農業と食品産業の連携関係の評価・構築方法の開発		
a 高付加価値商品開発のための農産物購買・消費行動データ収集・分析システムの開発		
(a) 農産物直売所における切り花の需要量予測システムの開発	農業経営研究グループ	運営費交付金(一般)

IV 地域資源活用のための研究開発

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
1 農業生産のための基盤的地域資源の保安全管理技術の開発		
(1) 野生鳥獣モニタリングシステム及び住民による鳥獣被害防止技術の確立		
a 省力的で効果の高い侵入防止技術の開発		
(a) 電気刺激を用いた被害対策技術の開発	鳥獣害対策研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) ニホンザル加害群を集落へ誘引する要因の解明	鳥獣害対策研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) ニホンザルにおける忌避物質の効果検証	鳥獣害対策研究グループ	運営費交付金(一般)

IV 平成 23 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (* は委託先など)	予算区分
(d) 持続的な農業を展開するための鳥獣害防止技術の開発 (野生動物の登り行動及び登坂能力の解明他)	鳥獣害対策研究グループ 兵庫県立大学 滋賀県 三重県 山梨県 埼玉県	実用技術
b 地域で実践可能な効果的対策プログラムの確立		
(a) 持続的な農業を展開するための鳥獣害防止技術の開発 (竹林の環境管理による獣害軽減技術の開発)	鳥獣害対策研究グループ	実用技術
(b) 持続的な農業を展開するための鳥獣害防止技術の開発 (草地管理による獣害軽減技術の開発)	鳥獣害対策研究グループ	実用技術

V 研究情報活動

1. 主な研究成果

研究成果情報名	提出研究領域等
【技術・普及】	
茎葉多収で糖含有率が高い稲発酵粗飼料用水稲品種「たちすずか」	水田作研究領域
小麦赤かび病を適期に防除するための開花期予測システム	水田作研究領域
施設共同利用型高品質カンキツ生産方式「団地型マルドリ方式」	傾斜地園芸研究領域
【技術・参考】	
茎葉多収で中生の稲発酵粗飼料用水稲新品種候補系統「中国飼 205 号」	水田作研究領域
低アミロースで食味に優れる温暖地向き巨大胚水稻品種候補系統「中国胚 202 号」	水田作研究領域
硝子率が低く精麦品質が優れる早生・多収の裸麦新品種候補「四国裸 110 号」	作物機能開発研究領域
キュウリの3種ウイルス同時検出のための多重 RIPA 法の改良	水田作研究領域
高断熱資材はパイプハウスの保温性能向上に有効である	傾斜地園芸研究領域
細霧ノズル付循環扇を用いた中山間地域向け低コスト細霧冷房システム	傾斜地園芸研究領域
中山間地域における「水稻・大麦・大豆」2年3作体系の経済的効果	水田作研究領域
レタスピッグバイン病抵抗性のレタス新品種候補「レタス SAKS3」	作物機能開発研究領域
【研究・参考】	
トマトの養液土耕栽培におけるリン酸無施肥がリン酸収支に及ぼす影響	営農・環境研究領域、 傾斜地園芸研究領域
直売所における切り花の需給ミスマッチを改善するための技術開発目標	営農・環境研究領域

【分類】

技術・普及：普及に移しうる成果

- ・ 農業者が営農に直接利用できる成果
- ・ 企業が製品化して農業生産現場に普及できる成果
- ・ 検査機関等で活用される成果

技術・参考：その他参考となる成果

- ・ 普及技術の核となる成果

研究・参考：その他参考となる成果

- ・ 研究を進めるための基礎的な成果
- ・ 新しい基礎的知見を与える成果
- ・ 新たな研究素材開発の成果

V 研究情報活動

2. 研究成果の発表

1) 著書

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
1	野生動物の素顔を追う (動物応用科学の展開、第14章)	江口祐輔	2011.4	養賢堂	150-162
2	新稲作研究会 40年史 委託試験・現地実証展示圃課題の主な成果 環境保全を配慮した生産技術の評価・確立	児嶋清	2012.2	財団法人農業技術協会	*53-62
3	Radioisotopes applications in physical sciences Application of enriched stable isotopes in element uptake and translocation in plant	森伸介, 川崎晃, 石川覚, 荒尾知人	2011.10	In Tech Open Access Publisher	55-68
4	Chlorine: properties, applications and health effects Physiological roles of chlorine in higher plants	森伸介	2011.10	Nova Science Publishers	323-336
5	ダイズ栽培方法 d. 近畿・中国・四国	岡部昭典	2011.9	朝倉書店	76-81
6	稲作革命 SRI 第11章 SRIの基礎・乳苗研究	佐々木良治	2011.9	日本経済新聞出版社	221-240
7	阿蘇千年の草原の維持・保全と自然再生について	高橋佳孝	2011.11	生態調和的農業形成と環境直接支払いー農業環境政策論からの接近ー(青山社)	*137-172
8	草原利用の歴史・文化とその再構築	高橋佳孝	2011.9	里山・遊休農地を生かす(農山漁村文化協会)	*131-266
9	培地冷却法と肥効調節型肥料による高設イチゴの中休み軽減技術	山崎敬亮	2012.3	農文協	124,30-37

V 研究情報活動

2) 原著論文

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
1	ソルガムあるいはオオムギで飼育した4種アブラムシの発育・増殖特性の比較とバンカー法での利用可能性の検討	安部順一郎,熊倉裕史,光永貴之,矢野栄二	2011.11	日本応用動物昆虫学会誌	55(4),227-239
2	万願寺とうがらしの夏秋施設栽培におけるアブラムシ類防除のためのシヨクガタマバエを利用したバンカー法の実証試験	安部順一郎,熊倉裕史,矢野栄二	2011.5	関西病虫害研究会報	53,37-46
3	Morphological features, distribution, prey mites, and life history traits of <i>Feltiella acarisuga</i> (Vallot), (Diptera: Cecidomyiidae) in Japan	安部順一郎,喜久村智子,湯川淳一	2011.5	Applied Entomology and Zoology	46(2),271-279
4	Gene flow between sexual and asexual strains of parasitic wasps: a possible case of sympatric speciation caused by a parthenogenesis-inducing bacterium	安達鉄也,阿部芳久,三浦一芸	2011.6	Journal of Evolutionary Biology	24,1254-1262.
5	Ultrastructure of protein bodies in mutant rice (<i>Oryza sativa</i> L.) with altered storage protein composition	芦田かなえ,齋藤雄飛,増村威宏,飯田修一	2011.6	Breeding Science	61,201-207
6	Learning ability of wild boar using complex T-maze	堂山宗一郎,江口祐輔,上田弘則,植竹勝治,田中智夫	2011.6	日本家畜管理学会誌・応用動物行動学会誌	47,75-81
7	Mapping and use of QTLs controlling pod dehiscence in soybean	船附秀行,羽鹿牧太,山田哲也,鈴木雅也,萩原誠司,田中義則,藤田正平,石本政男,藤野介延	2012.1	Breeding Science	61(5),554-558
8	コムギ品種および加工食品におけるDNA品種識別技術の開発	藤田由美子	2012.2	近畿中国四国農業研究センター研究報告	11,41-80
9	A multiplex real-time PCR assay for the simultaneous quantification of the major plant-parasitic nematodes in Japan	後藤圭太,Yu Yu Min,佐藤恵利華,豊田剛己	2011.7	Nematology	13,713-720
10	Development and implementation of an environmentally conscious system for producing cruciferous vegetables by small farms in a hilly and mountainous area of western Japan	萩森学,長坂幸吉,尾島一史,安部順一郎,嶋津光鑑,瀨本浩,亀野貞,熊倉裕史	2012.1	Japan Agricultural Research Quarterly	46(1),15-25
11	Supplemental lighting inside the plant canopy increased the yield and quality of three-truss ordered tomato	瀨本浩,山崎敬亮	2011.9	Acta Horticulturae	907,283-286
12	Dietary adaptations of temperate primates: comparisons of Japanese and Barbary macaques	Goro Hanya, Nelly Ménard, Mohamed Qarro, Mohamed Ibn Tattou, Mieko Fuse, Dominique Vallet, Aya Yamada, Moe Go, Hino Takafumi, Riyou Tsujino, Naoki Agetsuma and Kazuo Wada	2011.4	Primates	52,187-198
13	Identification of the allelic variation of puroindolin alleles in Xinjiang wheat landraces (中文)	Cong Hua,Wang Hong- fei,ZHANG Yan- feng,Yang Yong- liang, 池田達哉,高田兼則,長峰司	2011.6	新疆農業科学	48(6),1056-1063

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
14	Geographical distribution of high-molecular-weight glutenin subunits and characterization of a new high-molecular-weight glutenin subunit of winter wheat landraces (<i>Triticum aestivum</i> L.) in the Xinjiang uygur autonomous district of China	Cong Hua, 池田達哉, 高田兼則, 谷中美貴子, 藤巻宏, 長峰司	2011.9	新疆農業科学	48(9),1576-1584
15	Control of <i>Aphis gossypii</i> and <i>Myzus persicae</i> (Hemiptera: Aphididae) by a flightless strain of <i>Harmonia axyridis</i> (Coleoptera: Coccinellidae) on green pepper plants in open fields	井口雅裕, 福嶋総子, 三浦一芸	2012.1	Entomological Science	15,127-132
16	シシトウ育苗期における飛ばないナミテントウ成虫放飼と幼虫放飼によるモモアカアブラムシ密度抑制効果の比較	井口雅裕, 福嶋聡子, 三浦一芸	2011.5	関西病虫害研究会報	53,31-36
17	露地栽培における防虫ネット全面被覆が病害虫の発生とキャベツの生育に及ぼす影響	井口雅裕, 福嶋総子, 吉本均, 三浦一芸	2011.5	関西病虫害研究会報	53,25-29
18	飼料用イネ品種‘たちすずか’における紋枯病、縞葉枯病およびばか苗病の発病程度について	井上博喜, 松下景, 藤本寛, 竹原利明, 宮川久義	2011.9	近畿中国四国農業研究	19,3-5
19	晩植栽培に適した低アミロース米水稻品種「ミルクースター」の育成	石井卓朗, 安東郁男, 根本博, 加藤浩, 太田久稔, 平林秀介, 竹内善信, 前田英郎, 井邊時雄, 佐藤宏之, 出田収, 坂井真, 青木法明, 平山正賢, 田村和彦	2012.3	作物研究所研究報告	13,41-59
20	調整池容量の拡大に伴う用水路系での水利学的性能の向上効果の検証	伊藤夕樹, 田中良和, 向井章恵, 樽屋啓之, 中達雄	2011.10	農業農村工学会論文集	275,33-40
21	棚田における農作業の現状と畦畔法面草刈り作業の改善	亀井雅浩	2011.7	日本の原風景・棚田	12,20-30
22	Application of synthetic herbivore-induced plant volatiles causes increased parasitism of herbivores in the field	上船雅義, 長泰行, 安部順一朗, 塩尻かおり, 佐野孝太, 高林純示		Journal of Applied Entomology	doi: 10.1111/j.1439-0418.2011.01687.x
23	The effect of body size on shapes and size of gaps entered by the masked palm civet (<i>Paguma larvata</i>)	加瀬ちひろ, 江口祐輔, 古谷益朗, 植竹勝治, 田中智夫	2011.9	Mammal Study	36,127-133
24	Sizes of rectangular gaps large enough for masked palm civets (<i>Paguma larvata</i>) to enter	加瀬ちひろ, 江口祐輔, 古谷益朗, 植竹勝治, 田中智夫	2011.12	日本家畜管理学会誌・応用動物行動学会誌	36,127-133
25	平張型傾斜ハウスにおける温風の送風条件が加温時の温度分布に及ぼす影響	川嶋浩樹, 野中瑞生, 長崎裕司	2011.4	農業生産技術管理学会誌	17(4),117-123
26	飼料イネ品種「たちすずか」におけるカスミカメムシ類の発育と増殖	菊地淳志	2011.5	関西病虫害研究会報	53,143-145
27	中国地区刊行応用動物昆虫関係目録(2010) (広島県分)	菊地淳志	2011.12	日本応用動物昆虫学会中国支部会報	53,55-70
28	促成トマトの防根給水ひも栽培における培地の種類が生育および収量に及ぼす影響	木下貴文, 樹田正治	2011.4	園芸学研究	10,197-202

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
29	Differential nutrient uptake and its transport in tomato plants on different fertilizer regimens	木下貴文, 梶田正治	2011.8	HortScience	46,1170-1175
30	6-Benzylaminopurine treatment induces increased pubescence on wheat leaves	小林英和, 谷中美貴子, 池田達哉	2012.1	Plant Growth Regulation	67(1),19-25
31	Effects of daily management changes on behavioral patterns of a solitary female African elephant (<i>Loxodonta africana</i>) in a zoo	小山奈穂, 上野吉一, 江口祐輔, 植竹勝治, 田中智夫	2012.1	Animal Science Journal	10.1111/j.1740-0929.2011.00992.x
32	UV-C irradiation affects accumulation of scoparone in citrus	國賀武, 根角博久	2011.11	Acta Horticulturae	907,81-85
33	Development of CFD Model of a Greenhouse with Water-Sprinkling Roof	畔柳武司, 弥永都, 砂田香矢乃, 大西伸夫, 橋本和仁	2011.4	Acta Horticulturae	893,613-620
34	茎葉多収で消化性に優れ高糖分含量の飼料用水稲品種「たちすずか」の育成	松下景, 飯田修一, 出田収, 春原嘉弘, 前田英郎, 田村泰章	2012.2	近畿中国四国農業研究センター研究報告	11,1-13
35	A novel nematode diagnostic method using the direct quantification of major plant-parasitic nematodes in soil by real-time PCR	Yu Yu Min, 豊田剛己, 佐藤恵利華	2012.2	Nematology	14(3),265-276
36	野菜病害に対する生薬抽出液の抗菌活性と生物検定による評価	宮川久義, 大野裕和	2011.11	九州病害虫研究会報	57,38-44
37	Characteristics of Na ⁺ and K ⁺ absorption in <i>Suaeda salsa</i> (L.) Pall	森伸介, 鈴木希代美, 織田亮輔, 樋口恭子, 前田良之, 吉羽雅昭, 但野利秋	2011.6	Soil Science and Plant Nutrition	57,377-386
38	出水時の土砂移動が排水路に創出した砂州に与える影響	向井章恵, 樽屋啓之, 田中良和, 中達雄	2011.6	農業農村工学会論文集	273,81-87
39	根こぶ病防除薬剤の施用が土壌微生物群集に与える影響の PCR-DGGE 法による評価	村上弘治	2011.8	植物防疫	65(8),461-464
40	Low-temperature-modulated fruit ripening is independent of ethylene in 'Sanuki Gold' kiwifruit	Eric G. Mworio, Takashi Yoshikawa, Nadiyah Salikon, Chisato Oda, William O. Asiche, Naoki Yokotani, Daigo Abe, Koichiro Ushijima, Ryohei Nakano, Yasutaka Kubo	2012.1	Journal of Experimental Botany	63(2),963-971
41	運搬用機械 (運搬車、モノレール)	中元陽一	2011.7	最新農業技術 果樹 ((社) 農山漁村文化協会)	4,145-148
42	運搬用機械 (運搬車、モノレール)	中元陽一	2011.6	農業技術大系果樹編・追録第26号 ((社) 農山漁村文化協会)	8- 機械, 道具 25-28
43	ELISA 法によるコムギおよびオオムギに発生する 4 種菌媒介性ウイルスの血清学的診断法の開発	根津修, 大木健広, 小島久代, 小田俊介, 青木恵美子, 吉岡藤治, 柳澤貴司, 石川浩一, 笹谷孝英	2011.12	関東東山病害虫研究会報	58,13-17
44	Complete structure of nuclear rDNA of the obligate plant parasite <i>Plasmodiophora brassicae</i> : Intraspecific polymorphisms in the exon and group I intron of the large subunit rDNA	Rieko Niwa, Ai Kawahara, Hiroharu Murakami, Shuhei Tanaka, Tatsuhiko Ezawa	2011.7	Protist	162,423-434

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
45	Determination of gamma-aminobutyric acid and free amino acid contents in barley seeds and amounts produced by water soaking treatment	野方洋一, 柳澤貴司, 齋藤武, 阿部大吾, 吉田淳子, 太田英明, 長嶺敬	2012.3	Food Science and Technology Research	18(2),263-269
46	農産物直売所利用者の野菜の虫食いに対する許容度	尾島一史	2012.3	近畿中国四国農業研究	20,51-56
47	NARO CAN BOARD と ISO11783 ライブラリを利用した施肥播種機	奥野林太郎	2011.7	農業機械学会誌	73(4),230-233
48	Improved multiple rapid immunofilter paper assay to detect three viruses of cucumber simultaneously	大崎秀樹, 野見山孝司, 石川浩一	2011.9	Journal of General Plant Pathology	77(5),307-311
49	団地型マルドリ方式の利用・運営方式と生産者の評価ー香川県観音寺市K組合を対象にー	齋藤仁藏, 島崎昌彦, 星典宏, 森永邦久, 草場新之助, 平岡潔志	2011.12	農業経営研究	49(3),79-84
50	農業生産法人の広域連携による新たな集出荷の取り組みー広域連携・集出荷拠点分散方式の展開ー	齋藤仁藏	2011.4	農業経営通信	247,4-5
51	中山間地域における稲・麦・大豆2年3作導入の経営評価ー主に「麦ー大豆」作に注目してー	坂本英美	2011.6	農林業問題研究	47(1),126-131
52	Screening and genetic analysis of resistance to peanut stunt virus in soybean: identification of the putative Rpsv1 resistance gene	猿田正恭, 高田吉丈, 菊池彰夫, 山田哲也, 小松邦彦, 佐山貴司, 石本政男, 岡部昭典	2012.1	Breeding Science	61(5),625-630
53	青立ちが少なく豆腐加工に適したダイズ新品種「はつさやか」の育成	猿田正恭, 高田吉丈, 岡部昭典, 菊池彰夫, 小野貞芳, 異儀田和典, 酒井真次, 松永亮一, 羽鹿牧太, 高橋将一, 小松邦彦	2012.2	近畿中国四国農業研究センター研究報告	11,81-99
54	四国東部における野生大豆(ツルマメ)の探索・収集	猿田正恭, 高田吉丈, 岡部昭典	2012.*	植物遺伝資源探索導入調査報告書	27,47-59
55	近畿中国四国地域における水稻高温登熟障害の要因解析と技術対策	佐々木良治, 中井謙, 藤田守彦, 小坂吉則, 松本純一, 上田直也, 足立裕亮, 角脇幸子, 月森弘, 渡邊丈洋, 勝場善之助, 中司祐典, 山本善太, 藤田究, 谷口弘季, 高田聖, 澤田富雄, 松本樹人, 石井俊雄, 岩井正志, 妹尾知憲, 山口憲一, 池上勝, 大久保和男, 石井卓朗, 長田健二	2012.3	近畿中国四国農業研究センター研究資料	9,41-146
56	Quantification of <i>Pratylenchus</i> penetrans in radish fields using a combination method of soil compaction and real-time PCR to determine the economic threshold	佐藤恵利華, 須賀有子, 木寄ちひろ, 豊田剛己, 高田敦之, 三宅和人, 竹内浩二, 松浦里江	2011.4	Soil Science and Plant Nutrition	57,213-220
57	Difference of soil biological responses to amendment with okara and coffee residue compost or cow manure compost	佐藤恵利華, 豊田剛己, 武田甲, 奥村一	2011.4	土と微生物	65,18-26

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
58	Development and application of a whole-genome simple sequence repeat panel for high-throughput genotyping in soybean	佐山貴司, Tae-Young Hwang, 小松邦彦, 高田吉丈, 高橋将一, 加藤信, 笹間博子, 中本有美, 東彩子, 船附秀行, 石本政男	2011.4	DNA Research	18(2),107-15
59	トマト褐色根腐病発病履歴が異なる土壌における微生物群集の PCR-DGGE 法による評価	関口博之	2011.8	植物防疫	65,465-468
60	Assessment of hybrid vigor between flightless lines to restore survival and reproductive characteristics in the ladybird beetle <i>Harmonia axyridis</i>	世古智一, 三浦一芸, 宮竹貴久	2012.2	Biocontrol	57,85-93
61	クワイにおける飛ばないナミテントウ放飼効果の検討	世古智一	2011.12	日本応用動物昆虫学会中国支部会報	53,1-8
62	「飛ばテンプロジェクト」の成果と今後の課題	世古智一	2011.12	植物防疫	65,705-710
63	Influence of different feeding systems on the growth performance and muscle development of Japanese Black steers	柴田昌宏, 松本和典, 曳野泰子, 大江美香, 尾嶋孝一, 中島郁世, 室谷進, 千國幸一	2011.12	Meat Science	89,451-456
64	Effect of grazing in the latter fattening period on the nutrient content and gene expression in steer muscle	柴田昌宏, 松本和典, 曳野泰子, 室谷進, 大江美香, 中島郁世, 尾嶋孝一, 千國幸一	2011.8	57th International Congress of Meat Science and Technology	*.P172
65	Effect of Grass Hay Feeding on Meat Production, Carcass Characteristics, and Meat Quality in Japanese Black Steers	柴田昌宏, 松本和典, 曳野泰子, 大江美香, 尾嶋孝一, 中島郁世, 室谷進, 千國幸一, 山本直幸	2012.2	Bulletin of the National Agricultural Research Center for Western Region	11,15-25
66	Effects of high temperature and early drainage on leaf CO ₂ assimilation and grain yield in the rice cultivar Hinohikari	Seiji Shimoda	2011.12	農業気象	67,259-267
67	Water management affects gas exchange and water use efficiency in contrasting rice genotypes	Seiji Shimoda	2011.9	CIGR 2011 Proceedings CD	CD-ROM,20EOS 1-0 1-6P
68	Structural analysis of MHC alleles in an RSV tumour regression chicken using a BAC library	K. Suzuki, E. Kobayashi, H. Yamashita, H. Uenishi, I. Churkina, G. Plastow, N. Hamasima, 三橋忠由	2011.8	Animal Genetics	doi: 10.1111/j.1365-2052.2011.02247.x
69	Genetic analysis of variations in the sugar chain composition at the C-3 position of soybean seed saponins	高田吉丈, 田山一平, 佐山貴司, 笹間博子, 猿田正恭, 菊池彰夫, 石本政男, 塚本知玄	2012.1	Breeding Science	61(5), 639-645
70	晩播栽培において多収で淡色味噌に好適なダイズ新品種「あきまる」の育成	高田吉丈, 猿田正恭, 岡部昭典, 菊池彰夫, 小野貞芳, 矢ヶ崎和弘, 坂元秀彦, 高松光生, 山田直弘, 高橋信夫, 田中進久, 元木悟, 西牧清	2012.2	近畿中国四国農業研究センター研究報告	11,27-39
71	ススキ (<i>Miscanthus sinensis</i>) 型草地植生に及ぼす火入れと放牧の影響	高橋佳孝, 堤道生, 井上雅仁	2012.3	島根県立三瓶自然館研究報告	10,1-8
72	レッドデータブック (RDB) 掲載植物種数からみた草原環境の特徴—山陰 2 県の地域版 RDB の解析から—	高橋佳孝	2011.6	農業および園芸	86 (6) ,606-612

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
73	集落営農法人同士が連携して形成する地域的な仕組み—中山間地大豆作における地域支援システム—	棚田光雄	2011.10	農業経営通信	249,8-9
74	Distribution of Hordoinoline genes in the genus <i>Hordeum</i>	寺沢洋平, S.M. Rahman, 高田兼則, 池田達哉	2012.1.	Theoretical and Applied Genetics	124,143-151
75	都市農村交流産業による地域振興シナリオの評価—岡山県津山市における地域産業連関分析—	友國宏一	2011.6	農林業問題研究	47(1),41-46
76	Does light repel masked palm civets?	豊田英人, 江口祐輔, 古谷益朗, 植竹勝治, 田中智夫	2011.6	日本家畜管理学会誌・応用動物行動学会誌	47,82-88
77	Simple prediction of crude protein content in vegetation growing on abandoned cultivated land	堤道生, 高橋佳孝, 惠本茂樹, 伊藤直弥, 佐原重行, 吉村知子, 渡邊貴之	2012.3	Grass and Forage Science	67,55-63
78	Current and potential distribution of <i>Senecio madagascariensis</i> Poir. (fireweed), an invasive alien plant in Japan	堤道生	2011.9	Grassland Science	57(3),150-157
79	ガンマ分布に基づく草量の簡易推定法	堤道生, 板野志郎	2011.8	畜産の研究	65(8),847-849
80	環境支払いを想定したシバ草地における植物種数の簡易調査法	堤道生	2011.6	農業および園芸	86(6),613-616
81	Dissemination of plants and technology for rural development in Bangladesh	内田晴夫, 安藤和雄	2011.10	Journal of Agroforestry and Environment	5,83-88
82	Action program for small-scale riverbank protection in a Bangladesh village	内田晴夫, 安藤和雄	2011.4	Japan Agricultural Research Quarterly	45,137-143
83	中空構造栽培槽の空間緑化基盤としての特性とイチゴおよびレタスの生育	内山知二, 西本登志, 山崎敬亮, 熊倉裕史, 長崎裕司, 佐野修司, 遠藤常嘉, 隅谷智宏	2011.8	日本緑化工学会誌	37(1),163-166
84	Estimation methods for monthly humidity from dynamical downscaling data for quantitative assessments of climate change impacts	植山秀紀		Theoretical and Applied Climatology	
85	Analytical model to predict the number of parasitoids that should be released to control diamondback moth larvae in greenhouses	浦野知, 安部順一朗, 上船雅義, 高林純示	2011.9	Journal of Plant Interactions	6,151-154
86	農家世帯における中核的労働力の就業選択行動—規定要因の定量的評価と地域性—	渡部博明	2011.6	農林業問題研究	47(1),114-119
87	日本食品糖質推定成分表の作成	渡邊智子, 安井健, 田中敬一, 布施望, 鈴木亜夕帆, 佐々木敏, 山下市二, 安本教傳	2011.4	日本食生活学会誌	21(4),314-320
88	72穴セル成型苗を利用したイチゴ促成栽培における育苗条件および圃場の窒素含量が生育や収量に及ぼす影響	山崎敬亮, 熊倉裕史, 瀨本浩, 齋藤弥生子	2011.10	園芸学研究	10(4),521-529

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名等	巻(号),頁
89	Effect of light quality for supplemental lighting during runner-cooling treatment on flowering of strawberry in forcing culture	山崎敬亮, 熊倉裕史, 瀨本浩	2011.9	Acta Horticulturae	907,291-294
90	Chromosome 5H of <i>Hordeum</i> species involved in reduction in grain hardness in wheat genetic background	谷中美貴子, 高田兼則, 寺沢洋平, 池田達哉	2011.10	Theoretical and Applied Genetics	123,1013-1018
91	Pleiotropic increases in free non-polar lipid, glycolipid and phospholipid contents in waxy bread wheat (<i>Triticum aestivum</i> L.) grain	安井健	2012.1	Journal of the Science of Food and Agriculture	doi: 10.1002/jsfa.5574

V 研究情報活動

3) 学会発表等

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
1	筋細胞を用いた脂肪酸代謝促進成分スクリーニング手法の開発	阿部大吾, 齋藤武, 野方洋一	2012.1	日本農芸化学会中四国支部 第32回講演会(例会)	*28
2	万願寺とうがらしの夏秋施設栽培におけるアブラムシ類防除のためのシヨクガタマバエを利用したバンカー法の実証試験	安部順一郎, 熊倉裕史, 矢野栄二	2011.5	関西病虫害研究会報	53,*
3	小麦の加工食品に用いた原料小麦の国内外産についての判別技術の実用化の検討(第2報)	足立静香, 井伊悠介, 寺野重造, 藤田由美子	2011.11	日本食生活学会第43回大会	**
4	酒米における高温障害を抑制する生産支援システムと水管理技術の開発	荒木悦子, 植山秀紀, 池上勝, 加藤雅宣, 小河拓也, 須藤健一, 青山喜典, 竹下伸一	2011.9	平成23年度農業農村工学会大会講演会概要集	*108
5	イノシシにおける水迷路を用いた学習能力の測定	堂山宗一郎, 江口祐輔, 上田弘則, 植竹勝治, 田中智夫	2012.3	Animal Behaviour and Management	48,32
6	イノシシの学習能力に関する研究から被害対策への展開	堂山宗一郎, 江口祐輔, 植竹勝治, 田中智夫	2011.9	Animal 2011 講演要旨集	*15
7	ハクビシンにおける径の異なる円柱に対する登り行動	江口祐輔, 森岡昌信, 豊田英人, 植竹勝治, 田中智夫	2012.3	Animal Behaviour and Management	48,35
8	野生鳥獣被害の実態と畜産に及ぼす影響ー野生鳥獣の行動特性を考えた被害対策ー	江口祐輔	2011.9	「畜産の視点から見た野生鳥獣の被害対策と捕獲鳥獣肉の有効活用」シンポジウム要旨	*1-7
9	ハクビシンおよびアライグマにおける障害物を越える行動	江口祐輔, 川端晃志, 豊田英人, 古谷益朗, 植竹勝治, 田中智夫	2011.9	Animal 2011 講演要旨集	*57
10	家畜行動学から被害防除を考える	江口祐輔	2011.8	日本畜産学会第114回大会畜産学教育協議会シンポジウム	**
11	水稲乾田直播における少量播種技術の開発とその苗立ち	藤本寛, 佐藤達也, 森伸介, 高橋仁康, 窪田潤	2011.9	日本作物学会紀事第232回講演会要旨・資料集	80(別2),48-49
12	線虫被害度ならびに殺線虫剤使用がダイコンの品質に及ぼす影響	福永亜矢子, 佐藤恵利華, 松浦里江, 小谷野伸二, 高田敦之, 植草秀敏, 奥村一, 小勝淑弘, 服部玄, 阿部成人, 和田健太郎, 豊田剛己, 西川万貴	2011.12	2011年度(第107回)日本土壌肥料学会関西支部講演会要旨集	*38
13	施用有機物の異なる土壌におけるホウレンソウ立枯れ性病害の発生	福永亜矢子, 伊藤陽子, 須賀有子, 佐藤恵利華, 池田順一, 西川万貴	2011.8	日本土壌肥料学会講演要旨集	57,47
14	ウメ果実における果皮斑点性障害'黒点症(通称)'の発生原因	古屋拳幸, 池田達哉, 東卓弥, 武田知明, 菱池政志, 島津康	2012.3	園芸学研究	11(別1),76
15	中山間農地の畦畔管理におけるシバ(Zoysia japonica Steud.)の導入	伏見昭秀	2011.10	芝草研究	40(別),94
16	造成初期のシバの被度拡大に及ぼす目土に含まれる雑草種子の影響	伏見昭秀, 大谷一郎	2011.4	雑草研究	56(別),87
17	農村の畦畔における植生管理並びに雑草制御	伏見昭秀, 稲垣栄洋, 藤井義晴, 大谷一郎	2011.4	雑草研究	56(別),87-90
18	屋外太陽光のRGB(赤色光:緑色光:青色光)バランス	濱本浩, 山崎敬亮	2011.9	園芸学研究	10(別2),467
19	温室用布団資材の断熱性能	林真紀夫, 黒田翔太, 瀧澤直希, 川嶋浩樹, 直木武之介, 宮内樹代史, 山口智治	2012.3	日本農業気象学会2012年全国大会	*PB-5
20	温室用布団資材の断熱性能	林真紀夫, 曾我部篤志, 杉浦聡, 川嶋浩樹, 直木武之介	2011.9	日本生物環境工学会2011年度札幌大会講演要旨	*308-309
21	モモ'白鳳'における収穫前施肥と地表面管理が樹体窒素動態に及ぼす影響	林恭弘, 久田紀夫, 橋本真穂, 島津康, 森下年, 和中学, 堀田宗幹, 下田星児	2011.12	土壌肥料学会関西支部講演会要旨集	107,36

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
22	傾斜壁面を活用した新たな果樹用ハウスの構築技術 - 形状を利用した換気と散水による温度制御 -	星典宏, 植山秀紀, 根角博久, 川嶋浩樹, 長崎裕司	2011.8	2011 年農業施設学会大会	*, 29-30
23	カンキツ栽培における点滴かん水管理のための新たなアルゴリズム	星典宏, 植山秀紀, 井上久義, 島嶋昌彦, 國賀武, 齋藤仁藏, 根角博久	2011.9	園芸学研究	10 (別 2), 122
24	高品質果実生産を可能とするマルドリシステムによる少量多頻度かん水	星典宏	2011.9	平成 23 年度高品質ウンシュウミカン生産のための「マルドリ方式」におけるかん水・施肥管理支援システム開発研究会	*, 5-6
25	近年の高温登熟条件下における水稻コシヒカリの高品質生産技術の開発 第 2 報 穂肥窒素施用量の検討	堀田悟, 武久邦彦, 北川照美, 小嶋俊彦, 中橋富久, 鳥塚智, 下田星児	2011.12	土壌肥料学会関西支部講演会要旨集	107, 32
26	目合い 4 mm ネットで全面被覆した露地圃場におけるヒメハナカメムシ類の発生状況	井口雅裕, 福嶋総子, 三浦一芸	2012.3	日本応用動物昆虫学会講演要旨	*, 11
27	Comparison of Glutenin subunit composition among North American Hard Wheat classes	池田達哉, 高田兼則	2011.10	AACC International Annual Meeting	*, *
28	酒米品種山田錦における白未熟粒の発生と登熟期間の気温との関係	池上勝, 藤本啓之, 小河拓也, 青山喜典, 大塩哲視, 加藤雅直, 須藤健一, 土田利一, 平川嘉一郎, 矢野義昭, 荒木悦子, 植山秀紀, 芦田かなえ, 竹下伸一	2011.9	日本作物学会紀事	80 (別 2), 208-209
29	樹林化した草原跡地における管理再開と草原生植物の再生	井上雅仁, 高橋佳孝	2012.3	Joint Meeting of The 59th Annual Meeting of ESJ & The 5th EAFES International Congress Book of Abstracts	*, 290
30	安価・簡便化を目的とした ELISA 法による保毒虫検定の改良	石川浩一, 相澤美里, 米本謙悟, 渡邊丈夫	2011.11	第 56 回四国植物防疫研究協議会大会	*, 9
31	温度による開花速度差を利用したユリつぼみ切り花の特定日開花シミュレーション	角川由加, 仲照史, 吉田晋一, 山中正仁, 豊原憲子, 平岡美紀, 廣岡健司	2011.9	日本生物環境工学会 2011 年札幌大会	*, 180-181
32	露地ナス栽培現場における畝内根量分布の定量的調査法の提案	笠原賢明, 渡邊修一, 志村もと子, 松森堅治, 山砥健, 井上賀貴, 吉川弘恭	2011.12	2011 年度 (第 107 回) 日本土壌肥料学会関西支部会講演会要旨集	*, 37
33	「根張り指数」の考え方と測定を試み	笠原賢明, 渡邊修一, 吉川弘恭	2011.8	日本土壌肥料学会講演要旨集	57146
34	障害物の設置位置がハクビシンの行動に及ぼす影響	加瀬ちひろ, 江口祐輔, 古谷益朗, 植竹勝治, 田中智夫	2012.3	Animal Behaviour and Management	48, 34
35	侵入口に設置した障害物に対するハクビシンの反応	加瀬ちひろ, 江口祐輔, 古谷益朗, 植竹勝治, 田中智夫	2011.9	Animal 2011	*, 37
36	白米に含まれる酸性糖の解析	川瀬眞市朗	2012.3	日本作物学会第 233 回講演会	81 (別 1), 294-295
37	米白ぬかー水抽出物中の脂質解析	川瀬眞市朗	2012.3	日本作物学会第 233 回講演会	81 (別 1), 292-293
38	農産物および林産物含有糖鎖の簡便な解析法	川瀬眞市朗	2012.3	第 62 回日本木材学会大会研究発表要旨集	*, 166
39	次世代型パイプハウスへのスパイラル基礎杭の利用	川嶋浩樹, 長崎裕司, 畔柳武司, 高野祐二	2011.8	2011 年度農業施設学会大会講演要旨	*, 123-124
40	日本型日光温室の開発ー温室内の日射環境と改善方策の検討	川嶋浩樹, 古市崇雄, 宮内樹代史, 直木武之介, 長崎裕司	2011.8	2011 年度農業施設学会大会講演要旨	*, 25-26
41	ダイズ原種ツルマメの中国地方における昆虫相	菊地淳志	2012.3	第 56 回日本応用動物昆虫学会講演要旨集	*, 117

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
42	シロイヌナズナの形態を指標としたオーキシン生合成阻害剤の開発	喜久里貢, 成川恵, 佐藤明子, 三谷由佳, 三井麻利江, 中村郁子, 林謙一郎, 浅見忠男, 添野和雄, 嶋田幸久	2012.3	第53回日本植物生理学会年会要旨集	*272
43	トマトの夏季高温期の育苗において根域冷却の効果が高い時間帯	木下貴文, 中野善公	2011.9	日本生物環境工学会 2011 年札幌大会講演要旨	*246-247
44	長期促成トマトの「防根給水ひも」栽培において肥効調節型肥料の施与方法が生育および収量に及ぼす影響	木下貴文, 梶田正治	2012.3	園芸学研究	11(別1), 未定
45	促成トマトの「防根給水ひも」栽培において肥効調節型肥料の施与方法が収量および栄養状態に及ぼす影響	木下貴文, 中野善公, 梶田正治	2011.9	園芸学研究	10(別2), 481
46	水稲胚乳細胞の核内倍加に及ぼす穂肥の影響	小林英和, 齋藤武, 長田健二	2012.3	日本作物学会紀事	81(別1), 354-355
47	シバの遺伝資源評価と中山間農地での利用	小林真, 霍田真一, 伏見昭秀	2011.10	芝草研究	40(別), 91-94
48	ウシ組換え IFN τ の子宮内投与による末梢血白血球中 Mx 遺伝子発現動態の変化とその関係性	小島孝敏, 松山秀一, 木村康二, 大島一修, 山本直幸	2012.3	第115回日本畜産学会大会講演要旨	*208
49	低アレルギー小麦開発の取り組み	小島崇嗣, 池田達哉, 谷内昇一郎, 木村彰宏, 田辺創一, 高田兼則	2011.11	アレルギー	60(9,10), 1366
50	飼育下においてゾウの行動に影響を及ぼす環境要因の検討	小山奈穂, 上野吉一, 江口祐輔, 植竹勝治, 田中智夫	2012.3	Animal Behaviour and Management	48, 46
51	日本の動物園におけるゾウ飼育の現状	小山奈穂, 上野吉一, 江口祐輔, 植竹勝治, 田中智夫	2011.9	Animal 2011 講演要旨集	*36
52	土壌 pH の違いが草地管理の効果をj変える: 阿蘇牧野の野焼き・採草型半自然草地を事例に	小柳知代, 平舘俊太郎, 楠本良延, 森田沙綾香, 横川昌史, 高橋佳孝	2012.3	Joint Meeting of The 59th Annual Meeting of ESJ & The 5th EAFES International Congress Book of Abstracts	*271
53	中国中山間地における麦・大豆の部分耕栽培について	窪田潤, 亀井雅浩, 奥野林太郎, 高橋仁康	2012.3	農作業研究	47(別1), 67-68
54	圃場内の光環境の変化がカンキツ類に及ぼす影響(第1報)	國賀武, 岡崎芳夫, 中島勘太, 藤本敬胤, 和泉勝憲, 村上要三, 赤阪信二, 杉本健治, 根角博久, 星典宏, 中元陽一, 島崎昌彦, 平岡潔志	2011.9	園芸学研究	10(別2), 335
55	気象データを用いた小麦赤かび病のかび毒蓄積リスクの評価	黒瀬義孝	2012.3	日本農業気象学会 2012 年全国大会講演要旨	*31
56	小麦粒中へのかび毒蓄積と濡れ時間との関係	黒瀬義孝	2011.11	中国・四国の農業気象	24, 16-17
57	温暖化に伴う降雨の変動と畑作物の対応技術	黒瀬義孝	2011.9	地球環境・気候変動と農業環境工学	*47-52
58	Computational fluid dynamics simulation of herbivore-induced plant volatiles around greenhouses	畔柳武司, 安部順一郎, 上船雅義, 高林純示	2011.6	Greensys 2011 Final Program & Book of Abstracts	*73
59	作物群落を考慮した循環扇気流の数値流体力学シミュレーション	畔柳武司	2011.9	園芸学研究	10(別2), 437
60	バラ株元に設置した温湯循環用プラスチックパイプの加温範囲	畔柳武司, 馬場勝, 原靖英, 深山陽子, 小泉明嗣	2011.9	日本生物環境工学会 2011 年札幌大会講演要旨	*310-311
61	閉鎖温室における二酸化炭素施用時の作物群落の吸収量と温室外への損失量	畔柳武司, 安場健一郎, 東出忠桐, 高市益行	2011.9	日本生物環境工学会 2011 年札幌大会講演要旨	*96-97

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
62	Perspective: development of an energy-saving greenhouse using thermal environment simulation	畔柳武司, 川嶋浩樹	2011.9	Thermal Environment Simulation in Agricultural Structures, CIGR 2011	*8
63	The relation between species diversity of semi-natural grassland and chemical property of soil in Shiozuka plateau, Japan	楠本良延, 小柳知代, 森田沙綾香, 平館俊太郎, 白川勝信, 井上雅仁, 横川昌史, 千布拓生, 太田陽子, 堤道生, 高橋佳孝, 石川慎吾	2012.3	Joint Meeting of The 59th Annual Meeting of ESJ & The 5th EAFES International Congress Book of Abstracts	*564
64	鳥嶺域に適用できる乱流シミュレーションモデルの基礎的検討	松田周, 柴田昇平, 吉村亜希子, 細川雅敏, 内田晴夫	2011.9	平成 23 年度農業農村工学会大会講演会	*174-175
65	久万高原町における平張型ハウスの今冬降雪被害状況	松田周, 長崎裕司	2011.8	2011 年度農業施設学会大会講演要旨	*119-120
66	Tachisuzuka, a new rice cultivar with high digestibility and high sugar content for whole-crop silage use	松下景, 飯田修一, 出田収, 春原嘉弘, 前田英郎, 田村泰章, 城田圭子, 石田友紀, 河野幸雄, 塚崎由子, 高桑将滋, 森本和秀, 神田則昭, 新出昭吾	2011.9	Crop Science Symposium in East Asia 2011	*39
67	Indole-3-acetic acid 内生量を指標としたオーキシン生合成阻害剤の構造最適化	三谷由佳, 成川恵, 喜久里貢, 佐藤明子, 林謙一郎, 浅見忠男, 添野和雄, 嶋田幸久	2012.3	第 53 回日本植物生理学会年会要旨集	*272
68	色彩粘着板の捕獲害虫数と作物上の害虫数との関係	三浦一芸, 世古智一	2011.10	日本応用動物昆虫学会中国支部・日本昆虫学会中国支部合同例会	*,*
69	微小寄生蜂を破壊しないで DNA を抽出する方法の検討	三浦一芸, 前藤薫, 東浦祥光	2011.9	日本昆虫学会第 71 回大会講演要旨	*45
70	薬剤抵抗性個体を識別する	三浦一芸, 土田聡, 十川和士, 渡邊丈夫	2012.3	日本応用動物昆虫学会講演要旨	*223
71	Haplodiploidy 生物ハチやダニの混沌とする性決定: 2n でもメス, n でもメス	三浦一芸, 田上陽介	2012.3	日本応用動物昆虫学会講演要旨	*208
72	オオカマキリの性的共食い再考	三浦一芸, 渡辺衛介	2011.9	日本昆虫学会第 71 回大会講演要旨	*116
73	大量製造装置により作製された鉄コーティング種子の種子伝染性病害防除	宮川久義, 山内稔, 井上博喜	2012.3	平成 24 年度日本植物病理学会大会	*未定
74	酵母エキス葉面散布後の上位葉でのキュウリ炭疽病発病抑制効果発現までの期間について	宮川久義, 中保一浩	2012.2	日本植物病理学会報	78(1),52-53
75	日本型日光温室の開発—温室内熱環境と暖房燃料消費量の削減効果	宮内樹代史, 古市崇雄, 林真紀夫, 川嶋浩樹, 山口智治, 長崎裕司	2011.8	2011 年度農業施設学会大会講演要旨	*27-28
76	地下水水位制御システム設置圃場の 3 次元土壌水分分布	望月秀俊, 竹田博之, 亀井雅浩	2011.8	日本土壌肥料学会講演要旨集	57,4
77	Physiological performance of direct seeding using iron-coated rice seeds under submerged and drained conditions	森伸介, 藤本寛, 岡部昭典, 亀井雅浩, 山内稔	2011.11	根の研究会	20196
78	異なる浸種条件で作成した水稲種子の発芽・出芽・苗立ち特性と種子内代謝との関係	森伸介, 藤本寛, 岡部昭典, 亀井雅浩, 山内稔	2011.8	日本土壌肥料学会 講演要旨集	57,92
79	Effect of plant biomass incorporation on the bacterial community structure during soil disinfestation	Subrata Mowlick, 加来伸夫, 竹原利明, 上木厚子	2011.10	土と微生物	65143

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
80	Biological soil disinfestations: Analyzing the process and its bacterial community structure	Subrata Mowlick, 広田恵介, 竹原利明, 加来伸夫, 上木厚子	2011.7	Proceedings of Plant Canada 2011. Nova Scotia, Canada	*165
81	集水域を持つ水路システムにおける土砂移動とその制御	向井章恵, 樽屋啓之, 嶺田拓也, 中田達	2011.9	平成 23 年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集	*152-153
82	簡易設置型パッドアンドファン冷房が水ストレス下のコマツナ・トマトの光合成・蒸散に与える影響	村上健二, 瀨本浩, 山崎敬亮, 吉田祐子, 生駒泰基, 嶋津光鑑, 野田沙織	2012.3	園芸学研究	11(別 1), 335
83	遮光部位の違いがキャベツの裂球に及ぼす影響	村上健二, 浦上敦子, 徳田進一, 中野有加, 國久美由紀, 相澤証子, 岡田邦彦	2011.9	園芸学研究	10(別 2), 474
84	土壌微生物群集に対するフルスルファミド粉剤施用の影響	村上弘治, 金戸有希子	2011.8	日本土壌肥料学会講演要旨集	57,47
85	土壌病害防除における最近の知見と動向	村上弘治	2011.8	日本土壌肥料学会 2011 年度つくば大会	*,*
86	小学校における「学校農園型」農業体験学習の活動内容	室岡順一	2011.9	日本農業教育学会誌	42,65-68
87	赤シソ収穫機を用いた青枯れ病二次感染防止技術	長崎裕司	2011.12	農業機械学会シンポジウム「第 16 回テクノフェスタ」ー環境・省エネ対応型農機の開発ー	*123-127
88	小型除草ロボットに適した草刈方式の検討	長崎裕司, 中元陽一	2011.9	農業機械学会関西支部 第 126 回例会 研究発表	*B-3
89	イチゴ収穫ロボット導入のための栽培システム開発	長崎裕司, 林茂彦, 中元陽一, 川嶋浩樹, 河野靖	2011.12	第 12 回 公益社団法人 計測自動制御学会 システムインテグレーション部門 講演会論文集	*3F1-6
90	多収水稻における登熟・収量の温度反応性の評価	長田健二, 大角壮弘, 吉永悟志, 佐々木良治	2012.3	日本作物学会紀事	81(別 1), 36-37
91	中国地域における多収水稻の品種特性及び収量ポテンシャル	長田健二, 佐々木良治, 大平陽一	2012.3	日本作物学会紀事	81(別 1), 424-425
92	開水路断面変化部での水位の安定性に関する下流水位条件が及ぼす影響についての実験的検討	中田達, 樽屋啓之, 田中良和, 向井章恵	2011.9	平成 23 年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集	*154-155
93	アミノ基転移酵素を標的とするオーキシン生合成阻害剤	成川恵, 喜久里貢, 佐藤明子, 田代早苗, 三谷由佳, 三井麻利江, 中村郁子, 小倉岳彦, 軸丸裕介, 神谷勇治, 林謙一郎, 浅見忠男, 添野和雄, 藤岡昭三, 吉田茂男, 嶋田幸久	2012.3	日本農芸化学会 2012 年度京都大会要旨集	*3A30p12
94	オーキシン生合成阻害剤の構造最適化と作用機構解析	成川恵, 喜久里貢, 佐藤明子, 田代早苗, 三谷由佳, 三井麻利江, 中村郁子, 小倉岳彦, 軸丸裕介, 神谷勇治, 林謙一郎, 浅見忠男, 添野和雄, 藤岡昭三, 吉田茂男, 嶋田幸久	2012.3	第 53 回日本植物生理学会年会要旨集	*158
95	オーキシン生合成阻害剤 KOK1169 の作用機構解析	成川恵, 喜久里貢, 佐藤明子, 三谷由佳, 中村郁子, 軸丸裕介, 神谷勇治, 林謙一郎, 浅見忠男, 添野和雄, 藤岡昭三, 嶋田幸久	2011.11	植物化学調節学会第 46 回大会研究発表記録集	*23
96	新規オーキシン生合成阻害剤 KOK1169 の作用機構解析	成川恵, 喜久里貢, 佐藤明子, 三谷由佳, 中村郁子, 浅見忠男, 林謙一郎, 添野和雄, 嶋田幸久	2011.9	日本植物学会第 75 回大会要旨集	*144

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
97	灌水が青立ち発生および結実後期の作物体水分低下に及ぼす影響	岡部昭典, 高田吉丈, 猿田正恭	2011.9	日本作物学会紀事	81(別 2),110-111
98	夏秋トマト低段密植栽培における誘引方法、仕立方法、培地量が生育および収量に及ぼす影響	岡田牧恵, 川口岳芳, 山本真之, 吉川弘恭, 川嶋浩樹, 長崎裕司	2011.9	園芸学研究	10(別 1),433
99	パンコムギと合成パンコムギ間の穀粒の形の違いに関する QTL 解析	岡本裕樹, 池田達哉, 宅見薫雄	2012.3	育種学研究	14(別 1),105
100	哺育期の過剰排卵処置・胚回収、胚回収後の繁殖成績と代謝プロファイルとの関係	大島一修, 落合寿成, 原田秀司, 山崎孝昭, 川上千尋, 片岡賢章, 小島孝敏, 山本直幸	2011.9	第 104 回日本繁殖生物学会大会 講演要旨	*j200
101	地下水位制御が大豆圃場における雑草の発生に及ぼす影響	大谷一郎, 伏見昭秀	2011.4	雑草研究	56(別),118
102	グラウンドカバープランツ植栽の補助資材としての分解性のマルチ資材の利用	大谷一郎, 伏見昭秀	2011.4	雑草研究	56(別),90
103	飼料用稲生産における堆肥の肥料的効果及び土壌可給態窒素を考慮した施肥技術の必要性—家畜ふん堆肥の肥料的効果の評価(第 8 報)	大家理哉, 鷲尾建紀, 藤本寛, 亀井雅浩, 石橋英二	2011.12	日本土壌肥料学会関西支部講演会	107,A5
104	中空構造栽培槽でのイチゴ栽培における養水分管理が排液中養分動態におよぼす影響	佐野修司, 工藤渚, 遠藤常嘉, 内山知二, 山崎敬亮, 長崎裕司, 西本登志, 隅谷智宏, 松山真三	2012.3	園芸学研究	11(別 1),379
105	青立ちが少なく豆腐加工に適したダイズ新品種「はつさやか」	猿田正恭, 高田吉丈, 岡部昭典	2012.3	育種学研究	14(別 1),153
106	ダイズ品種「ヒュウガ」のラッカセイわい化ウイルス抵抗性のマッピング	猿田正恭, 高田吉丈, 山田哲也, 小松邦彦, 佐山貴司, 石本政男	2011.9	育種学研究	13(別 2),39
107	登熟期の高温処理が穂上位置を異にするイネ穎果のアブシジン酸含量に及ぼす影響	佐々木良治, 竹田博之, 大平陽一, 長田健二	2012.3	日本作物学会紀事	81(別 1),356-357
108	トリプトファンアミノ基転移酵素活性を指標としたオーキシン生合成阻害剤の構造最適化	佐藤明子, 成川恵, 喜久里貢, 三谷由佳, 林謙一郎, 浅見忠男, 添野和雄, 嶋田幸久	2012.3	第 53 回日本植物生理学会年会 要旨集	*.272
109	リアルタイム PCR によるダイコンのキタネグサレセンチュウ被害許容水準の作成第 2 報	佐藤恵利華, 須賀有子, 福永亜矢子, 豊田剛己, 前治代, 高田敦之, 植草敏秀, 三宅和人, 奥村一, 小勝淑弘, 小谷野伸二, 松浦里江	2011.9	日本線虫学会第 19 回大会講演 要旨集	*.22
110	農地分布の画像情報と 3 次メッシュをリンクする手法の開発	佐藤恵一	2011.11	中国・四国の農業気象	24,38-39
111	時別気温変化の関数近似による解析手法の応用事例	佐藤恵一	2011.11	中国・四国の農業気象	24,36-37
112	Effects of artificial selection for reduced flight ability on survival and reproductive characteristics of <i>Harmonia axyridis</i> (Pallas) (Coleoptera, Coccinellidae)	世古智一, 三浦一芸	2011.8	14th Symposium on Insect-Plant Interactions Programme and Abstracts	*.193
113	イチモンジセセリの繁殖形質における個体群間変異：発生動態の地域間差異との関連性	世古智一	2011.10	第 27 回個体群生態学会大会	*.24
114	実用技術「飛ばテンププロジェクト」の成果と今後の課題	世古智一, 三浦一芸	2011.6	第 16 回農林害虫防除研究会報告	*.35

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
115	肉用牛の高密度舎飼によるストレス関連物質の評価	柴田昌宏, 松本和典, 曳野泰子, 山本直幸	2012.3	日本畜産学会第 115 回大会講演要旨	*, 未定
116	冬期放牧仕上げ肥育が黒毛和種去勢牛の筋肉成分および遺伝子発現におよぼす影響	柴田昌宏, 松本和典, 曳野泰子, 小林英和, 山本直幸	2011.8	日本畜産学会第 114 回大会講演要旨	*, 163
117	Utilization of undersurface heat exchange for horticulture as a technique against global warming	柴田昇平, 日高輝雄, 鶴山浄真	2011.11	MARCO Workshop Technology Development for Mitigation Greenhouse Gas Emissions from Agriculture	*, 54
118	Effects of the partial cooling on Tomato (<i>Solanum lycopersicum</i>) with the method of the undersurface heat exchange	柴田昇平, 日高輝雄, 鶴山浄真	2011.11	MARCO Workshop on Technology Development for Mitigation Greenhouse Gas Emissions from Agriculture	*, 26
119	中国黄土高原における草地生産力の推定～RAMSを用いた気象シミュレーションにおけるアルベドの気温への影響～	柴田昇平, 坪充	2011.12	鳥取大学乾燥地研究センター平成 23 年度共同利用研究発表会講演要旨集	*, 130-131
120	圧力補正型点滴チューブの流量特性試験	島崎昌彦, 星典宏, 根角博久	2011.9	平成 23 年度農業農村工学会大会講演要旨集	*, 488-489
121	Fallow management alters plant species composition and carbon storage after cessation of agricultural management	Seiji Shimoda, Nobuhisa Koga	2012.3	The 5th East Asian Federation of Ecological Societies (EAFES) Proceedings	*, 未定
122	Invasion of perennial plants causes a rapid increase of soil carbon after cessation of cultivation	Seiji Shimoda, Nobuhisa Koga	2012.3	Proceedings of ISAM 2012	*, 未定
123	Effects of early drainage on leaf gas exchange in rice cultivar Hinohikari during the ripening period	Seiji Shimoda	2012.3	Proceedings of ISAM 2012	*, 未定
124	Fallow management alters plant species composition and soil carbon profile after cessation of cultivation	Seiji Shimoda	2011.11	MARCO Workshop on Technology Development for Mitigating Greenhouse Gas Emissions from Agriculture, Program and Abstract	*, 24-25
125	休耕管理に伴う雑草種変化が根茎分布と土壤炭素・窒素に与える影響	下田星児	2011.8	日本土壤肥料学会講演要旨集	57, 13
126	Experiment on Nitrogen Removal in Reservoirs and Paddy Field	志村もと子, 望月秀俊	2011.10	The 4th IWA-ASPIRE Conference & Exhibition	*, 525
127	養鶏場下の休耕田における窒素・リンの水質浄化試験	志村もと子, 望月秀俊	2011.8	日本土壤肥料学会 2011 年度つくば大会講演要旨集	57, 167
128	新規オーキシン生合成阻害剤 KOK1169 の機能解析	添野和雄, 國土祐未子, 喜久里貢, 成川恵, 浅見忠男, 嶋田幸久	2012.3	第 53 回日本植物生理学会年会要旨集	*, 273
129	新規オーキシン生合成阻害剤の機能解析	添野和雄, 國土祐未子, 喜久里貢, 成川恵, 浅見忠男, 嶋田幸久	2011.11	植物化学調節学会第 46 回大会研究発表記録集	*, 24
130	簡易土壤水分計を用いた丹波黒大豆の夏期水ストレスの把握	須藤健一, 牛尾昭浩, 黒瀬義孝, 河村久紀, 蘆田哲也, 尾崎耕二, 土井正彦, 白岩立彦, 本間香貴, 竹田博之, 馬河紘子, K.K. Mishra	2012.3	日本農業気象学会 2012 年全国大会講演要旨	*, 107
131	ユリの連作がスギ皮培地の糸状菌群集におよぼす影響	須賀有子, 高木和彦, 福永亜矢子, 佐藤恵利華, 池田順一	2011.8	日本土壤肥料学会講演要旨集	57, 46

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
132	シコクビエの穂数に及ぼす湛水処理の影響	杉浦誠	2011.12	日本作物学会四国支部会報	48,14-15
133	ゴールドハル水稲品種リーフスターとその交雑後代系統の強稈性をもたらす要因	杉山知里, 松下景, 坂井真, 加藤浩, 平沢正, 大川泰一郎	2012.3	日本作物学会紀事	82(別1),184-185
134	オーキシン生合成制御機構の探索	鈴木優志, 三谷由佳, 添野和雄, 嶋田幸久	2012.3	第53回日本植物生理学会年会要旨集	*272
135	晩播栽培において多収で味噌の原料に好適な大豆新品種「あきまる」	高田吉丈, 猿田正恭, 岡部昭典	2012.3	育種学研究	14(別1),未定
136	枝豆品種の1莢内粒数に関するQTL解析	高田吉丈, 猿田正恭	2011.9	育種学研究	13(別2),253
137	オオムギ <i>amo1</i> 遺伝子に連鎖するDNAマーカーによる高βグルカン含量系統の選抜	高橋飛鳥, 武田真, 佐藤和広, 吉岡藤治, 柳澤貴司	2011.9	育種学研究	13(別2),213
138	瀬戸内海流域における農地の栄養塩負荷量の評価	高橋英博	2011.5	システム農学	27(別1),43-44
139	阿蘇における草本バイオマス利用の多様性	高橋佳孝	2011.10	システム農学会2011年度秋季大会 in 東広島 シンポジウム・一般研究発表会要旨集	*7-8
140	外来と在来ダンゴムシの日本におけるせめぎ合い	高橋由衣, 五島千秋, 三浦一芸, 宮竹貴久	2012.3	日本生態学会講演要旨	*,*
141	おとり作物の葉大根を利用したブロッコリー根こぶ病の防除効果	竹邊桂, 大山知泰, 木下聡子, 村上弘治	2012.2	九州病害虫研究会第83回研究発表会(春季大会)病害要旨集	*5
142	有理関数CIP特性直線法による水撃解析の開発	田中良和, 向井章恵, 樽屋啓之	2011.9	平成23年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集	*,82-83
143	Android用地図ビューアの開発	寺元郁博	2011.5	農業情報学会2011年度研究発表会	*,*
144	オオムギ属における種子の硬軟質に関連する遺伝子の系統解析	寺沢洋平, S.M. Rahman, 高田兼則, 池田達哉	2011.12	中国育種談話会	*,*
145	オオムギ属における種子の硬軟質に関連する遺伝子の系統解析	寺沢洋平, S.M. Rahman, 高田兼則, 池田達哉	2012.3	育種学研究	14(別1),116
146	4種類の土壌における施肥窒素のウメ・南高樹体への吸収および溶脱特性	土田靖久, 下田星児, 後藤文之, 吉原利一, 城村徳明, 岡室美絵子, 中西慶	2011.9	園芸学研究	10(別2),102
147	タヌキおよびアナグマにおける障害物を越える行動	豊田英人, 江口祐輔, 植竹勝治, 田中智夫, 古谷益朗	2011.9	Animal2011 講演要旨集	*58
148	飼育下ハクビシンにおける活動量および活動時間の季節変化	豊田英人, 江口祐輔, 古谷益朗, 植竹勝治, 田中智夫	2011.8	日本畜産学会大114回大会講演要旨	114192
149	ギンケハラボソコマクバチ <i>Meteorus pulchricornis</i> の産雌性単為生殖メカニズムの解明	筒井容子, 三浦一芸, 濱口京子, 高見泰興, 前藤薫	2012.3	日本応用動物昆虫学会講演要旨	*178
150	放牧を導入した肉用牛繁殖システムのLCA: 舎飼システムとの比較	堤道生, 引田久美子, 高橋佳孝, 山本直幸	2012.3	第7回日本LCA学会研究発表会講演要旨集	*168-169
151	Simple prediction method for crude protein content of abandoned cultivated land in Japan	堤道生, 高橋佳孝, 恵本茂樹, 伊藤直弥, 佐原重行, 吉村知子, 渡邊貴之	2011.4	IX International Rangeland Congress: Diverse rangeland for a sustainable society (eds. Feldman, S.R., Oliva, G.E. and Sacido, M.B.)	*365

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
152	広域連携周年放牧のLCAによる環境影響評価	堤道生	2011.9	2011年度日本草地学会若手の会・中国地方における草地の保全と持続的利用に向けた取り組み	*3-4
153	中空構造栽培槽の配置が栽培植物の光環境と生育に及ぼす影響	内山知二,山崎敬亮,長崎裕司,佐野修司,西本登志,遠藤常嘉,工藤渚,松山真三,隅谷智宏	2012.3	園芸学研究	11(別1),357
154	中空構造栽培槽で栽培されたレタスの栽植位置と生育の関係	内山知二,山崎敬亮,佐野修司,西本登志,長崎裕司,遠藤常嘉	2011.9	園芸学研究	10(別2),506
155	イノシシの採食被害を受けにくい寒地型牧草種の探索	上田弘則,江口祐輔,井上雅央	2011.9	日本哺乳類学会 2011 年度大会	*154
156	山田錦最適作期決定システムにおける50mメッシュ気温情報の開発	植山秀紀,芦田かなえ,須藤健一,池上勝,加藤雅宣,小河拓也,青山喜典,川向肇	2012.3	日本農業気象学会 2012 年全国大会講演要旨集	*29
157	家畜ふん堆肥の肥料的効果の評価(第7報) 判別分析および反応速度論的手法による牛ふん堆肥の簡易窒素肥効推定	鷲尾建紀,大家理哉,石橋英二,藤本寛,亀井雅浩	2011.8	日本土壌肥料学会講演要旨集	57131
158	食肉の高品質化における食餌性リジン代謝の組織特異性及び調節機構の解明	渡邊源哉,塩野智洋,伊藤友紀,渡辺裕也,小林裕之,柴田昌宏,久保田真敏,門脇基二,藤村忍	2011.8	日本畜産学会第114回大会講演要旨	*134
159	メタボローム解析を用いたリジン代謝の組織特異性の研究:食肉の高品質化に向けた研究	渡邊源哉,塩野智洋,伊藤友紀,柴田昌宏,久保田真敏,門脇基二,藤村忍	2011.11	第31回キャピラリー電気泳動シンポジウム	*166-167
160	発育予測モデルおよびゲノムワイドデータに基づく日本水稲品種群の出穂日予測	渡部真哉,吉岡拓磨,出田収,江花薫子,中川博視,山崎将紀,岩田洋佳	2012.3	育種学研究	14(別1),未定
161	露地ナス栽培現場における畝内根量分布と養分分布の関係	渡邊修一,笠原賢明,志村もと子,松森堅治,山砥健,井上賀貴,吉川弘恭	2011.12	2011年度(第107回)日本土壌肥料学会関西支部会講演会要旨集	*16
162	鉄イオンを付加した竹炭による硝酸態窒素の吸着	渡邊修一,望月秀俊,志村もと子	2011.8	日本土壌肥料学会講演要旨集	57168
163	集落ごとの追い払い頻度の違いでサル警戒度は変化するか?	山田彩	2011.9	日本哺乳類学会 2011 年度大会講演要旨集	*130
164	追い払い頻度が異なる集落間におけるニホンザルの警戒度の差異	山田彩	2011.7	霊長類研究	27,49
165	オオムギにおける高リジン突然変異遺伝子(lys3a)のマッピング	山下優子,高橋飛鳥,柳澤貴司,武田真	2011.9	育種学研究	13(別2),40
166	コムギ末粉水抽出物が神経系に及ぼす影響	山崎いづみ,山田昌良,魚津伸夫,川瀬真市朗,池田達哉,荻原保成,山口宏二	2012.3	日本薬学会第132年会講演要旨集	*811
167	Effect of temperature on development of primary axillary flower bunch in strawberry bench culture	山崎敬亮,熊倉裕史,瀨本浩	2012.2	7th International Strawberry Symposium, Abstract	*299
168	イチゴ'さちのか'における間欠冷蔵処理時の冷蔵温度に関する検討	山崎敬亮,熊倉裕史,村上健二,吉田祐子,生駒泰基,吉田裕一	2012.3	園芸学研究	11(別1),346
169	間欠冷蔵処理によるイチゴ'紅ほっぺ'の花芽分化促進と収量パターン	山崎敬亮,熊倉裕史,瀨本浩,吉田裕一	2011.9	園芸学研究	10(別2),486
170	ポット育苗時の温度が促成イチゴの花成に及ぼす影響	山崎敬亮,熊倉裕史,瀨本浩	2011.9	日本生物環境工学会 2011 年札幌大会講演要旨	*280-281

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名等	巻(号),頁
171	DNA バーコーディングを用いた農地におけるアオゴミシ属の食性解析	山崎謙太郎, 櫻井厚司, 前藤薫, 三浦一芸	2012.3	日本応用動物昆虫学会講演要旨	*,162
172	Increased Saccharide contents in waxy bread wheat (<i>Triticum aestivum</i> L.) grain	安井健, 芦田かなえ	2011.9	9th International Food Data Conference	p. 97, S1.P9
173	初生時の末梢血中オキシトシン濃度と成長後のストレス感受性との関連	矢用健一, 北川紗雪, 伊藤秀一, 山本直幸	2012.3	日本畜産学会第 115 回大会講演要旨集	*,183
174	座長解題「阿蘇草原保全の現状と再生への課題」－阿蘇の文化的景観の持続的保全管理と地域活性化を求めて－	横川洋, 高橋佳孝	2011.11	農村計画学会 2011 年度秋季大会シンポジウム資料集	*,1-2
175	Can soil seed banks restore genetic diversity of critically endangered plants?: Genetic status of seed bank derived populations of <i>Polemonium kiusianum</i>	横川昌史, 高橋佳孝, 井鷲裕司	2012.3	Joint Meeting of The 59th Annual Meeting of ESJ & The 5th EAFES International Congress Book of Abstracts	*,494
176	都市近郊直売所における切り花の需給調整型ビジネスモデルの策定	吉田晋一	2011.9	平成 23 年度日本農業経営学会研究大会報告要旨	*,66
177	ハウレンソウの硝酸含量の変動は収穫 2 日前の日射量の影響を受ける	吉田祐子, 瀧本浩	2012.3	園芸学研究	11(別 1), 未定
178	カラシナ, エンバク等の鋤き込み・被覆処理による夏作および初秋作ハウレンソウの土壌病害軽減効果の検証	吉田祐子, 竹原利明, 瀧本浩, 伊藤陽子, 須賀有子	2011.9	園芸学研究	10(別 2),499
179	穀類中の抗酸化活性の評価: フェノール類との関連	吉田淳子, 園田啓介, 野方洋一, 沖智之, 橋本俊二郎, 太田英明	2011.9	日本食品科学工学会第 58 回大会講演要旨	*,100
180	農業由来の河川・地下水・海水への負荷量の推定 一面源負荷量の推定	吉川省子, 高橋英博, 望月秀俊, 小野寺真一, 江口定夫	2011.9	日本陸水学会第 76 回大会講演要旨集	*,48
181	Nutrient loads from different land use systems to water bodies in the middle Seto inland area, Japan	吉川省子, 高橋英博, 望月秀俊	2011.10	East and Southeast Asia Federation of Soil Science Societies	*,53-54
182	クラブコムギ由来のグルテニンサブユニットがコムギ粉の SDS 沈降量に及ぼす影響	吉村康弘, 池田達哉	2012.3	育種学研究	14(別 1),154
183	Impact of open burning and biomass decomposition on carbon budget in cropping field	Keisuike Yoshizawa, Daisuke Kajihara, Seiji Shimoda, Keisuke Ono, Takahiro Takimoto, Toru Iwata	2011.11	AsiaFlux Work Shop 2011 Proceedings	*,85

V 研究情報活動

4) その他

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
1	ショクガタマバエバンカーの開発	安部順一朗	2011.12	植物防疫	65(12),5-11
2	ハダニタマバエ <i>Feltiella acarisuga</i> (ハエ目:タマバエ科)の形態学的特徴および日本における分布と捕食対象ハダニ類,生活史特性	安部順一朗,喜久村智子,湯川淳一	2011.11	植物防疫	65(11),1-5
3	天敵定着で害虫捕食	安部順一朗	2011.6	日本農業新聞	16面
4	米粉になりやすい!?「粉質米」の特徴	芦田かなえ	2011.12	近中四農研ニュース	43,3
5	粉質米の米粉への利用と品種開発	芦田かなえ	2011.12	研究ジャーナル	34(12),16-20
6	アナグマ・タヌキ対策	江口祐輔	2012.3	農耕と園芸	67(4),132-135
7	アライグマ対策	江口祐輔	2012.2	農耕と園芸	67(3),132-135
8	野生動物による被害対策と資源化の考え方	江口祐輔	2011.11	畜産コンサルタント	47(11),18-23
9	ハンドリングを極める イノシシの生態からブタの扱い方を考える	江口祐輔	2011.11	月刊養豚界	46(12),19-22
10	農家のための鳥獣害総合対策 ツキノワグマ対策	江口祐輔	2011.9	農耕と園芸	66(10),152-155
11	農家のための鳥獣害総合対策 シカの行動と被害対策	江口祐輔	2011.8	農耕と園芸	66(9),152-155
12	農家のための鳥獣害総合対策 イノシシ対策(4)	江口祐輔	2011.6	農耕と園芸	66(7),152-155
13	農家のための鳥獣害対策研究グループ総合対策 イノシシ対策(3)	江口祐輔	2011.5	農耕と園芸	66(6),152-155
14	農家のための鳥獣害対策研究グループ総合対策 ハクビシン対策(1)	江口祐輔	2011.11	農耕と園芸	66(12),152-155
15	県産野菜の鳥獣害被害軽減を目指して	江口祐輔	2011.10	福岡の野菜	146,10-16
16	イノシシの行動から見た現場のエラー	江口祐輔	2011.8	和歌山の果樹	62(10),10-12
17	里山のイノシシはどんな生活をしている? 生き生き動物図鑑 里山で暮らす生き物たち	江口祐輔	2011.10	ダーウィンが来た! DVDブック	31,6-9
18	見直そう水稲直播栽培 乾田直播編⑥	藤本寛	2011.4	農業共済新聞	13面
19	雑草紹介シリーズ ヒルガオ (Calystegia 類)	伏見昭秀	2011.12	草と緑 (NPO法人緑地雑草科学研究所)	3, 38-44
20	ラクラク畦畔管理特集 畦畔管理の省力化をめざして	伏見昭秀	2012.2	日本農業新聞	3面
21	急傾斜草刈り・畦畔管理で省力化	伏見昭秀	2011.5	日本農業新聞	10面
22	2010年度大会自由集会記録	平田滋樹,姉崎智子,上田剛平,山田彩,小寺祐二	2011.6	哺乳類科学	51,165-168
23	水稲低アミロース新品種「姫ごのみ」の育成について	飯田修一	2011.6	米麦改良	6月号,10-16
24	皮が赤紫色で鮮やかな多収性ヤーコン新品種「アンデスの乙女」	石川浩一,杉浦誠	2011.12	近中四農研ニュース	43,6
25	ヤーコン新品種「アンデスの乙女」	石川浩一	2011.12	農業日誌(農林統計協会)	*,358-359
26	病害虫図鑑 メロン(キュウリ)黄化えそ病	石川浩一	2011.4	日本農業新聞	16面

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
27	省エネルギーを図る次世代型パイプハウス「日本型日光温室」の開発	川嶋浩樹	2011.7	近中四農研ニュース	41,3
28	韓国の施設園芸見聞記－2011 韓国研修ツアーに参加して	川嶋浩樹	2011.8	施設と園芸	154,35-41
29	施設栽培の省エネルギー対策	川嶋浩樹	2012.1	野菜情報	94,33-40
30	平成 22 年度問題別研究会及び試験研究推進会議の概要	菊地淳志	2011.12	日本応用動物昆虫学会中国支部会報	53,71-72
31	フタスジヒメハムシの被害の実態と効果的な防除法は？ オオクロコガネ幼虫の防除法は？	菊地淳志	2012.3	大豆づくり Q & A 増補改訂 (全国農業改良普及支援協会)	*,*
32	病害虫図鑑「シロイチモジマダラメイガ」	菊地淳志	2011.7	日本農業新聞	14 面
33	大豆害虫の発生動向と防除のポイント	菊地淳志	2011.6	日本農業新聞	4 面
34	水稲の虫害防除のポイント	菊地淳志	2011.5	農業共済新聞	6 面
35	ダイズ害虫の防除対策	菊地淳志	2011.7	新農林技術新聞	13 面
36	ヤーコン新品種「アンデスの乙女」に関する電話インタビュー	児嶋清	2012.1	FM 東京ほか全国 38 局ネット	
37	ヤーコン新品種「アンデスの乙女」に関するインタビュー	児嶋清	2012.1	FM 東京ほか全国 38 局ネット	
38	稲・麦・大豆 2 年 3 作体系における大麦・大豆の省力栽培 (不耕起播種技術・中国中山間地)	窪田潤	2012.3	水田輪作栽培マニュアル	*,*
39	小型不耕起密条播種技術	窪田潤	2012.3	大豆づくり Q&A 増補改訂 (社団法人全国農業改良普及支援協会)	*,100-101
40	「高品質カンキツの生産と流通に貢献する革新技術と産地における展開方向」の紹介	國賀武	2011.9	香川の果樹 (香川県農業協同組合)	25(3),25-27
41	カンキツ類はどこから来たか？ (15)	國賀武	2012.1	香川の果樹 (香川県農業協同組合)	25(5),25-27
42	カンキツ類はどこから来たか？ (14)	國賀武	2011.11	香川の果樹 (香川県農業協同組合)	25(4),25-27
43	カンキツ類はどこから来たか？ (12)	國賀武	2011.5	香川の果樹 (香川県農業協同組合)	25(1),25-27
44	カンキツ類はどこから来たか？ (13)	國賀武	2011.7	香川の果樹 (香川県農業協同組合)	25(2),25-27
45	風の事典「風化」	黒瀬義孝	2011.11	丸善	*,100
46	風の事典「逆転層、冷気湖」	黒瀬義孝	2011.11	丸善	*,95
47	開花期予測とかび毒汚染リスクの評価	黒瀬義孝, 浦広幸, 辻英明	2011.11	フードチェーンにおける食の安全を守る取り組み	*,13
48	温湯パイプの素材, 放熱効果	畔柳武司	2012.2	小エネルギー高生産を目指したバラ株元加温技術導入マニュアル	*,10-11
49	野菜作に対応した地下水位制御技術の開発	松田周	2012.3	北海道農研プロジェクト研究成果シリーズ	*,**
50	四升一合二升五合	松田周	2011.11	農業農村工学会誌	79(11),46-48
51	農業技術体系 畜産編 3 巻 肉牛「牛肉の変色、放牧の影響」	松本和典	2011.10	農文協	3,305-308
52	黒毛和種経産牛の「放牧仕上げ熟どり」	松本和典	2011.8	平成 24 年農業日誌 (農林統計協会)	*,314
53	放牧で経産牛おいしく	松本和典	2011.11	読売新聞	33 面

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
54	放牧でおいしい赤身肉	松本和典	2011.10	朝日新聞	32 面
55	繁殖雌放牧ヘルシーに 遊休地で「熟 ビーフ」	松本和典	2011.11	日本農業新聞	1 面
56	雨と雪で除塩	望月秀俊	2011.12	日本農業新聞	14 面
57	部門別進歩総説－第 3 部門 土壤生物 －土壤病害	村上弘治	2011.12	日本土壤肥科学雑誌	82(6),480- 482
58	平成 23 年度農研機構セミナー 野菜 の土壤病虫害防除における環境保全 的対策研究の最前線－病原菌の識別・ 定量検出、発病リスクの評価、防除 技術－ 開催報告	村上弘治	2011.12	近中四農研ニュース	43,11
59	土壤病害の診断および防除対策にお ける土壤肥料分野としての貢献と今 後の課題	村上弘治	2011.11	土づくりとエコ農業	43(7),38-43
60	アブラナ科野菜根こぶ病の発病予測 や対策を見出す土壌診断法の開発	村上弘治	2011.12	グリーンレポート (JA 全農 営 農販売企画部)	510,4-5
61	アブラナ科野菜根こぶ病の総合防除 のためのツールとして石灰窒素を活 用	村上弘治	2011.8	石灰窒素だより (日本石灰窒素 工業会)	146,6-9
62	農産物直売所を核とした 6 次産業化 の意義－近畿中国四国地域における 事例と研究成果から－	室岡順一, 吉田晋一, 尾島一史	2011.12	近畿中国四国農研農業経営研究	22,34-48
63	「東日本大震災への対応に関する緊急 集会」での検討を受けて施設園芸の あり方を再考する	長崎裕司	2011.12	農作業研究	46(4),195- 196
64	イネの収量はどこまで増やせるのか －超多収へのチャレンジ	長田健二	2011.7	近中四農研ニュース	41,4
65	モノレールの自動運行システムの開 発	中元陽一	2011.9	果実日本	66(9),25-28
66	小麦ふすまからの血圧降下ペプチド の簡便な製造法	野方洋一	2011.4	機械化農業	4,45-48
67	書評 井上雅央・秋山雅世著「モグ ラー おもしろ生態とかしこい防ぎ 方」	尾島一史	2011.10	有機農業研究	3(1),67-68
68	ミカンの箱色と商品名に対する消費 者の好みや印象をインターネット調 査から探る (3)	齋藤仁藏	2012.2	果実日本	67(2),109- 112
69	ミカンの箱色と商品名に対する消費 者の好みや印象をインターネット調 査から探る (2)	齋藤仁藏	2011.12	果実日本	66(12),97- 100
70	ミカンの箱色と商品名に対する消費 者の好みや印象をインターネット調 査から探る (1)	齋藤仁藏	2011.11	果実日本	66(11),90-94
71	柑橘経営の実態調査からみた園地条 件によるマルドリ方式導入効果の相 違	齋藤仁藏	2011.8	フルーツひろしま	31(8),16-19
72	ダイズのラッカセイわい化ウイルス 抵抗性	猿田正恭	2011.10	近中四農研ニュース	42,4
73	コンバインによる適期収穫が可能で 豆腐加工に適した大豆新品種「はつ さやか」	猿田正恭, 高田吉丈, 岡部昭典	2011.12	近中四農研ニュース	43,7

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
74	青立ちが少なく豆腐加工に適した大豆新品種「はつさやか」	猿田正恭	2011.10	農業日誌(農林統計協会)	*198-199
75	「たちすずか」がフード・アクション・ニッポンアワード2011研究開発・新技術部門で優秀賞を受賞しました	佐々木良治	2011.12	近中四農研ニュース	43,9
76	第3編 生産性向上・安定化のための生産技術の確立,第1章 安定生産技術・アミロース含有率安定化,7 コメ窒素・アミロース含量等の品質制御と多収性の両立のための窒素供給パターン	佐々木良治,大平陽一,長田健二	2012.3	低コストで質の良い加工・業務用農産物の安定供給技術の開発4系(稲)(プロジェクト研究成果シリーズ000)	*,*
77	水田を活用した資源作物の効率的生産・供給技術の確立	澤村篤	2012.2	新稲作研究会40周年記念誌(農業技術協会・新稲作研究会)	*57-62,87
78	農材を用いた省エネ温室の普及を目指し	澤村篤	2012.1	農業資材通信(農材通信社)	1490,34,36,38
79	飛ばないテントウムシの研究紹介	世古智一,田中雅也	2011.10	森本毅朗・スタンバイ!(TBSラジオ)	
80	飛ばないテントウムシによる害虫駆除	世古智一	2011.8	テレビ派(広島テレビ)	
81	さまざまな作物でアブラムシ防除に有効な「飛ばないナミテントウ」	世古智一	2011.4	みんなの農業広場(社団法人全国農業改良普及支援協会)	*,*
82	ぼぼる「飛ばない」オーディション50世代目で合格者	世古智一	2011.7	日本農業新聞	7面
83	飛ばないテントウムシ開発/アブラムシに高い防除効果	世古智一	2011.6	農業共済新聞	13面
84	質問コーナー「飛翔能力を欠くテントウムシを活用したアブラムシの防除法が開発されたそうですが?」	世古智一	2011.4	STAFF newsletter	22,6
85	低圧型細霧冷房と地下冷熱源を併用した環境制御による夏秋トマト安定生産技術の開発と実証	柴田昇平,日高輝雄,吉村美沙子	2011.7	研究成果「地球温暖化が農林水産業に及ぼす影響評価と緩和及び適応技術の開発」	483,346-350
86	傾斜地果樹園での小規模水源確保技術と防災のための排水制御技術	島崎昌彦	2011.5	果実日本	66(5),60-66
87	傾斜地果樹園での小規模水源確保技術と防災のための排水制御技術	島崎昌彦	2011.5	果実日本	66(5),60-66
88	マイクロかんがいを利用した果樹の省力養水分管理	島崎昌彦	2012.1	果実日本	67(1),87-90
89	登熟期の水・施肥管理で光合成の改善は可能か	下田星児	2011.4	土づくりとエコ農業	43,24-27
90	地球温暖化が農林水産業に及ぼす影響評価と緩和及び適応技術の開発 第1編 地球温暖化の進行を緩和するための技術開発 第2章 農地生態系からの温室効果ガスの排出削減のための管理技術の開発(8) 耕作放棄地の炭素蓄積能力を高める管理技術の開発	下田星児	2011.7	農林水産省農林水産技術会議事務局研究成果	483,195-200
91	大阪湾流域の農業用ため池を含む集水域の窒素流出負荷量予測	志村もと子	2011.12	近中四農研ニュース	43,5
92	外観形質が優れ塊根収量の高いヤーコン新品種「アンデスの乙女」	杉浦誠	2012.1	YACON(日本ヤーコン協会)	14(1);32-33

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
93	イモのひび割れが少なく収量の高い ヤーコン「アンデスの乙女」	杉浦誠	2012.3	ニューカントリー (北海道共同 通信社)	59(3),58-59
94	鮮やかな赤紫色の新品種「アンデス の乙女」	杉浦誠	2012.2	現代農業 (農文協)	91(2),112
95	晩播栽培において多収で味噌の原料 に好適な大豆新品種「あきまる」	高田吉丈, 猿田正恭, 岡部昭典	2011.12	近中四農研ニュース	43,8
96	晩播栽培において多収で味噌に好適 な大豆新品種「四国三号」	高田吉丈	2011.12	平成 24 年農業日誌 (農林統計 協会)	*225-229
97	炊飯後に褐変しにくく、食味に優れ る二条裸麦品種「キラリモチ」の育 成	高橋飛鳥, 長嶺敬, 柳澤貴司	2011.7	米麦改良	*,19-24
98	加工しやすい大麦品種の開発にむけ て ~穀粒の硬さに関わる種子タン パク質の解析~	高橋飛鳥	2012.1	米麦改良	*,9-12
99	ヒマワリの種を 1 粒ずつ播きたい! ーヒマワリ用播種ローラー	高橋仁康	2011.10	近中四農研ニュース	42,3
100	専用収穫機の開発行方 近畿中国四 国農業研究センター 各地で成果普 及の検討会	高橋仁康	2011.11	農機新聞	7 面
101	近中四農研 長稈対応の試作機公開 飼料用稲収穫機で実演 「たちすず か」普及の現地検開催	高橋仁康	2011.11	農機新聞	4 面
102	播種ローラー”ヒマワリ用”注目	高橋仁康	2011.6	日本農業新聞	1 面
103	次の千年へ	高橋佳孝	2011.6	熊本日日新聞	夕 3 面
104	九州の水がめ	高橋佳孝	2011.6	熊本日日新聞	夕 3 面
105	草原は炭素貯蔵庫	高橋佳孝	2011.6	熊本日日新聞	夕 3 面
106	美と知と技	高橋佳孝	2011.6	熊本日日新聞	夕 3 面
107	多様性育む草刈り	高橋佳孝	2011.5	熊本日日新聞	夕 3 面
108	あか牛の多様な価値	高橋佳孝	2011.5	熊本日日新聞	夕 3 面
109	火と牛馬がチョウを守る	高橋佳孝	2011.5	熊本日日新聞	夕 3 面
110	草原の火 意外に優しい	高橋佳孝	2011.5	熊本日日新聞	夕 3 面
111	寒冷な時代の生きもの	高橋佳孝	2011.4	熊本日日新聞	夕 3 面
112	草原の国だった肥後	高橋佳孝	2011.4	熊本日日新聞	夕 3 面
113	自然の古文書を読み解く	高橋佳孝	2011.4	熊本日日新聞	夕 3 面
114	阿蘇の草原を未来へ	高橋佳孝	2011.4	熊本日日新聞	夕 3 面
115	収量・品質の向上と安定生産のため の 大豆づくり Q&A 増補改訂 青 立ち (莢先熟) の原因と対策は?	竹田博之	2012.2	全国農業改良普及支援協会	I-1-Q21.54-55
116	地下水制御システム (FOEAS) を 利用した大豆栽培ー梅雨明け後の晩 播栽培ー ver.2	竹田博之	2012.2	温暖地湿田型水田輪作マニユア ルシリーズ	*,*
117	大豆の高品質・安定生産のポイント ー湿害回避し 健全な種子の確保を ー	竹田博之	2011.5	農業共済新聞	6 面
118	葉腐病の発生生態と防除法は?	竹原利明	2012.3	収量・品質の向上と安定生産の ための大豆づくり Q & A (病害 虫・雑草・鳥害対策編) (増補 改訂版) ((社) 全国農業改良普 及支援協会	114-115
119	病害虫図鑑 ダイズ葉腐病	竹原利明	2011.5	日本農業新聞	14 面

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
120	果樹園における省力化に向けた作業道整備の取り組み	田中宏明	2012.1	果実日本	67(1),91-95
121	急傾斜果樹園における運搬の省力化技術	田中宏明, 中元陽一	2011.4	果実日本	66(4),82-85
122	軽負荷作業を対象とした電動作業機械	田中宏明, 中元陽一	2011.11	機械化農業	3126,10-14
123	海外で見たこと 赤身牛肉の本場アルゼンチン	堤道生	2011.7	近中四農研ニュース	41,8
124	ソーラーポンプを利用した「日射制御型拍動かん水装置」の開発	渡邊修一	2011.12	全農グリーンレポート	*,14-15
125	農家のための鳥獣害総合対策	山田彩	2011.4	農耕と園芸	66,152-157
126	鉄コーティング直播の最近の研究動向	山内稔	2011.12	農薬グラフ (バイエルクロップサイエンス)	182,9
127	鉄コーティング種子を用いた水稻の直播における水管理と病害虫・雑草問題	山内稔	2011.11	植調	45(8),303
128	鉄粉で水稻種子コーティング 直まき簡単 産地広がる 省力化やコスト削減	山内稔	2012.1	日経 MJ	14 面
129	日本農業振興のための新技術 2011年農研機構の研究成果紹介 6 稲作の大幅な省力化実現 鉄で被覆した種子で湛水直播 普及拡大には実施事例の構築を	山内稔	2011.10	日本種苗新聞	4 面
130	飼料稲 省力効果を確認 鉄コーティング種子を無人ヘリ散播 苗立ち改善が課題 新稲作研究会 滋賀で現地検討会	山内稔	2011.8	日本農業新聞	14 面
131	稲作労働の省力化につながる新技術 鉄でコーティングした種もみの直播が稲作を変える	山内稔	2011.7	JFE スチールマンズリー	182(7),14
132	将来的なイチゴ育苗の分業化に向けて	山崎敬亮	2011.7	近中四農研ニュース	41,5
133	気化潜熱を利用した培地冷却法による高設栽培イチゴの中休み軽減技術	山崎敬亮	2011.7	植調	45(4),117-124
134	高温期の安定生産が可能な促成イチゴの低コスト高設栽培装置の開発と開発した装置を使用した産地実証	山崎敬亮, 山本晃一	2011.7	地球温暖化が農林水産業に及ぼす影響評価と緩和及び適応技術の開発 (研究成果 483)	*,350-356
135	イチゴの端境期を短縮 土の温度下げ生育を促進	山崎敬亮	2011.6	中国新聞	5 面
136	高設栽培イチゴ「収穫の中休み」軽減技術 培地の昇温抑え施肥法改善	山崎敬亮	2011.8	全国農業新聞	5 面
137	ハウスイチゴ 収穫減防ぐ技術開発 気化熱で温度下げ	山崎敬亮	2011.6	山陽新聞	7 面
138	イチゴの中休み短縮 気化熱で培地冷却	山崎敬亮	2011.6	日本農業新聞	1 面
139	イチゴ高設栽培の中休み軽減技術	山崎敬亮	2011.11	農業日誌 (平成 24 年) (農林統計協会)	*,264-265
140	気化潜熱を利用して培地を冷やし収穫の中休みを軽減	山崎敬亮	2011.9	農研機構技術 2011 産学官連携のための技術シーズ集	*,22

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
141	高温、花芽分化の遅れに対処 イチゴの低コスト高設栽培 気化潜熱利用で培地を冷却	山崎敬亮	2011.11	日本種苗新聞	4 面
142	ツルマメを寄主植物とするチョウ目昆虫	安田耕司, 榑原充隆, 菊地淳志, 水谷信夫, 松村正哉, 加賀秋人, 菊池彰夫, 高田吉丈, 大木信彦	2012.3	蛾類通信	263,333-335
143	ホウレンソウ (温暖地) / 今注目したい園芸品種 (野菜編)	吉田祐子	2011.10	技術と普及	48(10),33-34
144	光環境制御によるホウレンソウの高温下品質向上・抽台抑制技術の開発	吉田祐子, 岡田邦彦	2011.7	地球温暖化が農林水産業に及ぼす影響評価と緩和及び適応技術の開発 (研究成果 483)	*,356-361
145	食物繊維 β -グルカンを多く含む大麦新品種「ビューファイバー」～健康食品向けの原料として期待～	吉岡藤治	2011.7	グリーンレポート (全国農業協同組合連合会)	505

V 研究情報活動

3. 知的財産権

1) 産業財産権の登録および出願

【国内特許】

特許権等の名称	発明者 (共同発明者)	出願年月日	登録年月日および 登録番号
高遊離アミノ酸含有ダイズ	高橋 将一、石本 政男 羽鹿 牧太、松永 亮一 小松 邦彦、喜多村 啓介 矢ヶ崎 和弘	平成 16.9.30	平成 23.3.18 特許第 4701665 号
植物病害防除剤及び農薬	宮川 久義 (丸善製薬 (株))	平成 17.4.25	平成 23.7.1 特許第 4769921 号
植物用体内水分ストレス表示シート	森永 邦久、星 典宏 草場 新之助、 (ライフケア技研 (株))	平成 18.3.1	平成 23.9.9 特許第 4817176 号
低水分領域における土壌水分測定方法及び測定装置	黒瀬 義孝	平成 18.1.18	平成 23.10.14 特許第 4840803 号
切り花の開花程度判断方法及び開花程度判断装置	仲 照史、香川 将志 渡辺 修一、藤野 雅丈 竹崎あかね、 (香川県産業技術センター、香川県 農業試験場)	平成 17.8.23	平成 23.10.21 特許第 4843766 号
ウシの優良産肉形質判定方法	相川 勝弘、柴田 昌宏 松本 和典、林 孝 寺田 文典 (兵庫県)	平成 18.5.19	平成 23.11.18 特許第 4863266 号
コムギのグルテニン・サブユニットを 発現するトランスジェニックイネ	池田 達哉、荒木 悦子 藤田由美子、矢野 博 (独) 理化学研究所、萩原 保成)	平成 18.3.28	平成 23.12.9 特許第 4880338 号
植物体の重量測定方法	森永 邦久、草場新之助 村松 昇、島崎 昌彦 星 典宏	平成 17.5.23	
脂肪細胞分化促進剤 (1)	関谷 敬三 (富士産業 (株))	平成 18.2.2	
脂肪細胞分化促進剤 (2)	関谷 敬三 (富士産業 (株))	平成 18.2.2	
歩行型動力運搬車	田中 宏明、中元 陽一 松崎 健文、岡 信光 角川 修、畔柳 武司	平成 18.10.24	
小麦の穀粒硬度及び小麦粉の粒径を低 下させる方法	谷中美貴子、池田 達哉 高田 兼則	平成 20.1.22	
植物からのシアル酸含有化合物の抽出 方法	川瀬 眞市朗	平成 20.4.25	
高設栽培装置と、高設栽培装置におけ る透湿防水シートの施行方法	山崎 敬亮、熊倉 裕史 浜本 浩、岩本 辰弘	平成 20.12.24	
遺伝的に飛翔能力を欠くテントウムシ の作出方法	世古 智一、三浦 一芸 (国) 岡山大学)	平成 21.1.13	
播種ロール及び播種機	窪田 潤、佐藤 達也 高橋 仁康、亀井 雅浩 藤本 寛、奥野林太郎	平成 21.2.10	
大麦粉の製造方法	高田 兼則、柳澤 貴司 池田 達哉、谷中 美貴子	平成 21.6.2	
神経突起伸展促進剤	川瀬眞市朗、池田 達哉 高田 兼則	平成 21.9.14	
切り花収穫機及び切り花収穫方法	田中 宏明、中元 陽一 松崎 健文、長崎 裕司 香川 将志、大黒 正道 岡 信光、畔柳 武司 (みのる産業 (株)、奈良県)	平成 21.10.13	
灌水装置	根角 博久、平岡 潔志 星 典宏 (島根県、キョーワガス産業 (株)、 (国) 山口大学)	平成 21.11.2	
リン脂質及び／又はリゾリン脂質の抽 出方法	川瀬眞市朗	平成 22.3.25	
果実の着色調整方法	國賀 武	平成 22.12.27	

V 研究情報活動

特許権等の名称	発明者 (共同発明者)	出願年月日	登録年月日および 登録番号
イチゴの花芽分化促進方法	山崎 敬亮、熊倉 裕史 浜本 浩	平成 22.12.28	
オーキシン生合成阻害剤	添野 和雄 (独) 理化学研究所)	平成 23.2.28	
NK細胞活性化剤、NK細胞活性化方法及びスクリーニング方法	齋藤 武	平成 23.3.1	
植物栽培装置及び植物栽培装置における可動ベッドの運用方法	長崎 裕司、中元 陽一 川嶋 浩樹、畔柳 武司	平成 23.3.3	
ネット回収装置及びこれを用いたネット回収方法、ネット展張方法	田中 宏明、松崎 健文 加賀宇 昌宏、塩本 知 中元 陽一、長崎 裕司	平成 23.3.16	
レール式薬剤散布装置	長崎 裕司	平成 23.3.22	
自動灌水方法及びその装置	長崎 裕司、吉川 弘恭 川嶋 浩樹	平成 23.3.22	
農業用傾斜地構造	澤村 篤、星 典宏 根角 博久、川嶋 浩樹 細川 雅敏	平成 23.3.29	
農地の水分管理システム	澤村 篤、星 典宏 根角 博久	平成 23.3.30	
農業用ハウス 1	星 典宏、根角 博久 川嶋 浩樹、長崎 裕司 澤村 篤	平成 23.3.29	
農業用ハウス 2	澤村 篤、星 典宏 川嶋 浩樹、長崎 裕司 畔柳 武司	平成 23.3.29	
農業用ハウス 3	澤村 篤、星 典宏 川嶋 浩樹、長崎 裕司 柴田 昇平	平成 23.3.31	
温室構造体および温室構造体の温度調整方法	澤村 篤、川嶋 浩樹 (住友大阪セメント(株))	平成 23.7.20	
かん水制御装置及びかん水制御方法	星 典宏、井上 久義、 植山 秀紀、根角 博久	平成 23.9.16	
排土板及び排土装置	田中 宏明、中元 陽一、 岡 信光、松崎 健文、 藤川 益弘	平成 23.10.18	
単軌条運搬機の停止位置自動制御装置	中元 陽一、角川 修、 田中 宏明、岡 信光、 松崎 健文	平成 23.10.18	

【外国特許】

特許権等の名称	発明者 (共同発明者)	出願年月日	登録年月日および 登録番号
植物からのシアル酸含有化合物の抽出法 (豪州)	川瀬 眞市朗	平成 21.10.6	平成 23.1.12 NO.2010235859
遊離アミノ酸を富化した食品素材及びその製造法 (カナダ)	野方 洋一、堀野 俊郎 長嶺 敬	平成 18.8.28	平成 23.1.24 NO.2558220
天敵昆虫を飼育するための給餌方法および給餌装置 (欧州)	長坂 幸吉、安部順一朗 ((国) 京都大学、(株) 四国総合研究所、 曾田香料(株))	平成 17.11.24	
植物からのシアル酸含有化合物の抽出方法 (米国、欧州、カナダ、豪州)	川瀬 眞市朗	平成 20.4.25	
植物からのシアル酸含有化合物の抽出法 (米国、欧州、カナダ)	川瀬 眞市朗	平成 21.10.6	

※ 新たに登録された特許および平成 17 年度以降に出願された特許について掲載。

V 研究情報活動

2) 新品種の登録および出願

【品種登録】

農林水産植物の種類	出願品種の名称	育成者 (共同育成者)	出願年月日	登録年月日および 登録番号
小麦	ふくはるか	石川直幸、高田兼則 渡邊美貴子、長嶺敬之 高山敏之、田谷省三 甲斐由美	平成 20.10.22	平成 23.7.4 第 20864 号
水稻	姫ごのみ	飯田修一、出田収 松下景、春原嘉弘 根本博、前田英郎 石井卓朗、田村泰章	平成 22.3.31	平成 24.3.23 第 21717 号

【出願品種】

農林水産植物の種類	出願品種の名称	育成者 (共同育成者)	出願年月日	登録年月日および 登録番号
大麦	ユメサキボシ	柳澤貴司、長嶺敬之 高橋飛鳥、高山敏之 伊藤昌光、石川直幸 土井英司、藤田雅也 土井芳憲、杉浦誠 松中仁	平成 20.10.28	
大麦	キラリモチ	柳澤貴司、長嶺敬之 高橋飛鳥、高山敏之 藤田雅也、土井芳憲 松中仁	平成 21.11.27	
水稻	たちずずか	飯田修一、出田収 松下景、春原嘉弘 前田英郎、田村泰章	平成 22.3.31	
ヤーコン	アンデスの乙女	中西建夫、藤野雅丈 中路純子、石川浩一 杉浦誠	平成 23.3.24	
大豆	はつさやか	岡部昭典、高田吉丈 猿田正恭、菊池彰夫 小野貞芳、異儀田和典 酒井真次、松永亮一 羽鹿真太、高橋亮一 小松邦彦	平成 23.4.13	
大豆	あきまる	岡部昭典、高田吉丈 猿田正恭、菊池彰夫 小野貞芳 (長野県野菜花き試験場)	平成 23.4.27	
レタス	ウィンターパワー	藤野雅丈、石川浩一 中路純子 (兵庫県立農林水産技術総合センター、香川県農業試験場)	平成 23.12.21	

※ 新たに登録された品種および現在出願中の品種について掲載。

V 研究情報活動

4. 広報活動

1) 記者発表（資料配付含む）

年月日	発 表 内 容
H 23.6.1	高設栽培イチゴの収穫の中休み軽減技術 「収穫の中休み」が生じるイチゴ栽培において、その期間を 30 日程度短縮できる技術を開発した。
H 23.7.15	平成 23 年度農研機構シンポジウム開催についてのお知らせ 「高品質カンキツの生産と流通に貢献する革新技術と産地における展開方向」
H 23.7.25	「サマーサイエンスキャンプ 2011」開催についてのお知らせ 高校生 12 名が参加し、「小麦野加工適性の解析」をテーマに科学技術体験合宿プログラムを実施する。
H 23.8.10	平成 23 年度中国四国地域マッチングフォーラム及び大豆生産等現地検討会開催についてのお知らせ 「水田輪作を支える大豆、麦類新品種と地下水位制御システム」～田んぼを変えて地域を元気に～
H 23.9.7	鳥獣害対策技術指導研修会開催についてのお知らせ 農業現場の鳥獣害被害対策において中心的役割を担う指導者を育成するための技術指導研修会について
H 23.10.6	平成 23 年度近畿中国四国農業研究センター綾部拠点一般公開開催についてのお知らせ
H 23.10.7	平成 23 年度近畿中国四国農業研究センター福山本部一般公開開催についてのお知らせ
H 23.10.14	平成 23 年度近畿中国四国農業研究センター四国センター一般公開開催についてのお知らせ
H 23.10.21	公開成果報告・現地検討会開催についてのお知らせ 「カンキツの栽培技術革新による新品種のブランド化と産地展開」
H 23.11.7	コンバインによる適期収穫が可能で、豆腐加工に適した大豆新品種「はつさやか」の育成について
H 23.11.7	晩播栽培において多収で、味噌の原料に好適な大豆新品種「あきまる」の育成について
H 23.11.28	多収で外観形質の優れるヤーコン新品種「アンデスの乙女」の育成について
H 24.1.18	葉枯病に強いはとむぎ新品種「とりいずみ」の育成について（九州沖縄農業研究センターの発表を代行）

2) 近畿中国四国農業研究センター刊行物（会議資料等除く）

刊 行 物 名	発行年月	印刷数
近畿中国四国農業研究成果情報（平成 22 年度）	H23.5	700
要覧（和文）	H23.5	2,000
近中四農研ニュース No.41	H23.7	900
平成 23 年度農研シンポジウム講演要旨	H23.8	300
要覧（和文）	H23.9	1,500
平成 23 年度 中国四国地域マッチングフォーラム講演要旨	H23.9	230
近中四農研ニュース No.42	H23.10	1,000
近畿中国四国農業研究センター年報 平成 22 年度	H23.10	web
平成 23 年度農研セミナー講演要旨	H23.10	180
要覧（和文）	H23.11	1,000
平成 23 年度 近畿地域マッチングフォーラム講演要旨	H23.11	180
近中四農研ニュース No.43	H23.12	1,000
近畿中国四国農業研究センター研究報告第 11 号	H24.2	750
近中四農研ニュース No.44	H24.3	1,000
近畿中国四国農業研究センター研究資料第 9 号	H24.3	700

V 研究情報活動

3) 一般公開、イベント、講演会、シンポジウム等の開催

一般公開・市民フォーラム

一般公開のテーマ名	主催者（共催）	開催年月	開催場所	参加者数
春のミニ一般公開	近畿中国四国農業研究センター	H 23.4	本所	439 名
お花見公開	近畿中国四国農業研究センター	H 23.4	四国センター	1,533 名
人と環境に優しい野菜作り	近畿中国四国農業研究センター	H 23.10	綾部研究拠点	570 名
見てみよう！食を支える農業研究	近畿中国四国農業研究センター	H 23.10	本所	1,000 名
未来に羽ばたく四国農業！農業でニッポンを元気に	近畿中国四国農業研究センター	H 23.10	四国センター	985 名
一般公開	近畿中国四国農業研究センター	H 23.10	大田研究拠点	540 名

イベント（一般公開以外の主催イベント）

イベント名	主催者（共催）	開催年月	開催場所	参加者数
サツマイモをテーマとした農業体験学習	近畿中国四国農業研究センター	H23.9	綾部研究拠点	94 名

科学技術離れ対策の協力状況（サイエンスキャンプ、出前レクチャーなど）

イベント名	主催者（共催）	開催年月	開催場所	参加者数
サマーサイエンスキャンプ 2011	科学技術振興機構	H23.8	本所	12 名
チャレンジウィークふくやま	福山市教育委員会	H23.8	本所	9 名
三瓶サイエンスセミナー「和牛ファーム体験」	島根県立大田高等学校	H23.10	大田研究拠点	31 名
インターンシップ	島根県立邇摩高等学校	H23.10	大田研究拠点	4 名
事業体験プログラム	近畿大学附属福山中学校	H23.10	本所	5 名
総合学習	福山市立西深津小学校	H23.10	本所	5 名
職場体験学習	丸亀市立南中学校	H24.1	四国センター	3 名

科学技術離れ対策以外のイベントへの協力および参画状況

イベント名	主催者（共催）	開催年月	開催場所
乃美シバザクラ祭り	東広島市豊栄町	H23.4	広島県東広島市
東北農研センター一般公開	東北農業研究センター	H23.9	岩手県盛岡市
フードテック 2011	大阪国際見本市委員会ほか	H23.9	大阪府大阪市
四国食品健康フォーラム	四国地域イノベーション創出協議会	H23.10	徳島県徳島市
食のブランドニッポン	農研機構、森林総合研究所、水産総合研究センター、国際農研センター	H23.11	東京都港区
広島県立総合技術研究所成果発表会	広島県立総合技術研究所	H23.11	広島県広島市
しまなみ・かんぎつフェスタ 2011	愛媛県、上島町、JA 超智今治	H23.11	愛媛県越智郡上島町
アグリビジネス創出フェア	農林水産省	H23.11	千葉県浦安市
仲多度地区ふれあいまつり	JA 香川県仲多度地区営農センター	H23.12	香川県丸亀市
中国四国地域アグリビジネス創出フェア	NPO 法人中国四国農林水産／食品先進技術研究会	H23.12	岡山県岡山市
アグリミーティング 2011in 島根	JA 全農ほか	H24.1	島根県松江市
稲麦大豆を中心とした土地利用型作物の生産性向上セミナー	中国四国農政局ほか	H24.1	岡山県岡山市
第 2 回ビジネス交流フェア	福山市商工会議所	H24.2	広島県福山市
消費者の部屋	中国四国農政局	H24.2	岡山県岡山市
消費者の部屋	近畿農政局	H24.2	京都府京都市
九州農研センターアグリネットワークフォーラム	九州沖縄農業研究センター	H24.3	熊本県熊本市
第 6 回 JA グループ国産農畜産物商談会	JA 全農ほか	H24.3	東京都千代田区
消費者の部屋	近畿農政局	H24.3	京都府京都市

V 研究情報活動

シンポジウム・セミナー

シンポジウム・セミナー名など	主催者（共催）	開催年月	開催場所	参加者数
第2回くらしき作陽大学・近畿中国四国農業研究センター研究交流会	くらしき作陽大学 近畿中国四国農業研究センター	H23.6	岡山県倉敷市	19名
農研機構シンポジウム「高品質カンキツの生産と流通に貢献する革新技術と産地における展開方法」	近畿中国四国農業研究センター	H23.8	香川県高松市	206名
小ギク収穫省力化のための収穫機実演検討会	近畿中国四国農業研究センター	H23.8	香川県多度郡まんのう町	41名
中国四国地域マッチングフォーラム	農林水産省農林水産技術会議事務局、 近畿中国四国農業研究センター	H23.9	山口県山口市	142名
農研機構セミナー「野菜の土壌病害虫防除における環境保全的対策研究の最前線」	近畿中国四国農業研究センター	H23.10	京都府京都市	132名
第2回根こぶ病研究会	近畿中国四国農業研究センター	H23.10	京都府京都市	56名
近畿地域マッチングフォーラム	農林水産省農林水産技術会議事務局、 近畿中国四国農業研究センター	H23.11	奈良県奈良市	102名
第3回くらしき作陽大学・近畿中国四国農業研究センター研究交流会	くらしき作陽大学 近畿中国四国農業研究センター	H24.3	広島県福山市	10名

4) 技術相談および見学

生産者： 農協、農業関係公益法人なども「生産者」に含める

消費者： 消費者団体も含める

青少年： 幼稚園児～高校生

行政： 国行政、県行政

研究機関： 大学、公立試、国研、独法

民間： 民間企業、民間団体、民間の試験研究機関

(1) 技術相談

相談方法	生産者	消費者	青少年	マスコミ	行政	研究機関	民間	海外	その他	合計
インターネットによる相談件数	12	1	0	1	10	20	5	0	1	50
電話による相談件数	70	5	2	3	27	19	29	1	0	156
面談による相談件数	54	4	0	6	7	16	25	0	1	113
その他の手段による相談件数	41	1	9	0	6	11	8	0	1	77
合計	177	11	11	10	50	66	67	1	3	396

(2) 見学者

	生産者	消費者	青少年	マスコミ	行政	研究機関	民間	海外	その他	合計
外部からの見学者数（人）	491	0	227	1	128	67	27	0	23	964

V 研究情報活動

5. 図書資料の収集・受入、サービス

1) 収書数

① 単行書

単位：冊

	和 書			洋 書			合計
	購入	寄贈交換	計	購入	寄贈交換	計	
本所（福山）	308	46	354	25	1	26	380
四国研究センター	59	138	197	5	2	7	204
綾部研究拠点	15	0	15	1	0	1	16
大田研究拠点	9	0	9	0	0	0	9
合 計	391	184	575	31	3	34	609

② 逐次刊行物

単位：種

	和 書			洋 書			合計
	購入	寄贈交換	計	購入	寄贈交換	計	
本所（福山）	112	479	591	49	23	72	663
四国研究センター	102	357	459	33	14	47	506
綾部研究拠点	24	115	139	6	7	13	152
大田研究拠点	12	189	201	18	8	26	227
合 計	250	1,140	1,390	106	52	158	1,548

③ その他の資料

単位：冊

	和 書			洋 書			合計
	購入	寄贈交換	計	購入	寄贈交換	計	
本所（福山）	0	189	189	0	0	0	189
四国研究センター	10	90	100	0	0	0	100
綾部研究拠点	0	13	13	0	0	0	13
大田研究拠点	0	22	22	0	0	0	22
合 計	10	314	324	0	0	0	324

2) 除籍数

単位：冊

	和 書			洋 書			合計
	単行書	逐次刊行物	計	単行書	逐次刊行物	計	
本所（福山）	2	47	49	0	0	0	49
四国研究センター	0	0	0	0	47	47	47
綾部研究拠点	0	0	0	0	0	0	0
大田研究拠点	0	0	0	0	0	0	0
合 計	2	47	49	0	47	47	96

(注) 逐次刊行物は、製本に換算した冊数

3) サービス

	文献複写（件）		相互貸借（件）		貸出（冊）
	依 頼	提 供	依 頼	提 供	
本所（福山）	292	146	46	37	434
四国研究センター	83	50	56	17	826
合 計	375	196	102	54	1,260

VI 研究交流

1. 研究員などの受入・研修

1) 国際農林水産業研究センター (JIRCAS) 研究員

国名	受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
該当なし			

2) 国際協力機構 (JICA) 研究員

国名	受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
該当なし			

3) 日本学術振興会 (JSPS) 研究員

国名	受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
該当なし			

4) 科学技術振興機構 (JST) 研究員

国名	受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
該当なし			

5) その他の制度等による海外研究員の受入

国名	受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
該当なし			

6) 流動研究員

受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
該当なし		

7) 依頼研究員

受入者所属機関名	受入先研究領域	期間	氏名
長崎県病害虫防除所	環境保全型野菜研究領域	H23.9.12 ~ H23.10.7 H23.11.7 ~ H23.12.2	竹邊 桂
熊本県農業研究センター い業研究所	水田作研究領域	H23.10.3 ~ H23.10.7	伏水 邦彦
愛媛県農林水産研究所	水田作研究領域	H23.11.9 ~ H23.11.11	水口 聡

8) 技術講習生

受入者所属機関名	受入先研究領域	期間	氏名
麻布大学	畜産草地・鳥獣害研究領域	H23.5.9 ~ H23.8.14 H23.10.1 ~ H23.12.31	加瀬ちひろ
新居浜工業高等専門学校	傾斜地園芸研究領域	H23.7.25 ~ H23.8.5	森岡 美早
新居浜工業高等専門学校	傾斜地園芸研究領域	H23.7.25 ~ H23.8.5	藤岡 千広
新居浜工業高等専門学校	傾斜地園芸研究領域	H23.7.25 ~ H23.8.5	松尾 子竜
岡山大学	営農・環境研究領域	H23.8.18 ~ H23.9.2	蜂谷 拓郎
高知大学	営農・環境研究領域	H23.8.22 ~ H23.8.31	能島 知宏
福山大学	水田作研究領域	H23.8.29 ~ H23.9.2	立石 浩一

VI 研究交流

受入者所属機関名	受入先研究領域	期 間	氏 名
福山大学	水田作研究領域	H23.8.29 ~ H23.9.2	林 雄太
麻布大学	畜産草地・鳥獣害研究領域	H23.9.4 ~ H23.9.16	坂倉 健太
広島大学	水田作研究領域	H23.9.5 ~ H23.9.9	満田 祥平
群馬県農業技術センター	水田作研究領域	H23.12.6 ~ H23.12.8	櫛川 聡
群馬県農業技術センター	水田作研究領域	H23.12.6 ~ H23.12.8	岡田 智行
高知県病害虫防除所	水田作研究領域	H24.3.7 ~ H24.3.9	甲把 理恵

9) 国内留学

区 分	受入者所属機関名	研究課題	受入先研究領域	期 間
長期留学	該当なし			
短期留学	該当なし			

10) 連携大学院

受入者所属機関	研究課題	受入先研究領域	期 間
該当なし			

2. 研究員の派遣

1) 流動研究員

氏 名	所 属	研究課題	派遣先	期 間
該当なし				～

2) 国内留学

区 分	所 属	氏 名	研究課題	派遣先	期 間
長期留学	該当なし				
短期留学	該当なし				

3) 海外派遣・出張

制度・事業等 区 分	所 属	氏 名	目 的	派遣先	期 間
交付金	畜産草地・鳥獣害 研究領域	堤 道生	IRC2011 国際牧野会 議	アルゼンチン	H23.4.3 ~ H23.4.8
交付金	傾斜地園芸研究領 域	畔柳 武司	国際研究集会 Greensys2011	ギリシャ	H23.6.4 ~ H23.6.11
交付金	畜産草地・鳥獣害 研究領域	柴田 昌宏	57 回国際食肉会議	ベルギー	H23.8.8 ~ H23.8.11
交付金	水田作研究領域	世古 智一	第 14 回昆虫植物相 互作用シンポジウム	オランダ	H23.8.11 ~ H23.8.20
相手方負担	水田作研究領域	岡部 昭典	中国黒竜江省農業科 学院大豆研究所にお ける研究指導	中 国	H23.9.6 ~ H23.9.10
文部科学省	水田作研究領域	安井 健	第 9 回国際食品成分 表会議	イギリス	H23.9.13 ~ H23.9.19
交付金	水田作研究領域	池田 達哉	国際 AACCC 年会	アメリカ	H23.10.15 ~ H23.10.21
交付金	傾斜地園芸研究領 域	川嶋 浩樹	ベトナム農業研究視 察	ベトナム	H23.11.1 ~ H23.11.5
交付金	傾斜地園芸研究領 域	川嶋 浩樹	2011 中国施設園芸現 地視察	中 国	H23.11.20 ~ H23.11.25
交付金	環境保全型野菜研 究領域	山崎 敬亮	第 7 回国際イチゴシ ンポジウム	中 国	H24.2.17 ~ H24.2.23

VI 研究交流

3. 技術協力・指導

1) 連携大学院への派遣

氏名	所属	派遣先	期間
該当なし			

2) 他機関主催研修会等への講師派遣

氏名	講師所属	研修会等名	依頼者	期間
江口祐輔	鳥獣害対策研究グループ	第1回イノシシ肉活用研究会講演	特定非営利活動法人 e ワーク愛媛	H23.4.3 ~ H23.4.5
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成23年度広島県農業普及指導員の技術課題研修	広島県知事	H23.4.26 ~ H23.4.27
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成23年度西城公民館学習講座「聞いて納得、見て納得、歩いて納得。私にもできる！有害鳥獣対策」	庄原市西城公民館	H23.4.27 ~ H23.4.28
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成23年度西城公民館学習講座「聞いて納得、見て納得、歩いて納得。私にもできる！有害鳥獣対策」	庄原市西城公民館	H23.6.4 ~ H23.6.5
山田 彩	鳥獣害対策研究グループ	有害鳥獣被害の講演	柿木村特産生産振興会	H23.5.10 ~ H23.5.10
川嶋浩樹	傾斜地野菜生産研究グループ	第13回施設園芸技術初級講座	(社)日本施設園芸協会	H23.5.18 ~ H23.5.19
上田弘則	鳥獣害対策研究グループ	平成23年度鳥獣害防止現地指導チーム育成研修会	石川県知事	H23.5.30 ~ H23.6.1
江口祐輔	鳥獣害対策研究グループ	平成23年度第1回・2回大分県鳥獣害対策アドバイザー研修会	大分県知事	H23.5.31 ~ H23.6.2
江口祐輔	鳥獣害対策研究グループ	農作物野生鳥獣対策アドバイザー	丹後地区農業共済組合	H23.6.14 ~ H23.6.15
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	広域での野生鳥獣被害対策に係る技術研修	静岡県農林産物野生鳥獣被害対策連絡会	H23.6.19 ~ H23.6.22
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成23年度静岡県鳥獣被害対策総合アドバイザー養成研修(第1部)	静岡県経済産業部農山村共生課	H23.6.22 ~ H23.6.25
柴田昇平	傾斜地野菜生産研究グループ	農業気象と環境に関する講演	香川県立農業大学校	H23.6.28 ~ H23.6.28
柴田昇平	傾斜地野菜生産研究グループ	農業気象と環境に関する講演	香川県立農業大学校	H23.7.5 ~ H23.7.5
柴田昇平	傾斜地野菜生産研究グループ	農業気象と環境に関する講演	香川県立農業大学校	H23.7.12 ~ H23.7.12
柴田昇平	傾斜地野菜生産研究グループ	農業気象と環境に関する講演	香川県立農業大学校	H23.7.19 ~ H23.7.19
上田弘則	鳥獣害対策研究グループ	農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー(第1回)	岡山県知事	H23.6.29 ~ H23.6.29
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	集落獣害アドバイザー養成講習会	兵庫県丹波県民局	H23.6.30 ~ H23.6.30
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	野猿被害対策講習会	広島市長	H23.7.1 ~ H23.7.1
江口祐輔	鳥獣害対策研究グループ	農作物野生鳥獣対策アドバイザー	福井県福井農林総合事務所	H23.7.4 ~ H23.7.7
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	石川県植物防疫協会技術研修会	公益社団法人石川県植物防疫協会	H23.7.6 ~ H23.7.8
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣害対策講演会	下呂市鳥獣害防止総合対策協議会	H23.7.13 ~ H23.7.15
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	獣害地域研修会及び獣対策現地指導	御浜町鳥獣害防止総合対策協議会	H23.7.15 ~ H23.7.18
江口祐輔	鳥獣害対策研究グループ	「イノシシを知って被害を防ぐ!!!」講演	えひめ中央農業協同組合	H23.7.20 ~ H23.7.21
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成23年度第3回・4回大分県鳥獣害対策アドバイザー研修会	大分県知事	H23.7.26 ~ H23.7.29
村上弘治	生産基盤研究グループ	近畿土壌肥料研究協議会第30回研究会	近畿土壌肥料研究協議会	H23.7.29 ~ H23.7.29

VI 研究交流

氏名	講師所属	研修会等名	依頼者	期間
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成23年度広島県農業普及指導員の技術課題研修(鳥獣被害防止対策)	広島県知事	H23.7.31 ~ H23.8.1
山内 稔	水田作研究領域	平成23年度新稲作研究会現地中間検討会(滋賀県下)	(財)農業技術協会	H23.8.8 ~ H23.8.9
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	イノシシ対策講演会	蒲郡市鳥獣害防止対策地域協議会	H23.8.12 ~ H23.8.13
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害の現状と対策に関する講演	大分県北部振興局	H23.8.18 ~ H23.8.18
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	豊後高田市市内における集落の鳥獣害対策のための現地指導及び鳥獣の生態等に関する講演	豊後高田市有害鳥獣被害防止対策協議会	H23.8.18 ~ H23.8.20
山田 彩	鳥獣害対策研究グループ	栗生産過程における鳥獣害(猿害)に関する調査及び指導に伴う講師	JA西いわみ栗生産協議会	H23.8.23 ~ H23.8.23
江口祐輔	鳥獣害対策研究グループ	農作物鳥獣害防止指導者育成研修「主要鳥獣(イノシシ・サル・鳥類等)の生態と被害対策」	埼玉県農林部農業支援課	H23.8.23 ~ H23.8.24
上田弘則	鳥獣害対策研究グループ	農作物鳥獣害防止指導者育成研修「主要鳥獣(イノシシ・サル・鳥類等)の生態と被害対策」	埼玉県農林部農業支援課	H23.8.23 ~ H23.8.25
高田兼則	小麦育種研究グループ	平成23年度山口大学公開講座「小麦栽培から始めるパンづくり」	山口大学エクステンションセンター	H23.8.24 ~ H23.8.24
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成23年度専門家による地域ぐるみ活動の重点指導事業(鳥獣被害防止対策)研修会	熊本県農林水産部経営局 むらづくり課	H23.8.24 ~ H23.8.26
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	有害鳥獣被害防止対策研修会	平子自治振興会	H23.8.28 ~ H23.8.28
植山秀紀	カンキツ生産研究グループ	兵庫県かんきつ研究大会	淡路果樹協会	H23.8.30 ~ H23.8.30
江口祐輔	鳥獣害対策研究グループ	鳥獣被害対策に伴う講師	玖珠町鳥獣被害対策協議会	H23.8.30 ~ H23.8.31
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	興津地域鳥獣被害対策事業有害鳥獣対策研修会	清水農協興津地域運営委員会	H23.8.30 ~ H23.9.1
川上秀和	営農・環境研究領域長	社会科学的考察に関する研修会	兵庫県立農林水産技術総合センター	H23.9.1 ~ H23.9.1
室岡順一	農業経営研究グループ	社会科学的考察に関する研修会	兵庫県立農林水産技術総合センター	H23.9.1 ~ H23.9.1
川嶋浩樹	傾斜地野菜生産研究グループ	第6回施設園芸技術中級講座「被覆資材」	(社)日本施設園芸協会	H23.9.7 ~ H23.9.8
亀井雅治	機械作業・情報研究グループ	公開シンポジウム“緑地雑草の機械的制御の現状と課題”	特定非営利活動法人草緑化技術研究所	H23.9.9 ~ H23.9.9
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	獣害対策シンポジウム	香川県知事	H23.9.12 ~ H23.9.13
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成23年度静岡県鳥獣被害対策総合アドバイザー養成研修	静岡県農業協同組合中央会	H23.9.14 ~ H23.9.16
井上久義	カンキツ生産研究グループ	グリーンアスパラガス生産技術検討会	山下淳二	H23.9.15 ~ H23.9.15
江口祐輔	鳥獣害対策研究グループ	イノシシの最新の被害防止対策に関する講演	福岡県農林事務所	H23.9.15 ~ H23.9.16
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	広域での野生鳥獣被害対策に係る技術研修	静岡県農林産物野生鳥獣被害対策連絡会	H23.9.19 ~ H23.9.23
江口祐輔	鳥獣害対策研究グループ	「畜産の視点から見た野生鳥獣の被害対策と捕獲鳥獣肉の有効活用」シンポジウム	社団法人畜産技術協会	H23.9.21 ~ H23.9.23
江口祐輔	鳥獣害対策研究グループ	平成23年度農作物鳥獣被害対策地域指導者養成講座	鹿児島県農政部農村振興課	H23.9.27 ~ H23.9.28
江口祐輔	鳥獣害対策研究グループ	農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー(第2回)	岡山県農林水産部	H23.9.29 ~ H23.9.29
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成23年度第3回外部有識者による業務研修	中国四国農政局	H23.9.29 ~ H23.9.29

VI 研究交流

氏名	講師所属	研修会等名	依頼者	期間
高橋佳孝	黒毛和種放牧飼料研究グループ	平成23年度中央畜産技術研修会(肉用牛)	農林水産省生産局	H23.10.5 ~ H23.10.6
江口祐輔	鳥獣害対策研究グループ	鳥獣被害対策に関する調査及び指導	玖珠町鳥獣被害対策協議会	H23.10.6 ~ H23.10.7
山田 彩	鳥獣害対策研究グループ	農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー	岡山県農林水産部農村振興課	H23.10.18 ~ H23.10.18
岡部昭典	輪作体系研究グループ	「高品質大豆を生産するための植物工場に関する研究」セミナー	四国化工機株式会社	H23.10.24 ~ H23.10.24
高田吉丈	大豆育種研究グループ	「高品質大豆を生産するための植物工場に関する研究」セミナー	四国化工機株式会社	H23.10.24 ~ H23.10.24
三浦一芸	病虫害研究グループ	平成23年度第7回植物防疫官技術研修会(ゼミナール)	農林水産省横浜植物防疫所	H23.10.27 ~ H23.10.28
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	農作物鳥獣害対策セミナー	豊川市鳥獣被害防止対策協議会	H23.11.4 ~ H23.11.5
山田 彩	鳥獣害対策研究グループ	鳥獣被害防止対策セミナー	岡山県備中県民局長	H23.11.10 ~ H23.11.10
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	佐用町鳥獣被害防止対策セミナー	佐用町鳥獣被害防止対策協議会	H23.11.10 ~ H23.11.11
三橋忠由	畜産草地・鳥獣害研究領域	畜産経営セミナー及び現地検討会	上十三地区家畜衛生推進協議会	H23.11.14 ~ H23.11.17
上田弘則	鳥獣害対策研究グループ	農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー	岡山県知事	H23.11.15 ~ H23.11.15
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣害対策講演会	高森・竹田・高千穂地域鳥獣被害防止広域対策協議会	H23.11.16 ~ H23.11.18
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	農作物野生鳥獣被害防止総合対策交付金被害対策アドバイザー	熊本県農林水産部経営局	H23.11.18 ~ H23.11.19
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	農作物野生鳥獣被害防止総合対策交付金被害対策アドバイザー	芦北町有害鳥獣被害防止対策協議会	H23.11.19 ~ H23.11.21
江口祐輔	鳥獣害対策研究グループ	「動物応用化学概論Ⅱ」特別講師	麻布大学獣医学部	H23.11.20 ~ H23.11.22
山内 稔	水田作研究領域	アグリプロ21(大型農家展示会)	ヤンマーヘリ&アグリ株式会社	H23.11.22 ~ H23.11.24
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	山添村農業推進協議会農業研修会	山添村農業推進協議会	H23.11.25 ~ H23.11.26
江口祐輔	鳥獣害対策研究グループ	鳥獣害(猪害)の対策についての講演	野田尾環境をまもる会	H23.11.26 ~ H23.11.27
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー	徳島県東部農林水産局	H23.11.27 ~ H23.11.29
畔柳武司	傾斜地野菜生産研究グループ	平成23年度地域産学連携支援委託事業コーディネーター派遣および地域産学連携支援委託事業事業化可能性調査セミナー「自然エネルギーと先進的技術を導入した新施設園芸システム」	社団法人農林水産先端技術産業振興センター	H23.11.29 ~ H23.11.29
江口祐輔	鳥獣害対策研究グループ	農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー	土佐清水市有害鳥獣被害対策協議会	H23.11.30 ~ H23.12.2
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	野猿被害対策講習会	広島県西部農業共済組合	H23.12.8 ~ H23.12.9
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	野生鳥獣被害対策講習会開催	伊豆の国農業協同組合土肥センター	H23.12.10 ~ H23.12.11
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	獣害地域研修会の開催及び獣害対策現地指導	御浜町鳥獣被害防止総合対策協議会	H23.12.11 ~ H23.12.14
齋藤仁蔵	園芸経営研究グループ	農業生産法人の広域連携による新たな集出荷の取り組みについて	社団法人ふくい農林水産支援センター	H23.12.13 ~ H23.12.13
長田健二	栽培管理研究グループ	岡山地方大型米麦研究会研修会	岡山地方大型米麦研究会	H23.12.14 ~ H23.12.14
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	野生鳥獣による農林作物被害対策研修会	宇佐市鳥獣被害対策協議会	H23.12.15 ~ H23.12.16
江口祐輔	鳥獣害対策研究グループ	農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー	岡山県知事	H23.12.20 ~ H23.12.20

VI 研究交流

氏名	講師所属	研修会等名	依頼者	期間
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	豊後高田市内の集落における鳥獣害対策のための現地指導及び鳥獣の生態等に関する講演	豊後高田市有害鳥獣被害防止対策協議会	H23.12.20 ~ H23.12.23
江口祐輔	鳥獣害対策研究グループ	「動物行動学」講義	麻布大学獣医学部	H24.1.10 ~ H24.1.11
江口祐輔	鳥獣害対策研究グループ	「動物行動学」講義	麻布大学獣医学部	H24.1.24 ~ H24.1.25
高橋英博	機械作業・情報研究グループ	「中国地域における農業の現状及び農研機構の取組について」	株式会社 MEDIAS	H24.1.17 ~ H24.1.17
山田 彩	鳥獣害対策研究グループ	サルによる被害対策研修会の講師について（回答）	廿日市市	H24.1.17 ~ H24.1.18
添野和雄	傾斜地野菜生産研究グループ	第16回農薬相模セミナー	公益財団法人相模中央化学研究所	H24.1.18 ~ H24.1.20
高橋英博	機械作業・情報研究グループ	「アグリミーティング2012in島根」	全国農業協同組合連合会島根県本部	H24.1.20 ~ H24.1.21
江口祐輔	鳥獣害対策研究グループ	南薩地区農林技術研修会	南薩地区農林技術協会	H24.1.23 ~ H24.1.24
山内 稔	水田作研究領域	鉄コーティング湛水直播栽培技術研究会	全国農業協同組合連合会	H24.1.23 ~ H24.1.24
上田弘則	鳥獣害対策研究グループ	高山市鳥獣被害防止研修会	高山市鳥獣被害防止対策協議会	H24.1.24 ~ H24.1.25
亀井雅治	機械作業・情報研究グループ	平成23年度「稲・麦・大豆を中心とした土地利用型作物の生産性向上セミナー」	社団法人全国農業改良普及支援協会	H24.1.25 ~ H24.1.25
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	大田市議会鳥獣被害対策研修会開催	島根県大田市農林水産課	H24.1.26 ~ H24.1.26
山内 稔	水田作研究領域	「水稻鉄コーティング直播栽培研修会」	株式会社クボタ機械営業本部	H24.1.27 ~ H24.1.28
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	農作物野生鳥獣害対策アドバイザー	真庭市鳥獣被害防止対策協議会	H24.1.29 ~ H24.2.1
江口祐輔	鳥獣害対策研究グループ	「動物行動学」講義	麻布大学 獣医学部	H24.1.30 ~ H24.1.31
江口祐輔	鳥獣害対策研究グループ	「イノシシの生態と防除」	阿南市農作物鳥獣害防止対策協議会	H24.2.1 ~ H24.2.1
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	伊予地区農業・生活研究フォーラム2012	伊予地区農業・生活研究フォーラム2012	H24.2.1 ~ H24.2.2
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣対策勉強会	榛原町有害鳥獣被害対策協議会	H24.2.3 ~ H24.2.4
山田 彩	鳥獣害対策研究グループ	鳥獣対策勉強会	榛原町有害鳥獣被害対策協議会	H24.2.2 ~ H24.2.4
村上弘治	生産基盤研究グループ	平成23年度第1回土壌・作物栄養診断研究会	全国農業協同組合連合会	H24.2.3 ~ H24.2.4
江口祐輔	鳥獣害対策研究グループ	平成23年度鳥獣害対策研修会の開催について（回答）	和海地方病害虫防除対策推進協議会	H24.2.7 ~ H24.2.7
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー	熊本県農林水産部経営局 むらづくり課	H24.2.8 ~ H24.2.11
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	静岡県鳥獣被害対策総合アドバイザーフォローアップ研修会	静岡県農業協同組合中央会	H24.2.15 ~ H24.2.18
大崎秀樹	病虫害研究グループ	RIPA 法技術講習会	神戸植物防疫所	H24.2.16 ~ H24.2.17
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	静岡県鳥獣被害対策総合アドバイザーフォローアップ研修会	静岡県農業協同組合中央会	H24.2.22 ~ H24.2.25
根角博久	カンキツ生産研究グループ	平成23年度三重県カンキツ生産者研修会	三重県園芸振興協会	H24.2.21 ~ H24.2.22
三橋忠由	畜産草地・鳥獣害研究領域	岩見家畜診療対策協議会研修会	岩見地区家畜診療対策協議会	H24.2.24 ~ H24.2.24
江口祐輔	鳥獣害対策研究グループ	「みんなで取り組む有害鳥獣対策」	岡山県赤磐市	H24.2.26 ~ H24.2.26
望月秀俊	農地・水環境研究グループ	農地復興ワークショップに伴う職員の派遣について	岩手大学	H24.2.28 ~ H24.3.2
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	伊豆の国市鳥獣被害対策技術研修会	伊豆の国市長	H24.3.1 ~ H24.3.2

VI 研究交流

氏名	講師所属	研修会等名	依頼者	期間
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	野生鳥獣被害対策研修会	静岡県伊豆市	H24.3.2 ~ H24.3.3
山内 稔	水田作研究領域	水稲鉄コーティング直播栽培研修会	小泉商事株式会社	H24.3.4 ~ H24.3.6
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	有害鳥獣研修会	佐賀県佐城農業改良普及センター	H24.3.6 ~ H24.3.8
上田弘則	鳥獣害対策研究グループ	鳥獣被害対策講演会	角田市鳥獣被害防止対策協議会	H24.3.6 ~ H24.3.8
根角博久	カンキツ生産研究グループ	ハウスみかん現地研修会	全国果樹研究連合会カンキツ部会	H24.3.7 ~ H24.3.8
川嶋浩樹	傾斜地野菜生産研究グループ	NPO 植物工場研究会 2012 年春の学校	特定非営利活動法人植物工場研究会	H24.3.8 ~ H24.3.8
井上雅央	畜産草地・鳥獣害研究領域	静岡県鳥獣被害防止対策研究集会	静岡県農業協同組合中央会	H24.3.15 ~ H24.3.17
山田 彩	鳥獣害対策研究グループ	ニホンザル被害集落での現地診断	岡山県備中県民局長	H24.3.15 ~ H24.3.15
江口祐輔	鳥獣害対策研究グループ	捕獲技術講習会	白山野々市鳥獣害防止対策協議会	H24.3.19 ~ H24.3.20
上田弘則	鳥獣害対策研究グループ	農作物野生鳥獣被害対策	阿佐地域鳥獣害防止広域対策協議会	H24.3.22 ~ H24.3.24

3) 当センター主催の技術指導

研修会等名	期間	開催場所	参加者数
【革新的農業技術習得支援研修】 野菜の高温障害対策技術	H22.8.19 ~ H22.8.20	近畿中国四国農業研究センター 四国研究センター生野地区	23 名

4) 依頼分析、試験および同定

区分	担当研究領域	件数
	該当なし	

4. 共同研究

共同研究相手先	担当研究領域	件数
長崎県（長崎県総合農林試験場） 独立行政法人理化学研究所	作物機能開発研究領域	1
中央農業総合研究センター 作物研究所 独立行政法人農業生物資源研究所 茨城県農業総合センター 愛知県農業総合試験場 宮崎県総合農業試験場	水田作研究領域	1
山口県農林総合技術センター	傾斜地園芸研究領域	1
日本製粉株式会社	作物機能開発研究領域	1
独立行政法人酒類総合研究所 黄桜株式会社	水田作研究領域	1
久留米大学	作物機能開発研究領域	1
独立行政法人産業技術総合研究所	産学官連携支援室	1
住友大阪セメント株式会社	傾斜地園芸研究領域	1
国立大学法人三重大学	傾斜地園芸研究領域	1
国立大学法人高知大学	傾斜地園芸研究領域 産学官連携支援室	1
パナソニック電工株式会社	環境保全型野菜研究領域	1
NECシステムテクノロジー株式会社 三重県農業研究所	傾斜地園芸研究領域	1

VI 研究交流

共同研究相手先	担当研究領域	件数
気象庁 中央農業総合研究センター 北海道農業研究センター 東北農業研究センター 九州沖縄農業研究センター	水田作研究領域	1
独立行政法人理化学研究所	傾斜地園芸研究領域	1
中国紙工業株式会社	傾斜地園芸研究領域	1
広島県立総合技術研究所 全国農業協同組合連合会広島県本部 広島県穀物改良協会 広島県酒造協同組合	水田作研究領域	1

5. 協定研究

協定研究相手先	担当研究領域	件数
中国新疆農業科学院 作物品種資源研究所	水田作研究領域	1
日東富士製粉株式会社	水田作研究領域	1
島根県中山間地域研究センター 島根県畜産技術センター	畜産草地・鳥獣害研究領域	1
日本製粉株式会社中央研究所	水田作研究領域	1
農事組合法人シバザクラの里乃美	水田作研究領域	1
中嶋米穀株式会社	水田作研究領域	1
くらしき作陽大学 玉島味噌醤油合資会社	作物機能開発研究領域	1
作物研究所 独立行政法人農業生物資源研究所	水田作研究領域	1
島根県畜産技術センター	畜産草地・鳥獣害研究領域	1
香川県西讃農業改良普及センター	作物機能開発研究領域	1
徳島県立農林水産総合技術支援センター	作物機能開発研究領域	1
兵庫県立農林水産技術総合センター	作物機能開発研究領域	1
滋賀県農業技術振興センター	水田作研究領域	1
奈良県農業総合センター	水田作研究領域	1
山口県農林総合技術センター	水田作研究領域	1
兵庫県立農林水産技術総合センター	水田作研究領域	1
独立行政法人家畜改良センター鳥取牧場	畜産草地・鳥獣害研究領域	1
岡山県農林水産総合センター農業研究所	水田作研究領域	1
広島県立総合技術研究所	水田作研究領域	1
お茶の水女子大学	作物機能開発研究領域	1

6. 開放型研究施設（オープンラボ）の利用状況

施設名	利用者数（人）
農産物等成分解析開放型研究施設	734
傾斜地農業開放型研究施設	211
第2共同実験棟	1,148

Ⅶ 組織・人事・会計

1. 組織

所 長		
— 四国農業研究監		四国地域の農業に関する試験及び研究並びに調査に関する業務
— 企画管理部	— 審 議 役	重要な総務に関する業務を総括整理
	— 研究調整役	特定の試験及び研究並びに調査の企画、立案及び調整に関する業務
	— 業務推進室	
	— 調査役	予算の要求、配分及び執行に係る計画の立案等に係る調査の業務
	— 企画チーム	(企画調整、交流調整)
	— 運営チーム	(連絡調整、運営調整、予算管理)
	— 管 理 課	
	— 庶務チーム	(労務・職員管理、庶務、厚生)
	— 会計チーム	(会計、審査、調達、資産管理)
	— 綾部管理チーム	(庶務、会計)
	— 大田管理チーム	(庶務、会計)
	— 情報広報課	試験及び研究並びに調査に係る情報の収集、整理、提供及び成果の広報並びに情報システムの管理
	— 四国企画管理室	
	— 調査役	四国研究センターにおける総務に関する特定の業務を総括し、及び総務に関する事項についての関係部署との連絡調整の業務
	— 連絡調整チーム	(企画調整、情報管理、広報)
	— 管理チーム	(庶務、厚生、会計、調達、資産管理)
— 営農・環境研究領域		営農・環境研究領域は、近畿中国四国地域における水田営農に関する技術の開発及び経営評価並びに環境保全技術の開発に係る試験及び研究並びに調査に関する業務
— 水田作研究領域		水田作研究領域は、近畿中国四国地域における水稻・小麦の品種育成及び作物栽培管理に関する技術に係る試験及び研究並びに調査に関する業務
— 作物機能開発研究領域		作物機能開発研究領域は、近畿中国四国地域における大麦・大豆品種の育成並びに農産物の健康機能性の解明及び有効利用技術の開発に係る試験及び研究並びに調査に関する業務
— 傾斜地園芸研究領域		傾斜地園芸研究領域は、近畿中国四国地域における傾斜地資源を活用したカンキツ等の果樹生産技術の開発及び施設等を利用した野菜生産技術の開発に係る試験及び研究並びに調査に関する業務
— 環境保全型野菜研究領域		環境保全型野菜研究領域は、近畿中国四国地域における環境保全型野菜生産技術の開発に係る試験及び研究並びに調査に関する業務
— 畜産草地・鳥獣害研究領域		畜産草地・鳥獣害研究領域は、近畿中国四国地域における地域飼料資源による黒毛和種の生産技術の開発及び鳥獣害対策技術の開発に係る試験及び研究並びに調査に関する業務
— 研究支援センター		試験及び研究並びに調査に供するほ場及び動植物の管理に関する業務
	— 業務第1科 (福山)	
	— ” (綾部研究拠点駐在)	
	— 業務第2科 (善通寺)	
	— 業務第3科 (大田)	

Ⅶ 組織・人事・会計

2. 人 事

1) 現在員数

(平成 24 年 3 月 31 日現在)

所 属	指定職員	一般職員	技術専門 職員	研究職員	任期付 研究員	計
所長	1					1
所付				1		1
四国農業研究監				1		1
企画管理部		46	2	6		54
営農・環境研究領域				18		18
水田作研究領域				31	1	32
作物機能開発研究領域				9		9
傾斜地園芸研究領域				26		26
環境保全型野菜研究領域				9	1	10
畜産草地・鳥獣害研究領域				11	1	12
研究支援センター		1	68	3		72
計	1	47	70	115	3	236

※ 現在員：3 月 31 日付け定年退職、辞職を含む。

：派遣職員及び育児休業を含む。

：育児休業に伴う任期付職員を除く。

2) 農研機構特別研究員

(平成 24 年 3 月 31 日現在)

研 究 課 題	福 山	善通寺	綾 部	大 田	計
生物系産業創出のための異分野融合研究支援事業 「オオムギ染色体導入コムギのプロテオーム解析と 材料調整」	1				1

3) 委員等の就任状況

委 員 等	依 頼 元	所 属	氏 名	任 期
かがわ農商工連携ファンド事業 審査委員会委員	(財) かがわ産業支援 財団理事長		関谷敬三	H21.9.7～H23.8.27
阿蘇文化的景観調査検討委員会 委員	阿蘇市教育長	畜産草地・鳥獣害研 究領域	高橋佳孝	H21.12.10～H24.3.31
新稲作研究会委員	(財) 農業技術協会	傾斜地園芸研究領 域	澤村 篤	H22.4.19～H24.3.31
山口県鳥獣被害防止対策協議会 委員	山口県農林水産部長	畜産草地・鳥獣害研 究領域	上田弘則	H22.6.1～H25.5.31
岡山県農林水産総合センター畜 産研究所外部評価委員会委員	岡山県農林水産総合 センター畜産研究所 所長	畜産草地・鳥獣害研 究領域	篠田 満	H22.6.30～H24.3.31
岡山県農林水産総合センター農 業研究所外部評価委員会委員	岡山県農林水産総合 センター農業研究所 所長	所長	長峰 司	H22.7.2～H24.3.31
新稲作研究会委員	(財) 農業技術協会	四国農業研究監	児嶋 清	H22.7.26～H24.3.31
香川県農業技術総合推進検討会 委員	香川県知事	四国農業研究監	児嶋 清	H22.8.2～H24.7.31
笠岡市バイオマス利活用推進協 議会委員	笠岡市長	傾斜地園芸研究領 域	井上久義	H22.10.3～H24.10.2
中央環境審議会臨時委員	環境省大臣官房長	畜産草地・鳥獣害研 究領域	高橋佳孝	H23.1.6～H25.1.5
科学技術・学術審議会専門委員	文部科学省科学技術・ 学術政策局長	水田作研究領域	安井 健	H23.2.1～H25.1.31
東京都鳥獣害対策委員会評価部 会委員	東京都産業労働局農 林水産部長	畜産草地・鳥獣害研 究領域	江口祐輔	H23.2.16～H25.2.15
香川大学公正研究委員会委員	香川大学長	四国農業研究監	児嶋 清	H23.4.1～H25.3.31
徳島県イノシシ専門委員会委員	徳島県知事	畜産草地・鳥獣害研 究領域	上田弘則	H23.4.18～H24.3.31
「四国地域イノベーション創出 協議会」幹事会委員	(財) 四国産業・技術 振興センター理事長	四国農業研究監	児嶋 清	H23.4.20～H24.3.31
香川県ふるさと・水と土保全対 策推進委員会委員	香川県知事	傾斜地園芸研究領 域	細川雅敏	H23.4.27～H25.6.26
緑地管理関係除草剤薬効薬害試 験委員会専門調査員	(財) 日本植物調節剤 研究協会	畜産草地・鳥獣害研 究領域	大谷一郎	H23.5.1～H24.3.31

Ⅶ 組織・人事・会計

委員等	依頼元	所属	氏名	任期
水稲関係除草剤薬効薬害試験委員会専門調査員	(財)日本植物調節剤研究協会	四国農業研究監	児嶋 清	H23.5.1～H24.3.31
中国四国農政局国営事業地区営農基盤整備等推進委員会委員	中国四国農政局長	企画管理部	今川俊明	H23.5.13～H25.3.31
中国四国農政局国営事業地区営農基盤整備等推進委員会幹事	中国四国農政局長	企画管理部	今川俊明	H23.5.13～H25.3.31
中国四国農政局国営事業地区営農基盤整備等推進委員会作業部会部会委員	中国四国農政局長	企画管理部	船附秀行	H23.5.13～H25.3.31
中国四国農政局国営土地改良事業地区営農推進功労者表彰審査会審査員	中国四国農政局長	営農・環境研究領域	川上秀和	H23.5.13～H25.3.31
平成23年度地域産学連携支援委託事業におけるコーディネーター	(社)農林水産先端技術産業振興センター理事長	水田作研究領域	矢野 博	H23.5.19～H24.3.22
平成23年度地域産学連携支援委託事業におけるコーディネーター	(社)農林水産先端技術産業振興センター理事長	傾斜地園芸研究領域	長崎裕司	H23.5.19～H24.3.22
施設園芸省エネルギー新技術等開発支援事業支援検討委員	スーパーホルトプロジェクト協議会会長	傾斜地園芸研究領域	川嶋浩樹	H23.5.24～H24.3.31
平成23年度メイドイン大田創出支援事業審査委員会委員	大田市市長	畜産草地・鳥獣害研究領域	篠田 満	H23.6.1～H24.3.31
大阪府環境農林水産総合研究所研究アドバイザー委員会委員	大阪府知事	企画管理部	今川俊明	H23.6.17～H24.3.31
岡山県野生鳥獣保護管理対策協議会委員	岡山県環境文化部長	畜産草地・鳥獣害研究領域	江口祐輔	H23.6.23～H29.3.31
環境省環境研究総合推進費「野草類の土壌環境に対する生育適性の評価と再生技術の開発(D-1001)」のアドバイザー	(独)農業環境技術研究所理事長	畜産草地・鳥獣害研究領域	高橋佳孝	H23.6.29～H25.3.31
有機農業標準栽培技術指導書作成委員会委員	(財)日本土壌協会会長理事	水田作研究領域	岡部昭典	H23.7.12～H24.3.31
広島県研究開発評価委員会ワーキングスタッフ	広島県知事	企画管理部	佐々木良治	H23.7.14～H24.3.31
広島県研究開発評価委員会ワーキングスタッフ	広島県知事	水田作研究領域	三浦一芸	H23.7.14～H24.3.31
阿蘇草原再生協議会委員	(株)メッツ研究所(環境省九州事務局)	畜産草地・鳥獣害研究領域	高橋佳孝	H23.7.21～H24.3.22
滋賀県農林水産関係試験研究外部評価委員会委員	滋賀県農政水産部長	環境保全型野菜研究領域	佐藤隆徳	H23.8.10～H26.8.31
かがわ農商工連携ファンド事業審査委員会委員	(財)かがわ産業支援財団理事長		関谷敬三	H23.8.28～H25.3.31
外部評価会議委員	山口県農林総合技術センター所長	営農・環境研究領域	川上秀和	H23.8.30～H25.3.31
阿蘇環境デザイン策定委員会委員	阿蘇市教育長	畜産草地・鳥獣害研究領域	高橋佳孝	H23.10.11～H26.3.31
平成23年度地域産業連携支援委託事業事業化可能性調査「施設園芸における複合エコ暖房技術開発のための調査」検討委員会委員	(社)農林水産先端技術産業振興センター理事長	傾斜地園芸研究領域	畔柳武司	H23.10.14～H24.3.22
兵庫県立農林水産技術総合センター外部評価専門委員会委員	兵庫県知事	水田作研究領域	楠田 幸	H23.11.22～H24.3.31
平成23年度飼料自給率向上品種開発・品種識別研究開発事業に係る技術開発研究推進検討委員会委員	(社)日本草地畜産種子協会会長	研究支援センター業務第3科	上山泰史	H24.2.20～H24.3.31

※国の委員等への就任手続きによる(兼業、単発の受託は除く)。

4) 叙勲

氏名	所属	名称	受賞年月日
菅 正二	元 企画調整部業務第1科総括作業長	瑞宝単光章	平成23年11月3日

5) 受賞

氏名	所属	名称	受賞年月日	受賞課題
井上雅央 江口祐輔 上田弘則	畜産草地・鳥獣害研究領域	文部科学大臣表彰科学技術賞(理解増進部門)	平成23年4月20日	先入観排除による鳥獣害対策の理解増進

Ⅶ 組織・人事・会計

氏名	所属	名称	受賞年月日	受賞課題
加賀宇昌宏 松崎健文 塩本 知	研究支援センター業務 第2科	文部科学大臣表彰 創意工夫功労者賞	平成23年4月20日	花き栽培で用いるフラワーネットの 回収装置の考案
藤井敏秀	研究支援センター業務 第1科	表彰（広島県危険 物安全協会連合会）	平成23年6月17日	表彰内容：多年にわたり危険物取扱 者として危険物取扱作業にあたり災 害の防止に尽力した
山内 稔	水田作研究領域	NARO Research Prize Special I	平成23年12月5日	鉄コーティング種子を用いた水稻の 湛水直播技術
高田兼則 池田達哉	水田作研究領域	NARO Research Prize Special I	平成23年12月5日	自給率向上に貢献する超強力コムギ 「ゆめちから」の育成・用途開発
松下 景 飯田修一 出田 収	水田作研究領域	フード・アクション ・ニッポンアワ ード2011研究開 発・新技術部門 優秀賞	平成23年12月14日	稲発酵粗飼料専用の水稻新品種「た ちすずか」の育成
世古智一	水田作研究領域	日本応用動物昆虫 学会奨励賞	平成24年3月27日	遺伝的に飛翔能力を欠くナミテント ウを活用したアブラムシ類防除技術 の開発

6) 学位授与

氏名	所属	名称	取得年月日	論文名
芦田かなえ	水田作研究領域	博士（農学）（名古屋 大学）	平成23年7月29日	タンパク質組成変異米及び胚乳白濁 変異米の成分・プロテインボディ構 造・加工特性に関する研究
阿部大吾	作物機能開発研究 領域	博士（農学）（岡山大 学）	平成23年9月30日	キウイフルーツ果実における抗糖尿 病作用と抗酸化能に関する研究
木下貴文	傾斜地園芸研究領 域	博士（農学）（岡山大 学）	平成24年3月23日	防根給水ひも栽培に肥効調整型肥料 を適用したトマトの省力・環境負荷 低減型簡易生産システムの開発

3. 会 計

1) 決 算（所在地別内訳）

単位：千円

区 分	福 山	善 通 寺	綾 部	大 田	計
収 入					
1. 運営費交付金収入（前年度繰越金）	0	0	0	0	0
2. 事業収入	388	1,186	17	10,703	12,294
（1）生産物等売払収入	0	1,184	17	10,703	11,904
（2）その他事業収入	388	2	0	0	390
3. 受託収入	95,754	0	0	0	95,754
（1）受託研究収入	85,850	0	0	0	85,850
ア. 政府受託研究収入	60,704	0	0	0	60,704
イ. 地方公共団体受託研究収入	470	0	0	0	470
ウ. 独立行政法人受託研究収入	24,676	0	0	0	24,676
エ. 国立大学法人受託研究収入	0	0	0	0	0
オ. その他受託研究収入	0	0	0	0	0
（2）受託調査等収入	0	0	0	0	0
（3）受託出張収入	9,904	0	0	0	9,904
ア. 地方公共団体受託出張収入	1,660	0	0	0	1,660
イ. 独立行政法人受託出張収入	0	0	0	0	0
ウ. 国立大学法人受託出張収入	440	0	0	0	440
エ. その他受託出張収入	7,804	0	0	0	7,804
4. 補助金等収入	1,295	0	0	0	1,295
5. 事業外収入	2,539	117	8	54	2,718
6. 臨時収入	0	0	0	0	0
7. 通過資金預り金	4,088	0	0	0	4,088
8. 繰越積立金	2,135	0	0	0	2,135
計	106,199	1,303	25	10,757	118,284

Ⅶ 組織・人事・会計

区 分	福 山	善通寺	綾 部	大 田	計
支 出					
1. 運営費交付金	353,260	200,313	40,257	91,994	685,824
(1) 一般管理費	49,193	36,979	8,110	19,617	113,899
ア. 研究管理費	17,660	5,489	512	555	24,216
イ. 管理諸費	31,533	31,490	7,598	19,062	89,683
(2) 業務経費	304,067	163,334	32,147	72,377	571,925
2. 事業収入経費	5,097	3,957	852	2,388	12,294
3. 受託収入経費	117,278	73,630	17,415	14,666	222,989
(1) 受託研究収入経費	106,969	73,203	17,371	13,542	211,085
ア. 政府受託研究収入	89,024	52,142	17,371	13,542	172,079
イ. 地方公共団体受託研究経費	0	470	0	0	470
ウ. 独立行政法人受託研究経費	17,945	20,591	0	0	38,536
エ. 国立大学法人受託研究経費	0	0	0	0	0
オ. その他受託研究経費	0	0	0	0	0
(2) 受託調査等経費	2,000	0	0	0	2,000
(3) 受託出張経費	8,309	427	44	1,124	9,904
ア. 地方公共団体受託出張経費	1,568	0	0	92	1,660
イ. 独立行政法人受託出張経費	0	0	0	0	0
ウ. 国立大学法人受託出張経費	439	1	0	0	440
エ. その他受託出張経費	6,302	426	44	1,032	7,804
4. 補助金等経費	0	0	1,295	0	1,295
5. 事業外収入経費	1,209	983	74	452	2,718
6. 臨時収入経費	0	0	0	0	0
7. 通過資金預り金	68,989	1,942	0	1,000	71,931
計	545,833	280,825	59,893	110,500	997,051

2) 固定資産 (所在地別内訳)

平成 24 年 3 月 31 日現在

区 分	福 山	善通寺	綾 部	大 田	計
有形固定資産					
土 地 (㎡)	227,093.05	963,610.29	62,907.89	2,019,455.99	3,273,067.22
建物建面積 (㎡)	11,377.62	13,146.29	4,535.03	9,783.79	38,842.73
建物延面積 (㎡)	16,231.40	16,424.43	5,138.98	11,259.52	49,054.33
構 築 物 (式)	1	1	1	1	4
樹 木 (本)	458	805	41	255	1,559
立 木 (m ³)	0.00	4,055.38	0.00	6,719.96	10,775.34
機械装置 (点)	79	63	13	20	175
車輛運搬具 (点)	12	12	7	8	39
工具器具備品 (点)	282	249	76	82	689
無形固定資産					
ソフトウェア (点)	22	16	1	0	39

VIII 主な会議等

1. 近畿中国四国農業試験研究推進会議

会議名	開催日	開催場所	参集者
近畿中国四国農業試験研究推進会議 評価企画会議	H23.8.9	広島県民文化センターふくやま	合計 44 名 (内訳) 農林水産技術会議事務局 1 名、農政局 3 名、府県関係者 25 名、果樹研 1 名、野茶研 1 名、 近中四農研 13 名
近畿中国四国農業試験研究推進会議 試験研究推進部会	H24.1.26 ~ H24.2.3	近畿中国四国農業研究センター (福山)、野菜茶業研究所(金谷)、 福山市生涯学習プラザ	合計 505 名 (延人数) 生産局 1 名、農政局 9 名、 大学等 11 名、府県関係者 348 名、 機構内 41 名、近中四農研 91 名、 その他 4 名
近畿中国四国農業試験研究推進会議 本会議	H24.2.10	福山市生涯学習プラザ	合計 58 名 (内訳) 農林水産技術会議事務局 1 名、農政局 7 名、府県関係者 34 名、機構本部 1 名、野茶研 1 名、 農工研 1 名、近中四農研 13 名

2. 近畿中国四国地域問題別研究会

会議名	開催日	開催場所	参加者数
耕地雑草の総合管理—外来種の侵入と在来種の利用—	H23.7.5	愛媛県松山市	78 名
高知県の果樹栽培における 6 次産業を目指して	H23.7.21 ~ H23.7.22 (台 風のため中止)	高知県高知市	—
農業・農村の 6 次産業化による地域農業の振興	H23.8.3 ~ H23.8.4	広島県福山市	37 名
生物工学分野におけるシーズ・ニーズのマッチングフ ォーラム—機能性成分に着目した地域農産物の復興と 新品種開発—	H23.8.8 ~ H23.8.9	広島県福山市	23 名
土壌肥料学的側面から見た水稻の直播栽培の現状と課 題	H23.9.8 ~ H23.9.9	島根県出雲市	51 名
温暖地域水稻育成系統立毛検討会	H23.9.8 ~ H23.9.9	栃木県宇都宮市、 茨城県つくば市	57 名
冬作技術研究会	H23.9.15 ~ H23.9.16	広島県福山市	31 名
地球温暖化防止のための茶園土壌環境改善技術	H23.9.27 ~ H23.9.28	滋賀県甲賀市、 滋賀県大津市	43 名
農作業の省力・軽作業化技術	H23.10.3 ~ H23.10.4	広島県広島市	45 名
施設栽培での環境制御による高収益生産技術	H23.10.12 ~ H23.10.13	高知県南国市、 高知県高知市	50 名
家畜生産と環境影響評価	H23.11.7	広島県福山市	25 名
EOD 反応を活用した花きの生育制御技術	H23.11.24 ~ H23.11.25	岡山県倉敷市	48 名
食品流通問題別研究会	H23.12.1 ~ H23.12.2	香川県小豆郡	25 名
高度管理手法による作物病害虫制御技術	H24.3.5 ~ H24.3.7	広島県福山市	112 名
育種栽培検討会(水稻品種・系統検討会、大豆品種・ 系統検討会、栽培研究会)	H24.3.6 ~ H24.3.7	広島県福山市	62 名
近畿中国四国地域における土壌肥料分野の新たな知見 と今後の研究推進方向	H24.3.12 ~ H24.3.13	広島県福山市	57 名
農業の作物残留、環境中動態及び生物影響に関する研 究の現状と課題	H24.3.12 ~ H24.3.13	岡山県岡山市	30 名

3. 地域研究・普及連絡会議

会議名	開催日	開催場所	参加者数
平成 23 年度近畿地域研究・普及連絡会議	H23.11.14	メルパルク京都	40 名
平成 23 年度中国四国地域研究・普及連絡会議	H23.10.25	岡山第 2 合同庁舎	36 名

Ⅷ 主な会議等

4. 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業推進会議等

会 議 名	開催日	開催場所	参加者数
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「地球温暖化の抑制と水質保全に資する地域資源活用型農地管理技術の実証と導入促進」推進会議（研究設計会議）	H23.7.22	近農研（福山）	20名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「地球温暖化の抑制と水質保全に資する地域資源活用型農地管理技術の実証と導入促進」対策技術と窒素溶脱モデル研究会	H23.8.10	岡山大学東京サテライトオフィス（東京都中央区）	7名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「高保温性能で暖房燃料使用量を大幅に削減する次世代型パイプハウスの開発」推進会議	H23.9.20	農林水産省共済組合南青山会館（東京都港区）	12名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「複合型生物資源モニタリングを活用した広域連携周年放牧技術の開発と実証」評価推進会議（中間評価用）	H23.9.20～ H23.9.21	会議：岡山県美作県民局（岡山県津山市） 現地検討：やまなみ夢牧場、岡山県農林水産総合センター畜産研究所	18名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「持続的な農業を展開するための鳥獣害防止技術の開発」推進会議	H23.10.4	岡山交際交流センター（岡山市）	
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「鉄コーティング種子を活用した無代かき直播技術の確立」推進会議	H23.10.24	北海道立総合研究機構中央農業試験場生産研究部水田農業グループ（北海道岩見沢市）	21名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「地球温暖化の抑制と水質保全に資する地域資源活用型農地管理技術の実証と導入促進」現地研究会	H23.10.27～ H23.10.28	室内検討会：愛知県農業総合試験場東三河農業研究所（愛知県豊橋市） 現地視察：実証試験圃場（愛知県豊橋市、田原市）	15名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「地球温暖化の抑制と水質保全に資する地域資源活用型農地管理技術の実証と導入促進」検討会	H23.11.15～ H23.11.16	秋田県農林水産技術センター農業試験場大潟農場（秋田県大潟村）	7名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「地球温暖化の抑制と水質保全に資する地域資源活用型農地管理技術の実証と導入促進」検討会	H23.11.17～ H23.11.18	北海道立総合研究機構根釧路農業試験場（北海道中標津町）	10名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「持続的な農業を展開するための鳥獣害防止技術の開発」推進会議（成績・設計検討会、現地検討会）	H24.1.16～ H24.1.17	成績・設計検討会：三重県農業研究所（松阪市） 現地検討会：三重県伊勢市	
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「地球温暖化の抑制と水質保全に資する地域資源活用型農地管理技術の実証と導入促進」検討会	H24.1.18～ H24.1.19	愛知県農業総合試験場東三河農業研究所（愛知県豊橋市）	7名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「高保温性能で暖房燃料使用量を大幅に削減する次世代型パイプハウスの開発」推進会議	H24.1.26～ H24.1.27	佐藤産業(株)（福岡県宇美町）、TKP博多シティセンター（福岡市）	14名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「地球温暖化の抑制と水質保全に資する地域資源活用型農地管理技術の実証と導入促進」研究推進会議	H24.2.13	トラストシティカンファレンス・丸の内（東京都千代田区）	18名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「複合型生物資源モニタリングを活用した広域連携周年放牧技術の開発と実証」評価推進会議	H24.2.22～ H24.2.23	推進会議：ホテル喜良久（山口市） 現地検討：杵崎の里放牧利用組合（山口市）、山口県立農業大学校（山口県防府市）	27名
新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「鉄コーティング種子を活用した無代かき直播技術の確立」推進会議	H24.2.29	広島県立総合技術研究所農業技術センター（広島県東広島市）	18名

5. 現地実証等事業会議

会 議 名	開催日	開催場所	参加者数
現地実証等事業「夏秋トマト安定生産技術」関連合同現地検討会	H23.8.3～ H23.8.4	検討会：山口県農林総合技術センター（山口市） 現地視察：山口県営試験地「厳島の恵」（山口県秋市）	26名

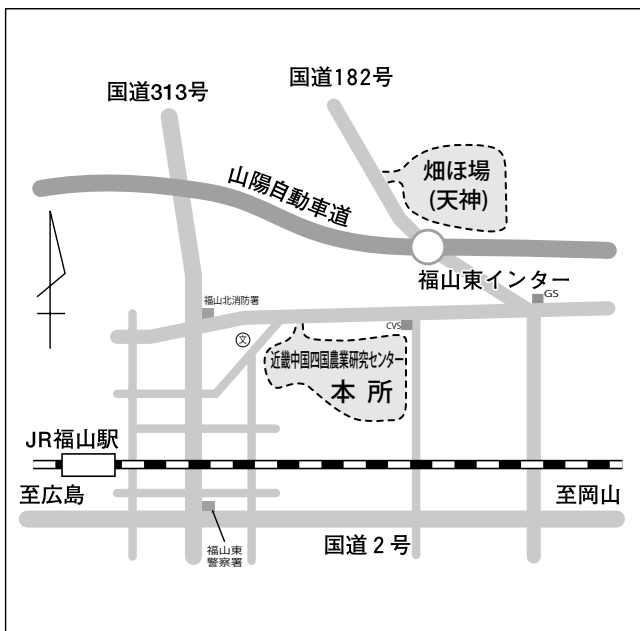
VIII 主な会議等

会 議 名	開 催 日	開 催 場 所	参加者数
高糖分飼料イネ「たちすずか」普及連絡会及び農林水産省委託プロジェクト「自給飼料を基盤とした国産畜産物の高付加価値化技術の開発（国産飼料プロ）」1系飼料稲育種チームおよび2系飼料米栽培チーム現地検討会	H23.10.18～ H23.10.19	室内検討会：とりぎん文化会館（鳥取市） 現地視察：鳥取県農林総合研究所、(株)東部コントラクター受託圃場、鳥取県畜産農業協同組合美敷牧場（鳥取市）	130名
現地実証等事業「カンキツ生産技術」関連合同現地検討会	H23.10.27～ H23.10.28	検討会：愛媛県農林水産研究所果樹研究センター（松山市） 成果報告会：松山市由良公民館（松山市） 現地視察：実証試験現地及び周辺産地（松山市）	100名
現地実証等事業「夏秋トマト安定生産技術」関連成績検討会	H24.1.30	近農研（福山）	19名
高糖分飼料イネ「たちすずか」現地実証等事業成績検討会	H24.2.27	近農研（福山）	33名
現地実証等事業「カンキツ生産技術」関連成績検討会	H24.2.29～ H24.3.1	成績検討会：近農研（四国） 現地検討会：近農研（四国）、香川県農業試験場府中果樹研究所（香川県坂出市）、実証園（高松市）	30名

6. その他会議

会 議 名	開 催 日	開 催 場 所	参加者数
農研機構シンポジウム「高品質カンキツの生産と流通に貢献する革新技術と産地における展開方向」	H23.8.24	かがわ国際会議場（高松市）	206名
高品質ウンシュウミカン生産のための「マルドリ方式」におけるかん水・施肥管理支援システム開発研究会	H23.9.15	三重県農業研究所紀南果樹研究室（三重県御浜町）、金山パイロットファーム（三重県熊野市）	30名
農研機構セミナー「野菜の土壌病虫害防除における環境保全的対策研究の最前線－病原菌の識別・定量検出、発病リスクの評価、防除技術について－」	H23.10.20	キャンパスプラザ京都（京都市）	132名
第2回根こぶ病研究会	H23.10.21	キャンパスプラザ京都（京都市）	56名

IX 所在地



【本所】(福山市)

〒 721-8514

広島県福山市西深津町 6-12-1

T E L 084-923-4100 (代)

F A X 084-924-7893

最寄駅 JR 山陽本線、JR 山陽新幹線、
JR 福塩線「福山駅」

【四国研究センター】(善通寺市)

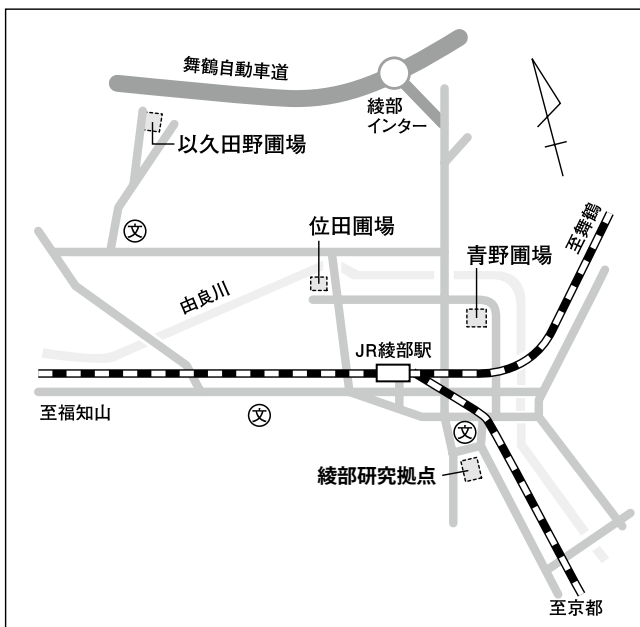
〒 765-8508

香川県善通寺市仙遊町 1-3-1

T E L 0877-62-0800 (代)

F A X 0877-63-1683

最寄駅 JR 土讃線「善通寺駅」



【綾部研究拠点】(綾部市)

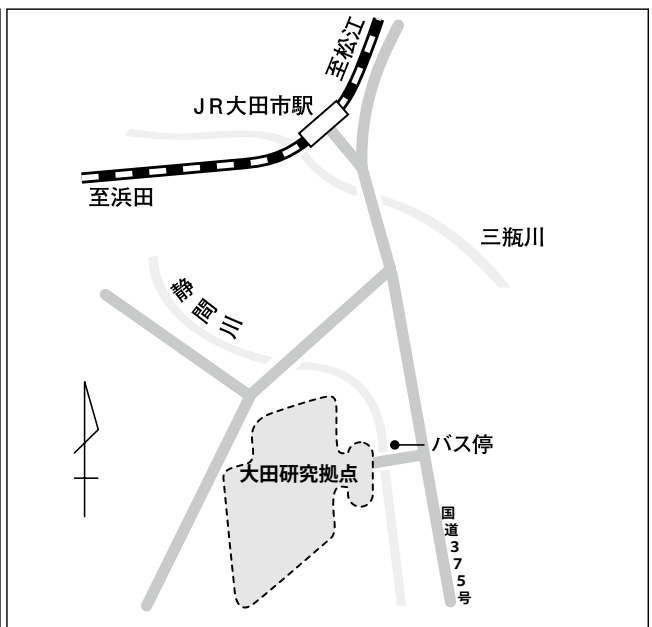
〒 623-0035

京都府綾部市上野町上野 200

T E L 0773-42-0109 (代)

F A X 0773-42-7161

最寄駅 JR 山陰本線「綾部駅」



【大田研究拠点】(大田市)

〒 694-0013

島根県大田市川合町吉永 60

T E L 0854-82-0144 (代)

F A X 0854-82-2280

最寄駅 JR 山陰本線「大田市駅」